

## 第3章 地域の概況

### 第1節 地域の概要

佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町を含む対象事業実施区域及びその周辺は、長野県の東部に位置している。

長野県は、豊かな自然環境、生物多様性を有しており、本地域は、北に浅間山（上信越高原国立公園）、南に八ヶ岳連峰を望み、蓼科山・双子山（八ヶ岳中信高原国立公園）、荒船山（妙義荒船佐久高原国立公園）に囲まれ、千曲川の支流である湯川が、北東の軽井沢町から南西へ流下し、千曲川と合流する。

気候は、典型的な内陸性気候を示す高燥冷涼地であるため、気温の較差が大きく、降水量が少ない。年間を通して晴天が多く、国内でも有数の日照時間が多い地域となっている。

地勢は、佐久市、御代田町及び小諸市の市街地を中心とした佐久盆地と対象事業実施区域の位置する小起伏山地や台地等により占められている。

対象事業実施区域及びその周辺の大部分は、耕作地や住宅からなる地域、さらに主としてカスミザクラ・コナラ群落やクリ・ミズナラ群落を主体とする落葉広葉樹林とカラマツ植林やアカマツ群落などの針葉樹林が混在する地域であり、対象事業実施区域は、畑地雑草群落やカラマツ植林により占められている。

主要交通は、首都圏との交通の要となる高速自動車国道関越自動車道上越線（以下、上信越自動車道という。）佐久 IC があるほか、一般国道 141 号及び 18 号が走っている。また、平成 23 年 3 月には、高速自動車国道中部横断自動車道（以下、中部横断自動車道という。）が佐久小諸 JCT から佐久南 IC までの区間で開通している。鉄道は、長野新幹線やしなの鉄道、JR 小海線が敷かれている。

対象事業実施区域の後背地には、市有林、佐久スキーガーデンパラダ、さらにその南には平尾山公園がある。周辺には、上平尾、横根、面替、豊昇などの集落が位置している。

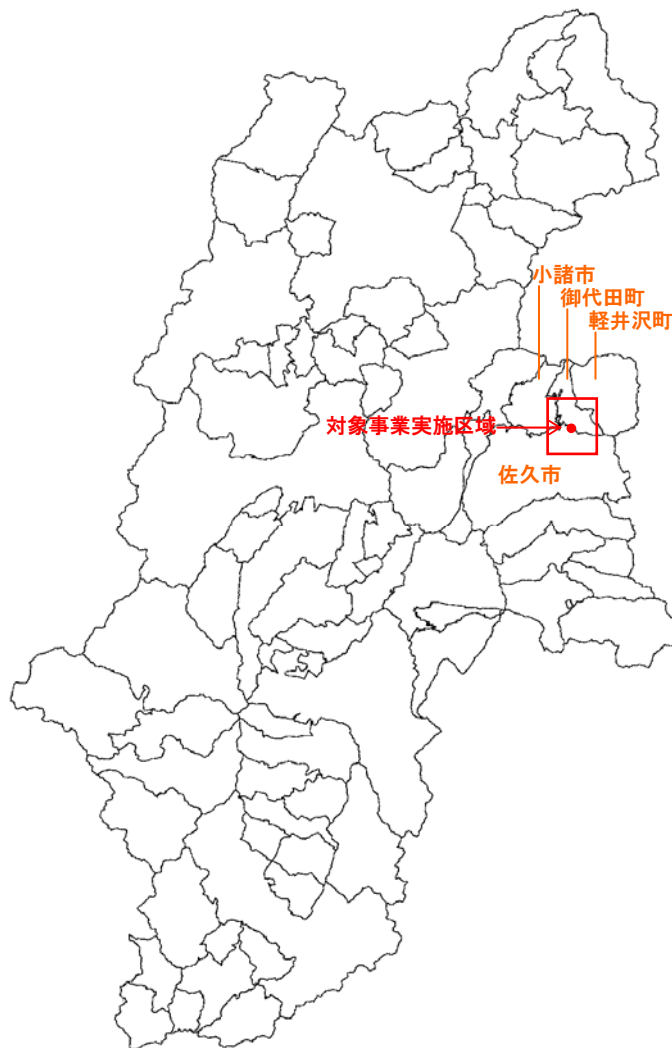


図 3-1-1 関連市町位置図

## 第2節 社会的状況

### 2-1 人口及び産業の状況

#### 1. 人口

佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町の人口及び世帯数等の状況を表3-2-1及び図3-2-1に示す。

平成26年1月1日現在の人口及び世帯数は、佐久市が99,720人、37,965世帯、御代田町が15,035人、5,918世帯、小諸市が43,177人、16,512世帯、軽井沢町が19,578人、8,556世帯である。

対前年人口増加率は、佐久市で0.20%減少、御代田町で0.94%増加、小諸市で0.65%減少、軽井沢町で1.00%増加している。平成22年からの推移を見ても、人口、世帯数とも大幅な増減はない。

人口密度は、佐久市235.2人/km<sup>2</sup>、御代田町255.8人/km<sup>2</sup>、小諸市437.6人/km<sup>2</sup>、軽井沢町125.5人/km<sup>2</sup>となっている。

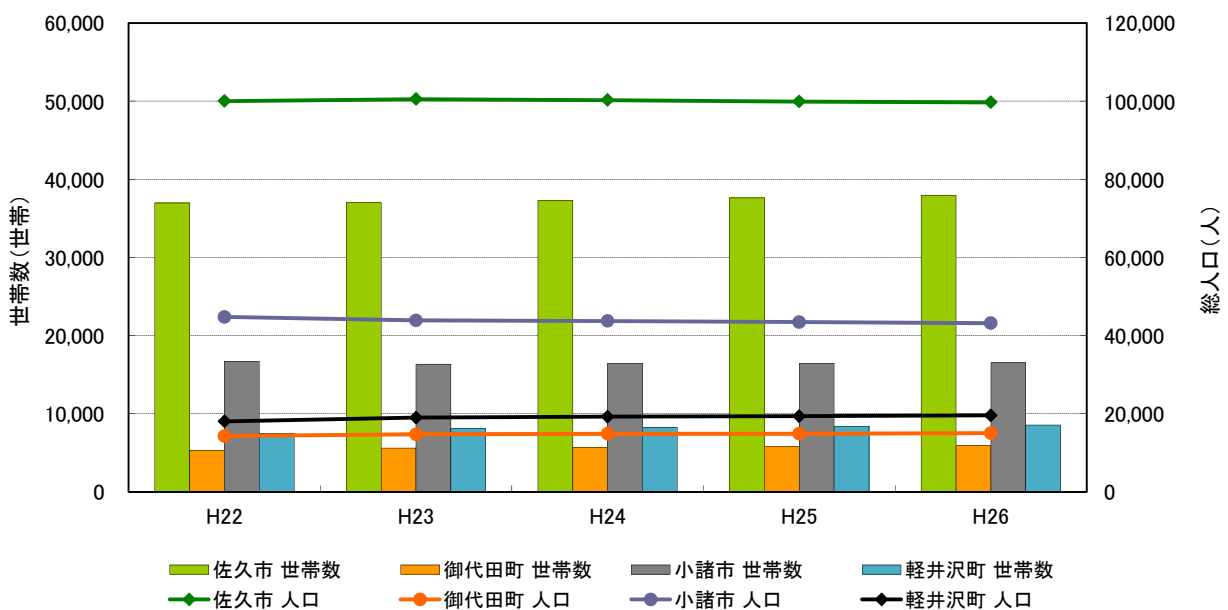
表 3-2-1 人口及び世帯数等

平成 26 年 1 月 1 日現在

区 分	世帯数 (世帯)	人口総数(人)		1世帯当たり 人口(人)	対前年人口 増加率(%)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	面積 (km <sup>2</sup> )
		前年	平成 26 年				
佐 久 市	37,965	99,917	99,720	2.6	-0.20	235.2	423.99
御代田町	5,918	14,894	15,035	2.5	0.94	255.8	58.78
小 諸 市	16,512	43,457	43,177	2.6	-0.65	437.6	98.66
軽井沢町	8,556	19,383	19,578	2.3	1.00	125.5	156.05
計	68,951	177,651	177,510	—	—	—	737.48

注) 対前年人口増加率(%) = (平成 25 年 1 月人口 - 平成 26 年 1 月人口) / 平成 26 年 1 月人口 × 100

出典：長野県ホームページ「長野県統計情報データベース—毎月人口異動調査」



出典：長野県ホームページ「長野県統計情報データベース—毎月人口異動調査」

図 3-2-1 人口・世帯数の推移

## 2. 産業

佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町の産業（大分類）別従業者数を表3-2-2に示す。

平成24年の産業（大分類）別従業者数は、佐久市、御代田町、小諸市において製造業が最も大きな割合を占め、卸売・小売業がこれに次いでいるのに対して、軽井沢町では宿泊業、飲食サービス業が最も大きな割合を占めており、次いで卸売・小売業となっている。

表 3-2-2 産業（大分類）別従業者数（平成 24 年）

区 分	佐久市		御代田町		小諸市		軽井沢町	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
総数	39,864	100.00	5,854	100.00	17,563	100.00	11,162	100.00
農業、林業	524	1.31	94	1.61	121	0.69	103	0.92
漁業	25	0.06	-	-	-	-	-	-
鉱業、採石業、 砂利採取業	23	0.06	-	-	7	0.04	-	-
建設業	3,591	9.01	357	6.10	1,249	7.11	765	6.85
製造業	9,643	24.19	2,781	47.51	4,338	24.70	197	1.76
電気・ガス・ 熱供給・水道業	144	0.36	-	-	153	0.87	11	0.10
情報通信業	262	0.66	16	0.27	126	0.72	24	0.22
運輸業、郵便業	1,154	2.89	160	2.73	916	5.22	432	3.87
卸売業・小売業	7,993	20.05	744	12.71	3,587	20.42	2,893	25.92
金融業、保険業	796	2.00	55	0.94	357	2.03	71	0.64
不動産業、 物品賃貸業	650	1.63	52	0.89	226	1.29	492	4.41
学術研究、 専門・技術サービス業	804	2.02	77	1.32	319	1.82	141	1.26
宿泊業、 飲食サービス業	3,583	8.99	423	7.23	1,662	9.46	4,252	38.09
生活関連サービス業、 娯楽業	1,861	4.67	217	3.71	776	4.42	670	6.00
教育、 学習支援業	765	1.92	44	0.75	275	1.57	126	1.13
医療、福祉	5,578	13.99	566	9.67	2,189	12.46	393	3.52
複合サービス事業	552	1.38	58	0.99	144	0.82	58	0.52
サービス業（他に分類 されないもの）	1,896	4.76	210	3.59	1,118	6.37	534	4.78

出典：総務省統計局ホームページ「平成 24 年経済センサス活動調査」

## 2-2 交通の状況

対象事業実施区域及びその周辺の主要道路網及び鉄道の状況を図3-2-2(1)に、主な駅の1日平均乗車人員を表3-2-3に示す。

高速道路は上信越自動車道が走り、中部横断自動車道がこれに接続する。上信越自動車道には佐久ICがあり、本地域と連絡している。一般国道18号は小諸方面と軽井沢方面を連絡し、一般国道141号は小諸市街方面へ連絡するほか山梨県清里方面へ南下する。

鉄道は、対象事業実施区域の北側をしなの鉄道及び長野新幹線が走り、南西側をJR小海線が走っている。最寄りの駅としては対象事業実施区域の南西側にJR小海線の岩村田駅、北側にしなの鉄道の御代田駅がある。

「平成22年度道路交通センサス」における主要道路の交通量を表3-2-4に、交通量観測地点の位置図を図3-2-2(2)に示す。

対象事業実施区域及びその周辺において最も交通量が多い地点は、高速自動車国道を除けば、地点10890（一般国道141号）で、平日の12時間交通量が16,238台となっている。これに次いで、地点40210（長野県道9号佐久軽井沢線）や地点60310（長野県道138号香坂中込線）も平日12時間の交通量が多い。平日24時間交通量もこれらと同じ順位である。

表 3-2-3 最寄りの駅における1日平均乗降車人員（平成23年度）

鉄道会社名等	駅名	1日平均乗降車人員
JR小海線	岩村田	2,422人
しなの鉄道	御代田	1,273人

出典：佐久市ホームページ「佐久市統計書－平成24年版」  
御代田町ホームページ「御代田町統計書－平成25年作成版」

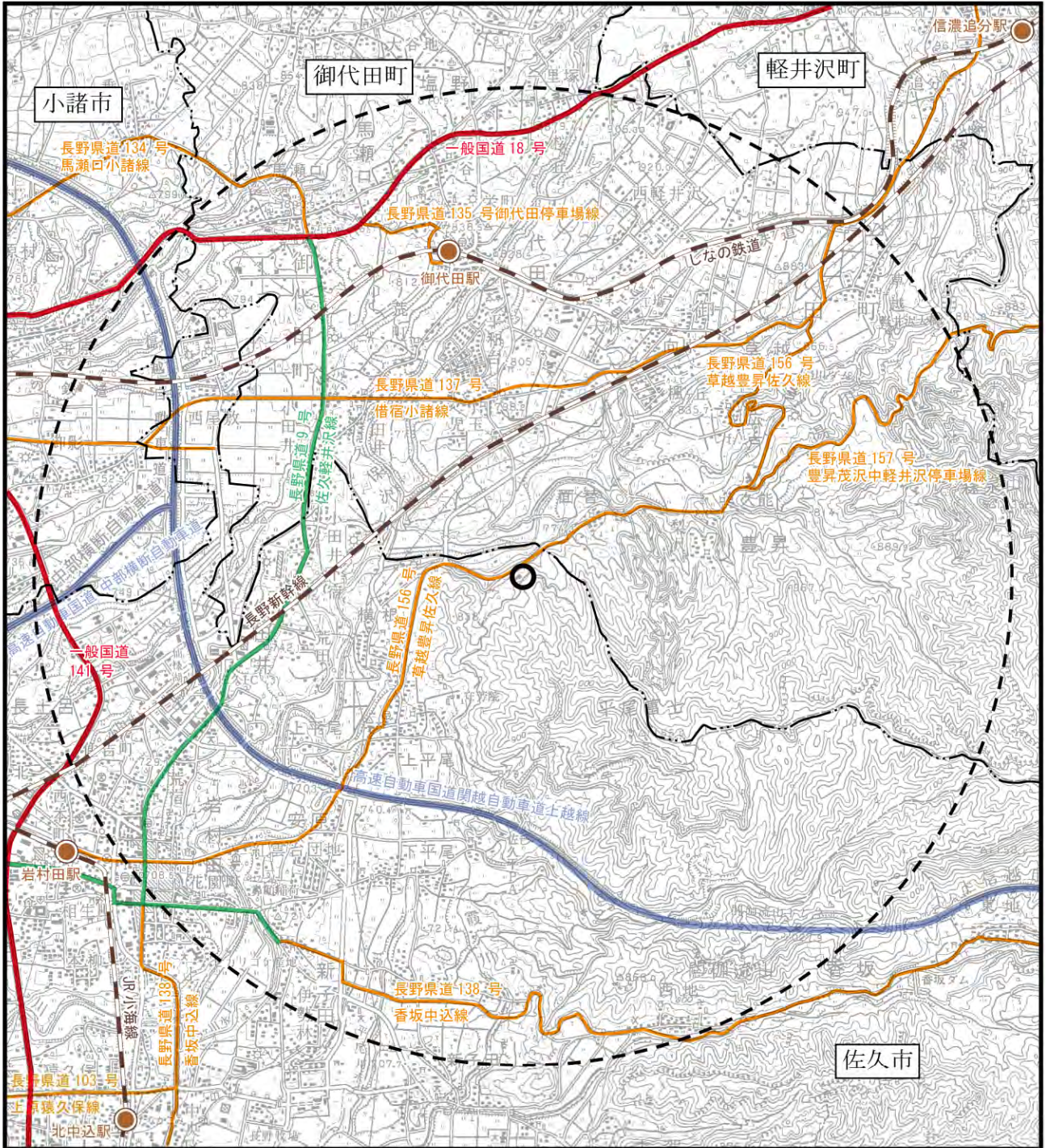
表 3-2-4 主要道路における交通量の調査結果

No.	路線名	観測地点名	12時間交通量(台)		24時間交通量(台)	
			平日	休日	平日	休日
00120	高速自動車国道関越自動車道上越線 (上信越自動車道)	碓氷軽井沢～佐久平 SIC	12,361	24,816	20,215	34,675
00130		佐久平 SIC～佐久	12,205	24,605	20,055	34,355
00140		佐久～小諸	14,565	25,707	22,066	35,115
10890	一般国道141号	小諸市御影新田	16,238	—	<b>20,947</b>	—
40210	長野県道9号佐久軽井沢線	佐久市岩村田北1丁目7(佐久IC東交差点)	15,474	—	19,385	—
40220		佐久市小田井	10,982	—	<b>14,167</b>	—
40230		佐久市岩村田北1丁目7(佐久IC東交差点)	9,347	—	11,770	—
41500	群馬県道・長野県道44号下仁田浅科線	佐久市新子田6122-1	2,778	—	<b>3,611</b>	—
42850	長野県道80号小諸軽井沢線	北佐久郡御代田町塩野3402-1	6,429	—	<b>8,036</b>	—
60280	長野県道137号借宿小諸線	北佐久郡御代田町御代田小田井	7,360	—	<b>9,494</b>	—
60300	長野県道138号香坂中込線	佐久市香坂3281-1	502	—	<b>628</b>	—
60310		佐久市猿久保890-12(駒場公園入口交差点)	12,925	—	16,126	—
60530	長野県道156号草越豊昇佐久線	佐久市上平尾967-1	7,826	—	<b>10,096</b>	—

注) 斜体文字は、交通量観測を実施した区間の交通量調査結果と平成17年度交通量を用いた国土交通省による推定値。

出典：「平成22年度道路交通センサス報告書（全国道路・街路交通情勢調査）」（平成23年12月、長野県）



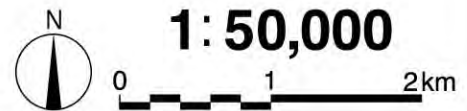


凡 例

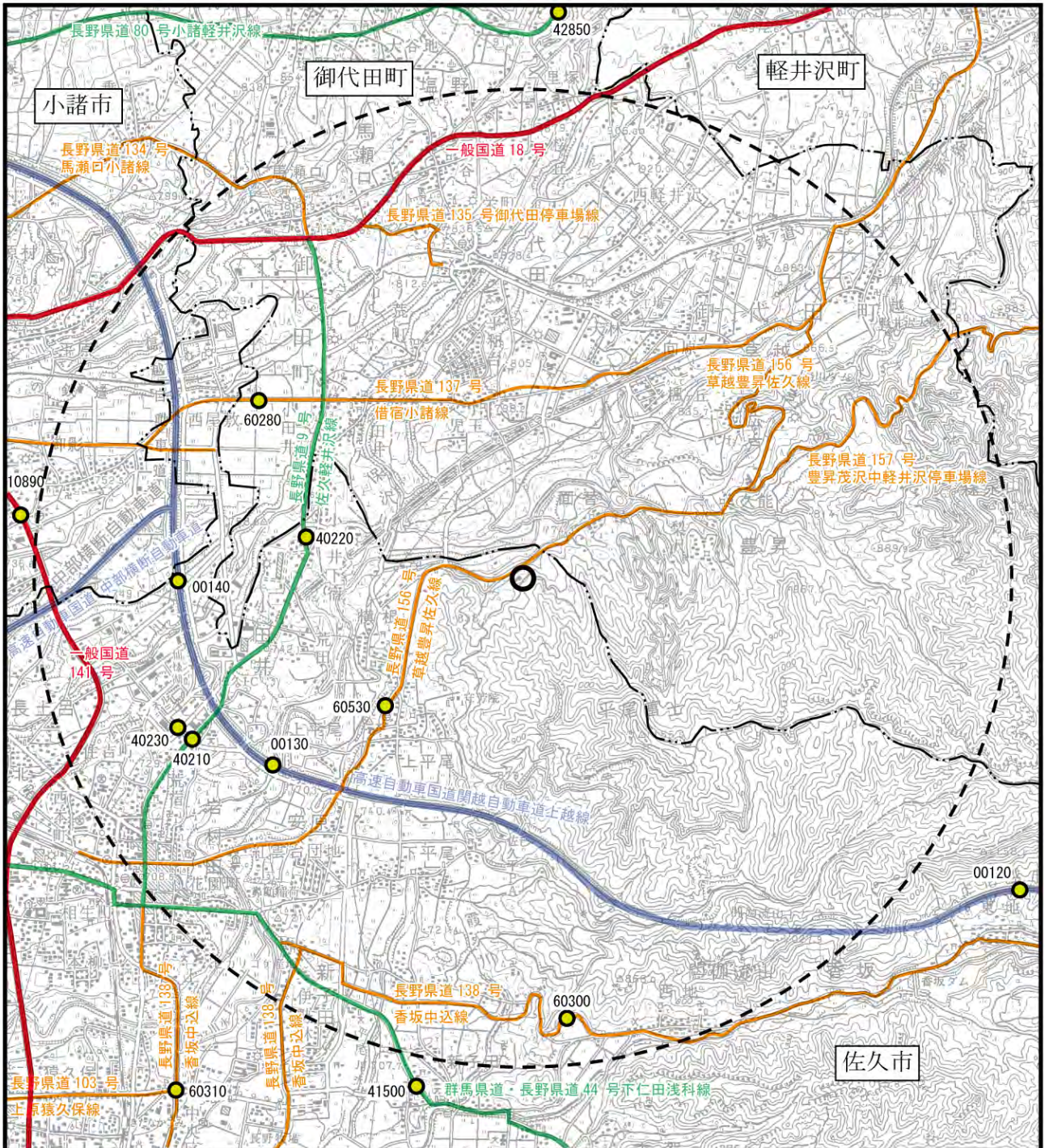
- : 対象事業実施区域
- : 関係地域範囲
- : 高速自動車国道
- : 一般国道
- : 主要地方道
- : 一般県道
- : 鉄道・駅
- : 市町界

図 3-2-2(1)

主要道路網及び鉄道の状況







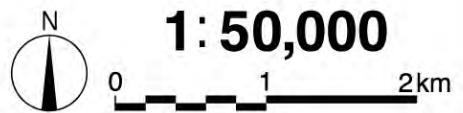
凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- (Blue) — : 高速自動車国道
- (Red) — : 一般国道
- (Green) — : 主要地方道
- (Orange) — : 一般県道
- (Yellow) : 交通量観測地点
- (Dashed) — : 市町界

図 3-2-2 (2)  
H22 道路交通センサス  
交通量観測地点

出典: 「平成 22 年度道路交通センサス報告書  
(全国道路・街路交通情勢調査)」  
(平成 23 年 12 月、長野県)

注) 平成 22 年度の調査時点の道路名・  
区分となっている





## 2-3 土地利用の状況

### 1. 土地利用

佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町の土地利用状況を表3-2-5に示す。また、現況土地利用の状況を図3-2-3に示す。

対象事業実施区域及びその周辺は山林であるが、対象事業実施区域が位置する佐久市の土地利用では山林が40.11%を占めている。

表 3-2-5 土地利用状況（平成 24 年度）

区 分		総数	田	畑	宅地	山林	原野	その他
佐 久 市	面積 (km <sup>2</sup> )	423.99	45.35	42.53	23.78	170.05	27.81	114.47
	構成比 (%)	100.00	10.70	10.03	5.61	40.11	6.56	27.00
御代田町	面積 (km <sup>2</sup> )	58.78	3.42	7.50	5.01	32.08	3.02	7.75
	構成比 (%)	100.00	5.82	12.76	8.52	54.58	5.14	13.18
小 諸 市	面積 (km <sup>2</sup> )	98.66	12.80	22.71	10.53	29.94	1.77	20.92
	構成比 (%)	100.00	12.97	23.01	10.68	30.34	1.79	21.20
軽井沢町	面積 (km <sup>2</sup> )	156.05	2.37	4.11	21.86	86.62	9.04	32.05
	構成比 (%)	100.00	1.52	2.63	14.01	55.51	5.79	20.54

出典：佐久市ホームページ「佐久市統計書－平成 24 年版」  
 御代田町ホームページ「御代田町統計書－平成 25 年作成版」  
 小諸市ホームページ「2012 年度版『統計小諸』」  
 軽井沢町「平成 25 年度軽井沢町の統計」

### 2. 都市計画区域

佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町の都市計画区域の状況を表3-2-6に、対象事業実施区域及びその周辺における用途地域の指定状況を図3-2-4に示す。

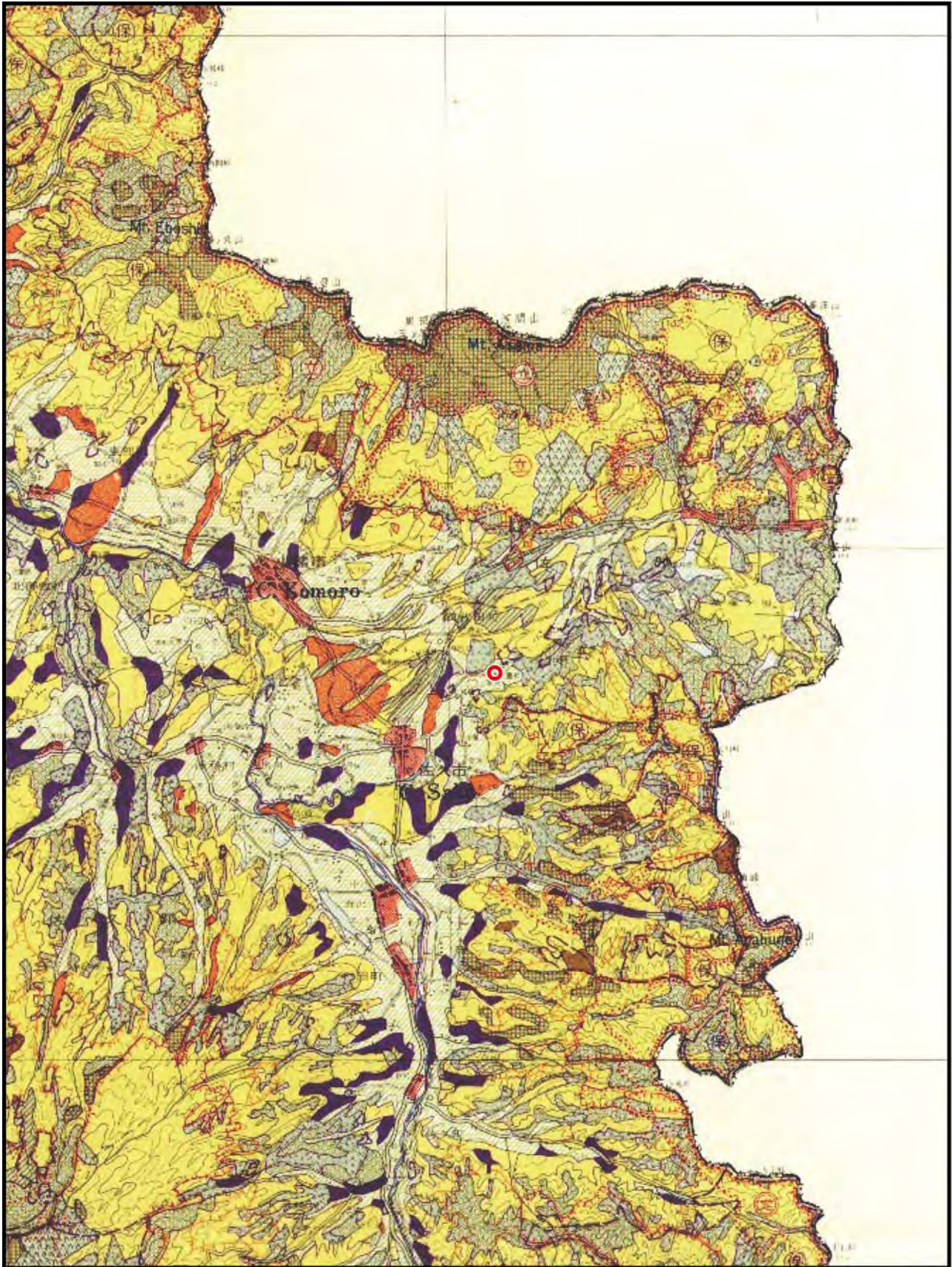
対象事業実施区域には用途地域の指定はない。

表 3-2-6 都市計画区域の状況

平成 25 年 3 月 31 日現在

都市計画区域名	最終都市計画区域 指定年月日	区 域	都市計画区域 面積 (ha)
佐 久	平成 22 年 1 月 28 日	佐久 市の一部	18,950
		御代田町の一部	1,933
小 諸	平成 12 年 5 月 8 日	小諸市の一部	7,899
軽井沢	昭和 12 年 6 月 23 日	軽井沢町の一部	8,301

出典：長野県ホームページ「2013 年 長野県の都市計画 資料編」



凡 例 (1/2)

○ : 対象事業実施区域

図 3-2-3 土地利用の状況

出典：「土地分類図（土地利用可能性文級図-土地利用現況図）長野県」（昭和 49 年、経済企画庁）

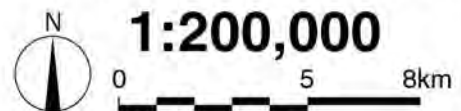




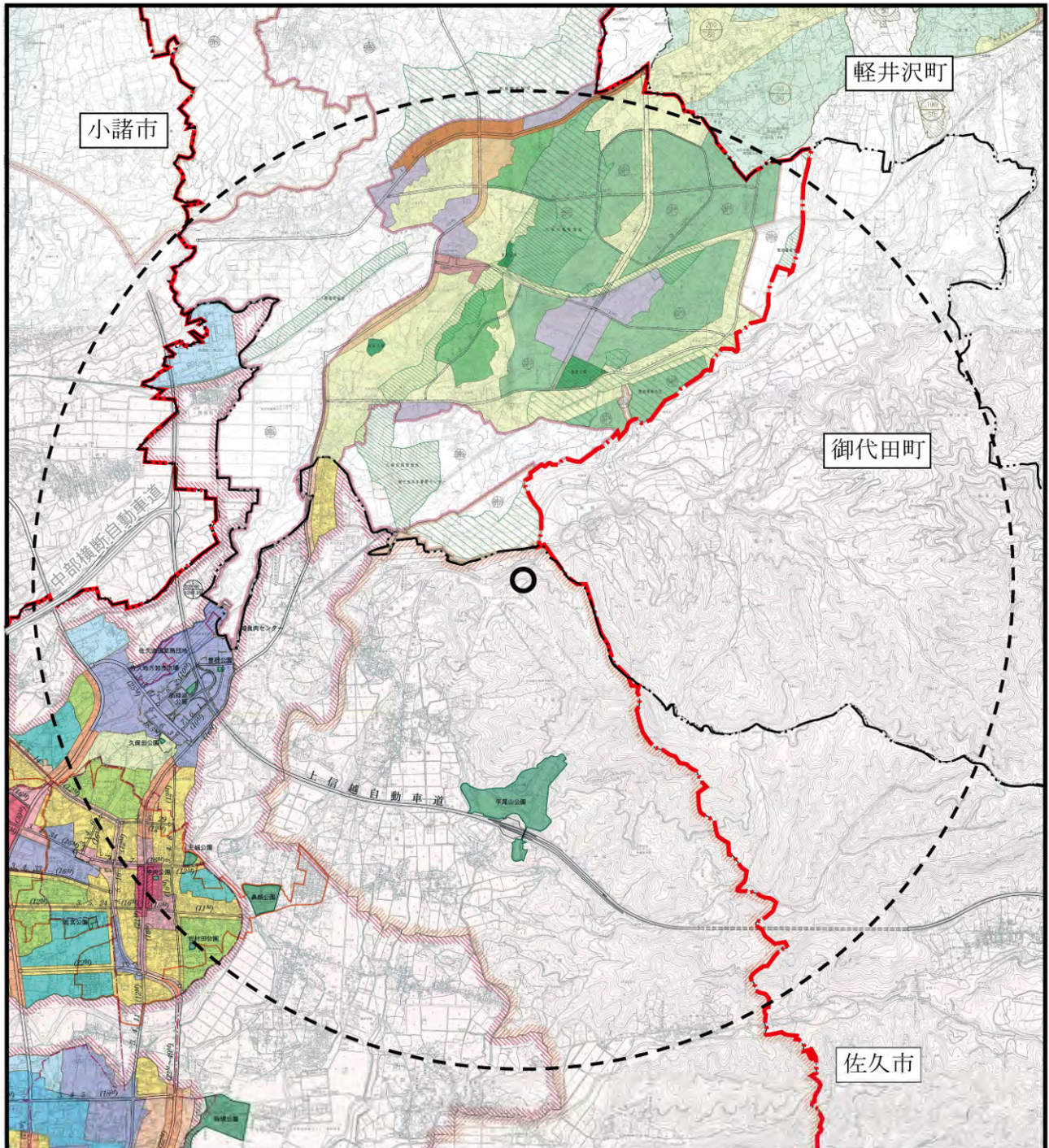
農 地	田	乾 田	
		半 湿 田	
		湿 田	
	畑	普 通 畑	
		果 樹 園	
		桑 園	
草 地	採 草 地		
	放 牧 地		
	採草放牧兼用地		
林 地	人工林	針 葉 樹	
		広 葉 樹	
	天然林	針 葉 樹	
		広 葉 樹	
		混 交 林	
	竹 林		
	未 立 木 林		
除 地			
宅 地	市街地・飛行場・その他		
付 加 記 号	国 有 林		
	公 有 林		
	保 安 林		
	国立公園	特別地域	
		普通地域	
	国定公園	特別地域	
		普通地域	
	県 立 公 園		

図 3-2-3 土地利用の状況

出典：「土地分類図（土地利用可能性文級図-土地利用現況図）長野県」（昭和49年、経済企画庁）







凡例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲

凡例・用途地域区分(御代田町)	
	都市計画区域界
	都市計画道路
	公
	その他の都市施設
	風致地区
	第一種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	第二種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	準工業地域
	用途地域指定なし

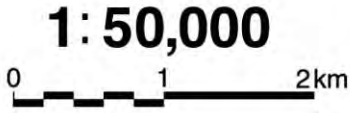
- : 都市計画区域界
- : 市町界

凡例・用途地域区分(佐久市)	
	都市計画区域界
	都市計画道路
	公
	その他の都市施設
	防火・準防火地域
	区画整理区域
	特別用途地区
	D.I.D(H17)
	第一種低層住居専用地域
	第二種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第二種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	第二種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	準工業地域
	工業専用地域
	無指定

凡例・用途地域区分(軽井沢町)	
	第一種低層住居専用地域
	第一種住居地域
	近隣商業地域
	無指定地域
	無指定地域(集落形成地域等)

図 3-2-4  
用途地域の指定状況

出典：「佐久都市計画図」(平成 22 年 10 月、佐久市)  
「佐久(御代田)都市計画図」(平成 22 年 6 月、御代田町)  
「小諸市都市計画図」(平成 24 年 3 月、小諸市)  
「軽井沢国際親善文化観光都市建設計画総括図」  
(平成 24 年 3 月、軽井沢町)





## 2-4 環境保全についての配慮が必要な施設の状況

### 1. 学校及び保育所

対象事業実施区域及びその周辺における保育園、幼稚園及び小学校等の分布状況を表3-2-7～8及び図3-2-5に示す。

佐久市の区域には保育所、幼稚園、小中学校及び高等学校が合計16施設あり、御代田町の区域には同じく7施設、小諸市の区域には保育所が1施設存在する。軽井沢町の区域にはこれらの施設はない。

表 3-2-7 対象事業実施区域周辺の保育園、幼稚園及び小中学校等

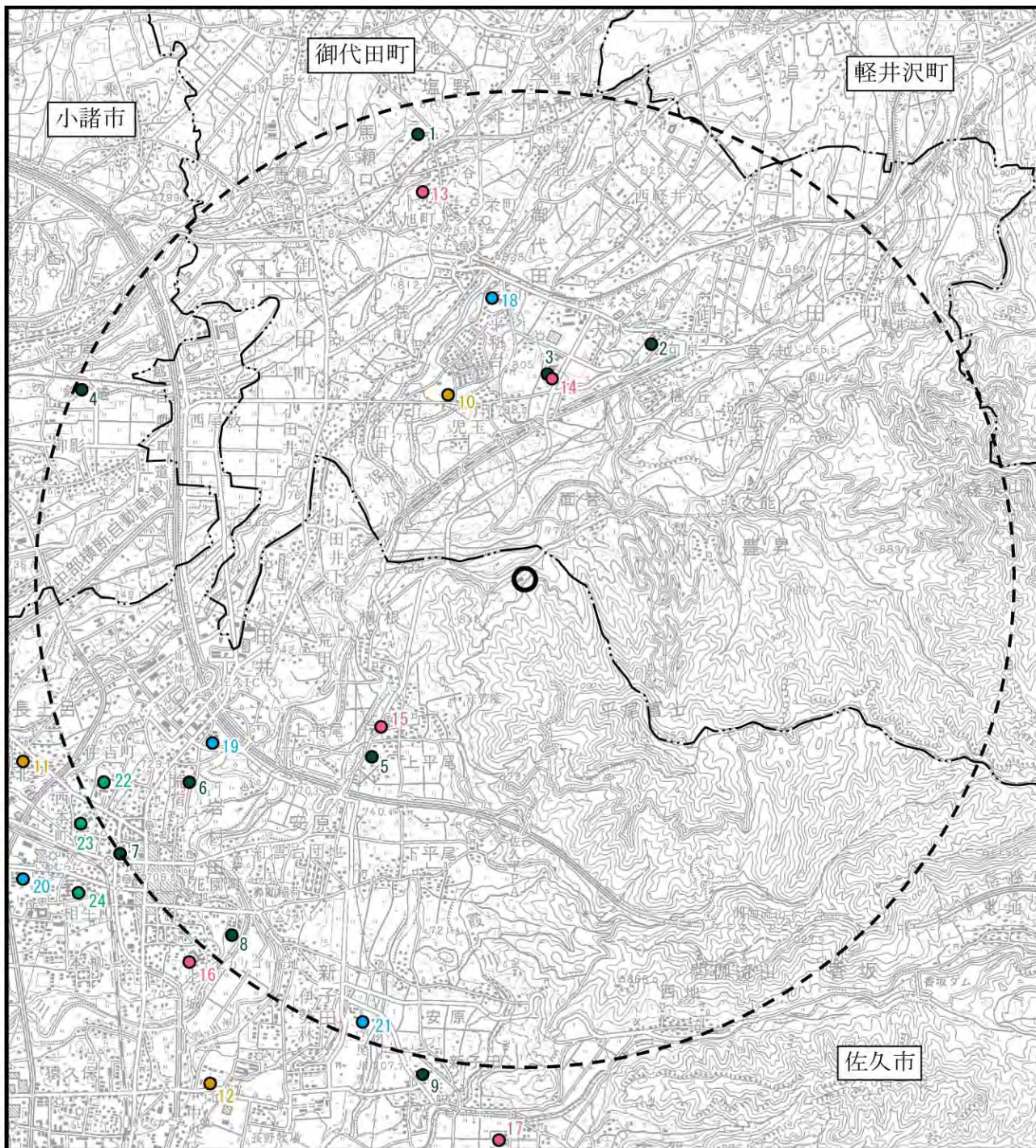
区 分	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
佐久市	5	2	3	3	3
御代田町	3	1	2	1	0
小諸市	1	0	0	0	0
軽井沢町	0	0	0	0	0

表 3-2-8 対象事業実施区域周辺の保育園、幼稚園及び小中学校等

区 分	No.	名 称	区 分	No.	名 称	
保 育 所	1	やまゆり保育園	小 学 校	13	御代田北小学校	
	2	たんぼぼ保育園		14	御代田南小学校	
	3	雪窓保育園		15	平根小学校	
	4	南保育園		16	岩村田小学校	
	5	平根保育園		17	東小学校	
	6	岩村田北保育園		中 学 校	18	御代田中学校
	7	小雀保育園	19		佐久長聖中学校	
	8	岩村田保育園	20		浅間中学校	
	幼 稚 園	9	東保育園	21	東中学校	
10			杉の子幼稚園	高 等 学 校	22	北佐久農業高等学校
11			あさま幼稚園		23	佐久長聖高等学校
12		佐久幼稚園	24		岩村田高等学校	

注) 表中の番号は図3-2-5に対応している。

出典：長野県ホームページ「長野県統合型地理情報システム」(時点情報：平成23年3月)



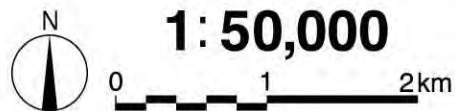
凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 保育所
- : 幼稚園
- : 小学校
- : 中学校
- : 高等学校
- : 関係地域範囲
- : 市町界

図 3-2-5

保育所、幼稚園及び小中学校等の  
分布状況

出典：長野県ホームページ  
「長野県統合型地理情報システム」  
(時点情報：平成 23 年 3 月)





## 2. 病院、診療所、社会福祉施設及び図書館

対象事業実施区域及びその周辺における病院、診療所、社会福祉施設及び図書館の分布状況を表3-2-9～11及び図3-2-6～7に示す。

佐久市の区域には病院及び診療所が合計33施設、社会福祉施設及び図書館等が合計35施設立地する。御代田町の区域には病院及び診療所が合計13施設、社会福祉施設及び図書館等が合計19施設立地する。小諸市の区域には診療所1施設、社会福祉施設3施設が立地し、軽井沢町には診療所1施設、社会福祉施設2施設存在する。

表 3-2-9 対象事業実施区域周辺の病院、診療所及び図書館等

区 分	病 院	診 療 所	社会福祉施設	児 童 館	図 書 館
佐 久 市	2	31	30	4	1
御代田町	1	12	15	3	1
小 諸 市	0	1	3	0	0
軽井沢町	0	1	2	0	0

表 3-2-10 対象事業実施区域周辺の病院及び診療所

区 分	No.	名 称	区 分	No.	名 称
病 院	1	医療法人社団御代田中央記念病院	診 療 所	25	いわま歯科クリニック
	2	医療法人三世会金澤病院		26	佐久平整形外科クリニック
	3	佐久市立国保浅間総合病院		27	佐久平ファミリークリニック内科・消化器科
診 療 所	4	追分クリニック		28	荻原医院
	5	きらく苑診療所		29	零田歯科医院
	6	宮下内科循環器科クリニック		30	ぱーる歯科
	7	医療法人井田医院		31	塩川歯科医院
	8	中山歯科クリニック		32	竹内歯科医院
	9	歯科中島医院		33	なかむら歯科
	10	医療法人聖清会林歯科診療所		34	阿部歯科医院
	11	佐々木歯科医院		35	デンタルクリニック夏帆
	12	コスモス歯科		36	土屋歯科医院
	13	ミネベア診療所		37	医療法人優和会角田医院分院
	14	みよたファミリークリニック		38	しのはら形成・皮ふクリニック
	15	TDK(株)千曲川テクノ工場診療所 TDK(株)千曲川テクノ工場歯科診療所		39	佐久平透析クリニック
	16	鈴木歯科医院		40	医療法人社団一英会佐久平センター歯科
	17	佐久広域老人ホーム豊昇園診療所		41	いまいレディースクリニック
	18	東小諸クリニック		42	さとう泌尿器科クリニック
	19	佐久平ハートケアクリニック		43	まつざきクリニック
	20	佐久長土呂クリニック		44	特別養護老人ホーム佐久福寿園診療所
	21	檜山歯科医院		45	医療法人伸成会高見澤歯科医院
	22	佐久インターアイクリニック		46	みついくクリニック
	23	佐久国民健康保険平尾診療所		47	小松耳鼻咽喉科クリニック
	24	おぎむら歯科医院		48	TDK(株)浅間テクノ工場診療所

注) 表中の番号は図 3-2-6 に対応している。

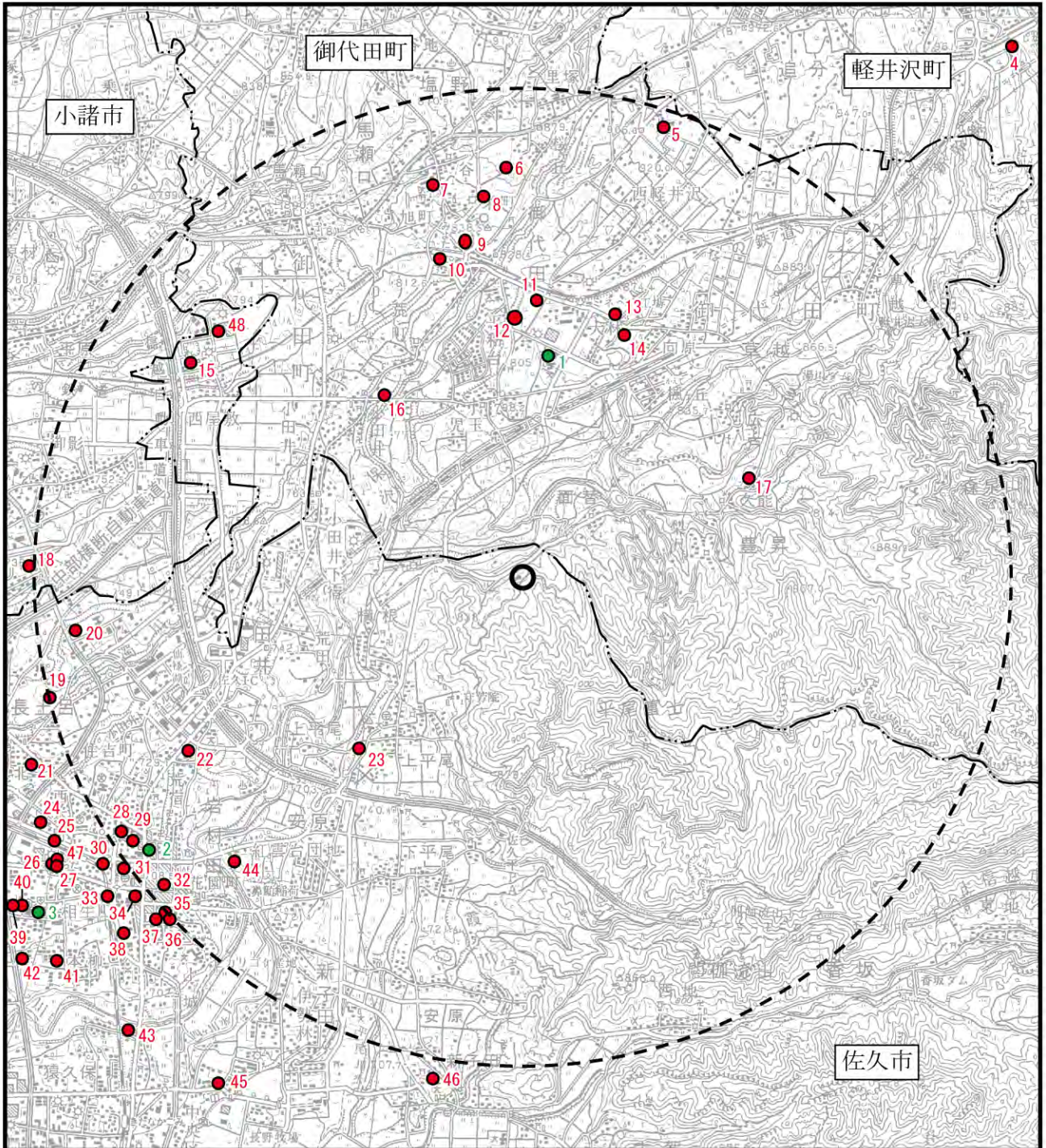
出典：長野県ホームページ「長野県統合型地理情報システム」(時点情報：平成 24 年 2 月)

表 3-2-11 対象事業実施区域周辺の社会福祉施設及び図書館等

区分	No.	名称	区分	No.	名称	
社会福祉施設	1	軽井沢治育園	社会福祉施設	29	訪問看護ステーション岩村田	
	2	有料老人ホームことぶきの家(軽井沢)		30	佐久市岩村田在宅介護支援センター	
	3	きらく苑		31	佐久市岩村田デイサービスセンター	
	4	宅老所たっちゃん家		32	訪問看護ステーションつぼみ	
	5	ニチイケアセンターみよた		33	障害児通園施設かしの実園	
	6	宅老所のぞみが丘		34	デイサービスセンター茜	
	7	有料老人ホームひまわり		35	サガラシルバーハウス	
	8	宅老所さくちゃん家		36	居宅介護支援事業所どんぐり	
	9	やまゆり共同作業所		37	ケアホーム浅間	
	10	御代田町地域包括支援センター		38	佐久市老人福祉センター「長寿閣」	
	11	訪問看護ステーション御代田		39	グループホーム佐久・新子田の家	
	12	グループホームみよた		40	佐久市みついデイサービスセンター	
	13	社会福祉法人御代田社会福祉協議会ハートピアみよた		41	シルバーランドみつい	
	14	豊昇園		42	佐久市みつい在宅介護支援センター	
	15	障害福祉サービス事業所(生活介護)小諸みかげ		43	訪問看護ステーションあさま	
	16	障害福祉サービス事業所(就労継続支援 B型)小諸みかげ		44	佐久福寿園	
	17	宅幼老所野いちご		45	ケアホームさくちゃん家	
	18	ケアライフ「礎」		46	有料老人ホームことぶきの家(御代田)	
	19	愛の郷		47	アンの家有料老人ホーム	
	20	萬里の郷		48	やまゆりの園	
	21	有料老人ホームさくら		49	佐久市介護老人保健施設みすず苑	
	22	特定非営利活動法人たんと		50	佐久平高原白桃苑	
	23	宅幼老所ながとろ		児童館	51	御代田町東原児童館
	24	ケアホームどんぐり			52	御代田町大林児童館
	25	ケイジン訪問看護ステーション長土呂			53	御代田町平和台児童館
	26	グループホームあかり			54	小田井児童館
	27	ニチイケアセンター佐久			55	岩村田児童館
	図書館	28			岩村田・東地域包括支援センター	56
57			平根児童館			
			図書館	58	御代田町立図書館	
				59	佐久市立中央図書館	

注) 表中の番号は図 3-2-6 に対応している。

出典：長野県ホームページ「長野県統合型地理情報システム」(時点情報：平成 21 年 9 月)  
佐久市・御代田町資料



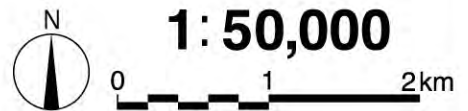
凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- : 病院
- : 診療所

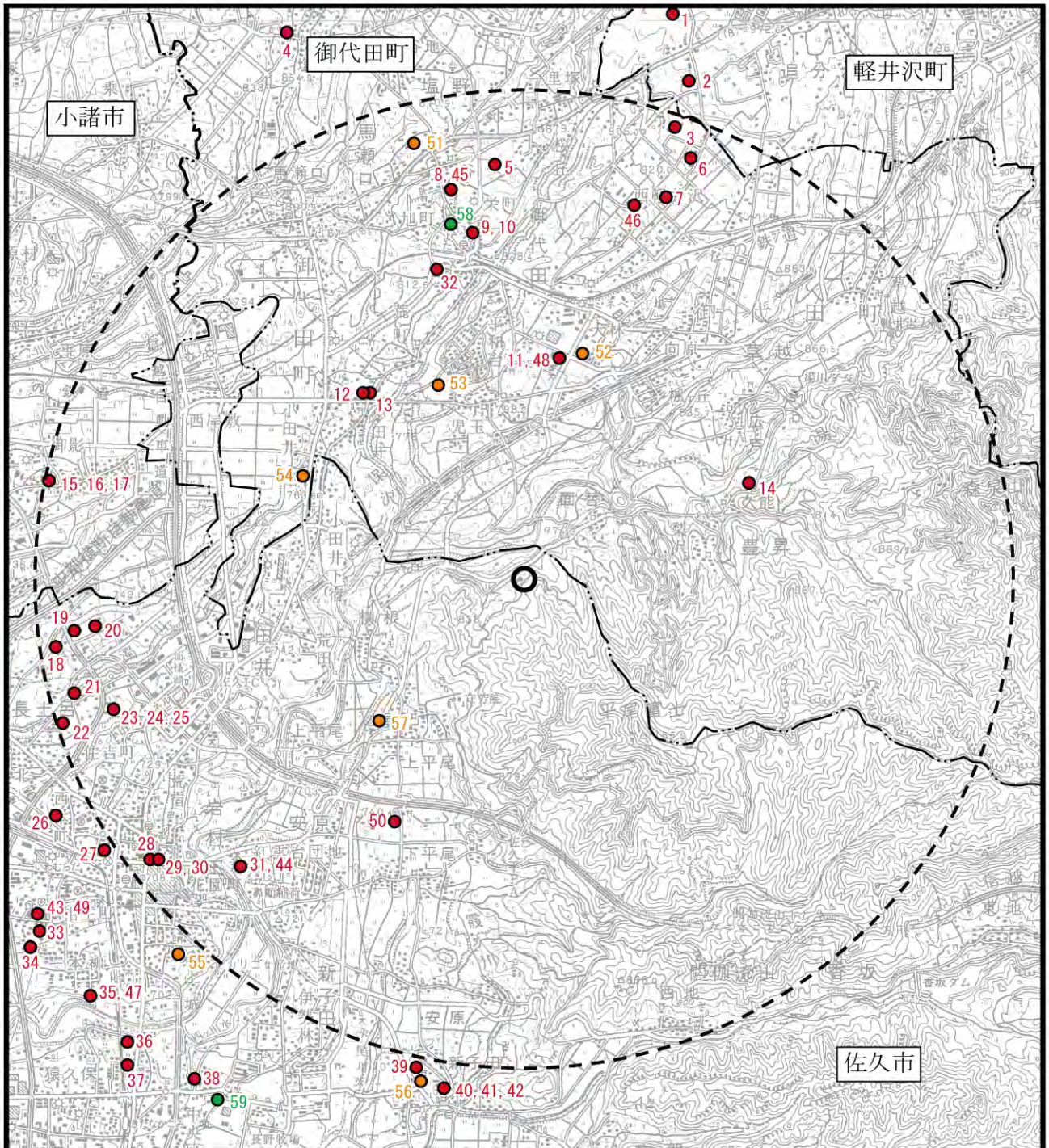
— — — : 市町界

図 3-2-6  
病院及び診療所の分布状況

出典：長野県ホームページ  
「長野県統合型地理情報システム」  
(時点情報：平成 24 年 2 月)







凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- : 社会福祉施設
- : 児童館
- : 図書館

— — — : 市町界

図 3-2-7

社会福祉施設及び図書館等の分布  
状況

出典：長野県ホームページ  
「長野県統合型地理情報システム」  
(時点情報：平成 21 年 9 月)  
佐久市・御代田町資料



## 2-5 水域の利用状況

### 1. 河川、湖沼及び地下水の利用状況

#### 1) 水道水源としての利用状況

佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町の給水人口及び普及率を表3-2-12に、上水道、簡易水道及び専用水道の利水状況を表3-2-13に示す。

また、対象事業実施区域及びその周辺の水源の状況を図3-2-8に示す。

佐久市では、佐久水道企業団により浅井戸水、深井戸水及び湧水を取水源として上水を利用している。御代田町では、佐久水道企業団の他、しなの鉄道線以北では町営水道により給水されており、水源は伏流水及び地下水となっている。

対象事業実施区域から半径4kmの範囲内には、御代田町に久能水源及び重の久保川水源がある。

表 3-2-12 給水人口及び普及率（平成 24 年 3 月 31 日現在）

区分	行政区域内 総人口(人)	現在給水人口(人)				普及率 (%)
		上水道	簡易水道	専用水道 自己水源のみ	合計	
佐久市	99,913	95,296	4,348	—	99,724	99.8
		—	80	—		
御代田町	14,851	7,831	6,410	—	14,478	97.5
		—	—	237		
小諸市	43,631	41,564	1,830	—	43,394	99.5
		—	—	—		
軽井沢町	19,249	18,249	—	—	19,114	99.3
		—	688	177		

注) 現在給水人口の欄は、上段が公営、下段がその他を示す。

出典：長野県ホームページ「平成 23 年度 長野県の水道」

表 3-2-13 (1) 利水状況—上水道（平成 24 年 3 月 31 日現在）

事業体名	年間取水量 (千 m <sup>3</sup> )									
	地表水			地下水				原水 受水	浄水 受水	計
	ダム	湖沼水	河川水	伏流水	浅井戸	深井戸	湧水			
佐久水道 企業団	0	0	0	0	1,620	4,883	6,524	0	2,645	15,672
小諸市	0	0	0	0	0	2,443	3,254	0	2,638	8,335
軽井沢町	0	0	1,777	0	0	1,525	1,519	0	999	5,820

出典：長野県ホームページ「平成 23 年度 長野県の水道」

表 3-2-13 (2) 利水状況－簡易水道（平成 24 年 3 月 31 日現在）

市町村	事業名	年間取水量 (m <sup>3</sup> )									
		地表水			地下水			原水 受水	浄水 受水	その他 湧水等	計
		ダム	湖沼水	河川水	伏流水	浅井戸	深井戸				
佐久市	香坂東地	0	0	0	0	0	11,374	0	0	14,640	26,014
	西山	0	0	0	0	0	63,686	0	0	0	63,686
	布施	0	0	0	0	0	201,300	0	0	18,300	219,600
	長者原	0	0	0	0	0	0	0	0	32,940	32,940
	望月北御牧	0	0	0	0	0	246,613	0	0	245,910	492,523
	うぐいすの森自治会	0	0	0	0	0	26,000	0	0	0	26,000
御代田町	御代田町	0	0	0	0	0	0	0	472,051	0	472,051
	小沼	0	0	0	137,182	0	502,761	0	0	0	639,943
小諸市	菱野	0	0	0	0	0	0	0	0	131,570	131,570
	御牧ヶ原	0	0	233,707	0	0	149,544	0	0	0	383,251
軽井沢町	高瀬沢	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000	1,000
	丸紅南軽井沢	0	0	0	0	0	57,952	0	0	0	57,952
	太陽の森	0	0	0	0	0	24,000	0	0	0	24,000
	離山	0	0	0	0	0	0	1,220	0	0	1,220
	軽井沢湖畔保養地	0	0	0	0	0	31,761	0	0	0	31,761
	千ヶ滝	0	0	0	1,881,271	0	0	108,693	0	121,550	2,111,514
	三井不動産中軽井沢別荘地	0	0	0	0	0	0	0	0	8,900	8,900
	太平洋興発軽井沢別荘地	0	0	0	0	0	0	0	0	14,903	14,903
	八風の郷	0	0	69,350	0	0	1,825	0	0	0	71,175
土屋別荘地	0	0	0	0	0	13,500	0	0	0	13,500	
旧軽井沢倶楽部	0	0	0	0	0	0	0	0	6,678	6,678	

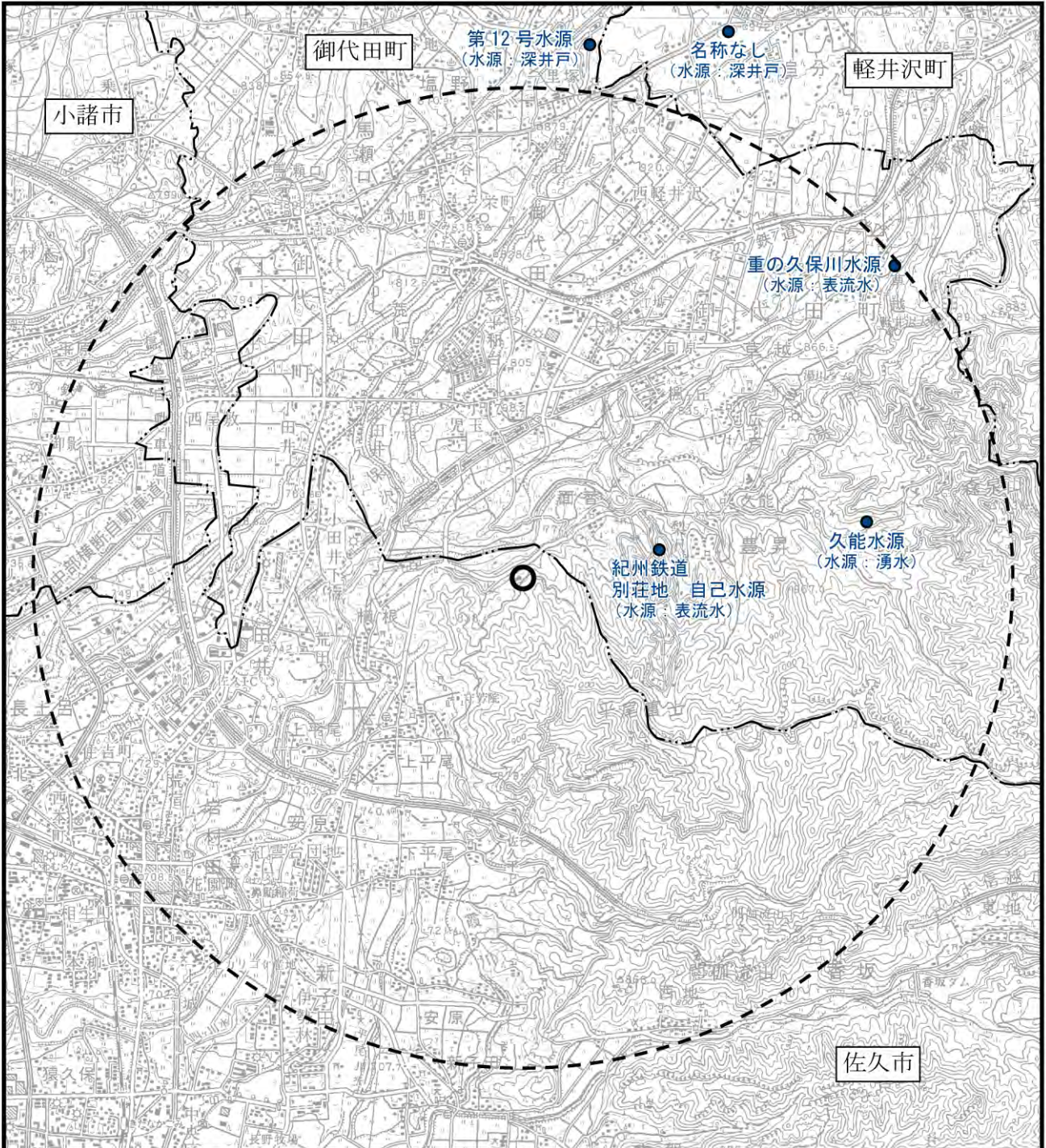
出典：長野県ホームページ「平成 23 年度 長野県の水道」

表 3-2-13 (3) 利水状況－専用水道（平成 24 年 3 月 31 日現在）

市町村	施設名	設置者名	確認 年月日	給水人口(人)		施設能力 (m <sup>3</sup> /日)	原水の種別
				確認時	現在		
佐久市	佐久高原	佐久水道企業団	S47.3.6	5,000	0	750	湧水
	長野県望月少年自然の家	長野県	S51.4.22	300	0	30	深井戸
御代田町	森泉郷別荘地	リゾートトラスト(株)	S44.10.14	5,000	237	1,000	表流水
小諸市	—	—	—	—	—	—	—
軽井沢町	星野リゾート	星野リゾート	H23.10.27	866	20	1,000	湧水
	レイクニュータウン	レイクニュータウン	H23.10.27	4,800	62	600	表流水・深井戸
	せせらぎの森	せせらぎの森	H23.10.25	1,600	4	300	表流水
	三笠パーク	三笠パーク	H23.10.24	2,500	33	150	深井戸
	香泉殖産(株)	香泉殖産(株)	H23.10.27	750	12	200	深井戸
	軽井沢休暇村別荘地	軽井沢休暇村別荘地	H23.11.1	150	5	120	深井戸
	三笠別荘分譲地	三笠別荘分譲地	H23.10.21	167	0	41	受水のみ
	(株)プリンスホテル矢ヶ崎	(株)プリンスホテル	H23.10.31	300	40	5,904	深井戸・湧水
	ふれあいの郷	ふれあいの郷	H23.10.26	224	20	75	表流水
	エクシブ軽井沢	エクシブ軽井沢	H23.10.28	1,000	0	550	深井戸
	リベライン軽井沢	リベライン軽井沢	H23.10.25	530	14	148	深井戸
ベルジュール軽井沢	ベルジュール軽井沢	H23.10.31	472	8	120	深井戸	

出典：長野県ホームページ「平成 23 年度 長野県の水道」





凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- : 水源地

— : 市町界

図 3-2-8

水源地の分布状況

出典：長野県ホームページ  
「長野県統合型地理情報システム」  
(時点情報：平成 24 年 3 月)  
現地踏査結果



1:50,000

0 1 2km

## 2) 地下水の利用状況

地下水について、対象事業実施区域のある佐久市では、平成24年6月議会において、地下水の保全に関し、基本理念及びその実現を図るために基本となる「佐久市地下水保全条例」が制定された。同条例では、井戸の設置及び地下水採取の規制を行う区域を佐久市内全域としており、井戸設置や地下水採取の届出、指導について定められ、平成25年1月に施行された。

対象事業実施区域周辺では、複数の井戸利用があることが確認されている。

## 2. 河川、湖沼及び地下水の利用状況

対象事業実施区域の北側を流れる湯川の本支流には、第5種共同漁業権が設定されており、佐久漁業協同組合が免許を受けている。

漁業権魚種は、あゆ、こい、ふな、いわな、やまめ、にじます、うぐい、おいかわ、かじか、うなぎの10種類である。



## 2-6 環境整備の状況

### 1. 下水道の普及状況

佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町における下水道等の普及状況を表3-2-14に示す。軽井沢町以外では、汚水処理人口普及率は9割を超えている。

表 3-2-14 下水道の普及状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

区分	行政人口 (千人)	普及率 (%)			
		下水道	農業集落排水	浄化槽	計
佐久市	100.2	67.4	11.3	17.6	96.4
御代田町	15.4	84.3	3.7	7.7	95.7
小諸市	43.7	65.3	21.4	11.8	98.5
軽井沢町	19.8	49.9	3.3	26.1	79.3

出典：長野県ホームページ「NAGANO『生活排水データ集』2013」

### 2. 廃棄物処理の状況

#### 1) ごみ処理

佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町の現有施設の概要を表3-2-15に示す。

また、これら2市2町及び本事業の計画処理区域内の市町村におけるごみ処理量を表3-2-16及び図3-2-9に示す。

御代田町の可燃ごみ処理は、平成14年11月末に小諸市と共同処理を行っていた浅麓クリーンセンターが閉鎖されたことから、同センター閉鎖後は廃棄物処理専門業者による委託処理が行われてきた。

小諸市では、小諸都市計画ごみ処理施設を決定し、平成24年1月24日付け小諸市告示第5号で告示している。

表3-2-15 (1) 現有施設の概要（ごみ焼却施設）

設置主体	佐久市・軽井沢町清掃施設組合	川西保健衛生施設組合
施設名	佐久クリーンセンター	川西清掃センター
所在地	佐久市中込 2880 番地	佐久市望月 2114 番地 4
処理する廃棄物	可燃ごみ	可燃ごみ
処理方式	全連続燃焼方式 (流動床炉)	機械化バッチ燃焼方式 (パーティカル式)
処理能力	120 トン/日 (60 トン/24 時×2 炉)	20 トン/日 (10 トン/10 時×2 炉)
竣工年度	昭和 58 年度	昭和 56 年度
備考	平成 12 年度～14 年度 排ガス高度処理施設整備	平成 11 年度～12 年度 排ガス高度処理施設整備

出典：「佐久地域循環型社会形成推進地域計画」（平成 23 年 8 月 改正平成 24 年 1 月及び平成 25 年 9 月、佐久市・軽井沢町・立科町・御代田町・小海町・佐久穂町・川上村・南牧村・南相木村・北相木村）

表3-2-15 (2) 現有施設の概要 (資源化処理施設、粗大ごみ処理施設、不燃ごみ処理施設、汚泥再生処理センター)

設置主体	佐久市	佐久市	軽井沢町
施設名	佐久市うな沢第2最終処分場 容器包装リサイクル施設	佐久市堆肥製産 センター	軽井沢町じん芥処理場
所在地	佐久市横根 970 番地他	佐久市白田 2915 番地 4	軽井沢町大字発地 1140 番地 2
処理する 廃棄物	軟質系プラスチック類	生ごみ、家畜ふん尿等	粗大ごみ、ガラス・陶磁器、缶類、 ペットボトル、プラスチック容器包装
処理方式	圧縮梱包方式	堆肥化	圧縮・破砕・選別・梱包
処理能力	4.5 トン/日	13 トン/日	粗大ごみ処理施設：10トン/日 ガラス・陶磁器処理施設：2トン/日 缶処理施設：4トン/日 ペットボトル処理施設：1トン/日 プラスチック容器包装処理施設：1トン/日
竣工年度	平成 14 年度	平成 13 年度	粗大ごみ処理施設：平成11年度 ガラス・陶磁器処理施設：昭和59 年度 缶処理施設：平成11年度 ペットボトル処理施設：平成11年度 プラスチック容器包装処理施設：平成 20 年度

設置主体	川西保健衛生施設組合	川西保健衛生施設組合	浅麓環境施設組合
施設名	粗大ごみ処分施設	川西清掃センター 不燃物処理施設	浅麓汚泥再生処理センター
所在地	佐久市望月 2179 番地 18 他	佐久市望月 2114 番地 4	小諸市甲 1845 番地
処理する 廃棄物	粗大ごみ	ガラス類、陶器類、金属類	し尿、浄化槽汚泥、下水汚泥、生 ごみ
処理方式	破砕	圧縮・破砕	高負荷脱窒素処理等
処理能力	二軸せん断：4.7 トン/日	ガラス破砕機：32 トン/日 金属プレス機：8 トン/日	し尿：74kl/日 浄化槽汚泥：49kl/日 下水汚泥：33トン/日 生ごみ：19トン/日
竣工年度	平成 13 年度	昭和 56 年度	平成 18 年度

出典：「佐久地域循環型社会形成推進地域計画」(平成 23 年 8 月 改正平成 24 年 1 月及び平成 25 年 9 月、佐久市・軽井沢町・立科町・御代田町・小海町・佐久穂町・川上村・南牧村・南相木村・北相木村)

表3-2-15 (3) 現有施設の概要 (最終処分場)

設置主体	佐久市	佐久市	川西保健衛生施設組合	御代田町
施設名	佐久市うな沢第2 最終処分場	佐久市宇とう南沢 処理場	川西一般廃棄物最終 処分場	御代田町井戸沢 一般廃棄物最終処分場
所在地	佐久市横根 970 番地他	佐久市中込 2865 番地	佐久市望月 2179 番地 18 他	御代田町大字御代田 2712 番地 1
施設の種類	管理型最終処分場	安定型最終処分場	管理型最終処分場	管理型最終処分場
埋立対象物	不燃ごみ 焼却残渣 (主灰)	不燃ごみ	焼却残渣 (主灰)、不燃 ごみ、破砕処理残渣等	不燃ごみ 粗大ごみ
埋立容量	148,000m <sup>3</sup>	241,920m <sup>3</sup>	39,000m <sup>3</sup>	30,670m <sup>3</sup>
しゃ水工	有り	無し	有り	有り
竣工年度	平成 14 年度	昭和 54 年度	平成 4 年度	平成 8 年度

出典：「佐久地域循環型社会形成推進地域計画」(平成 23 年 8 月 改正平成 24 年 1 月及び平成 25 年 9 月、佐久市・軽井沢町・立科町・御代田町・小海町・佐久穂町・川上村・南牧村・南相木村・北相木村)

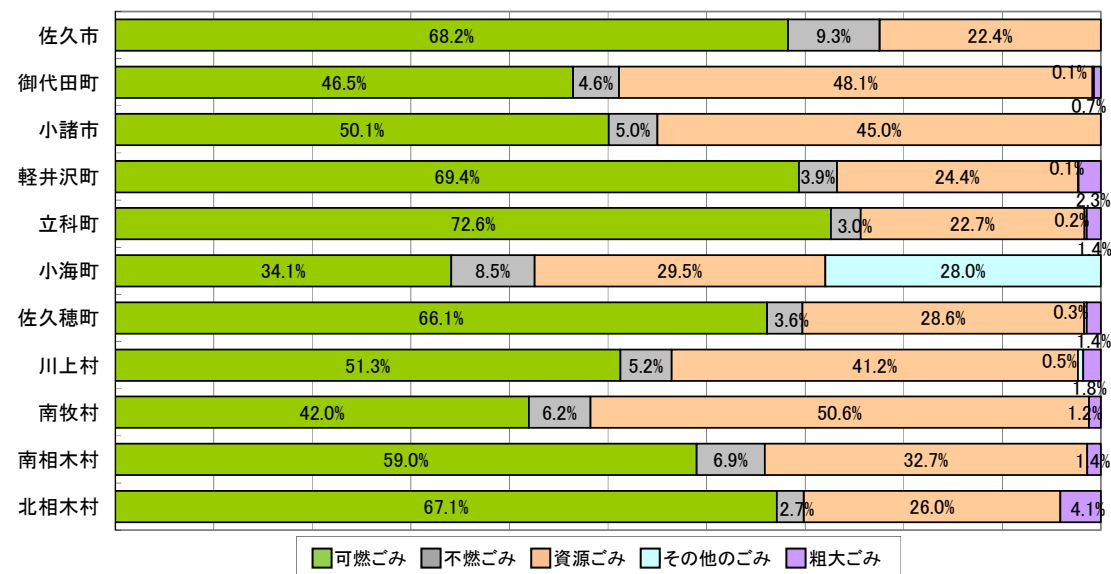
設置主体	小諸市
施設名	小諸市野火附埋立処分場 (第 3 期)
所在地	小諸市大字御影新田 478-3
埋立開始	平成 16 年度
埋立面積	5,400m <sup>2</sup>
処理対象廃棄物	焼却残渣 (主灰)、不燃ごみ、焼却残渣 (飛灰)、 破砕ごみ・処理残渣
遮水方式	底部遮水工

出典：環境省ホームページ「廃棄物処理技術情報—一般廃棄物処理実態調査結果 (平成 23 年度調査結果)」

表3-2-16 ごみ処理量（平成23年度実績）

区 分	佐久市		御代田町		小諸市		軽井沢町		立科町		小海町			
	生活系 (t)	事業系 (t)	生活系 (t)	事業系 (t)	生活系 (t)	事業系 (t)	生活系 (t)	事業系 (t)	生活系 (t)	事業系 (t)	生活系 (t)	事業系 (t)		
ごみ搬入量	計画収集ごみ量	混合ごみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		可燃ごみ	12,076	4,739	778	558	3,223	1,916	4,554	2,674	1,215	280	349	0
		不燃ごみ	1,989	27	27	10	352	6	109	84	66	0	70	0
		資源ごみ	5,501	0	1,102	293	3,610	975	780	853	484	0	324	0
		その他	0	0	0	0	0	0	2	0	5	0	277	0
		粗大ごみ	0	0	0	0	0	0	64	20	20	0	0	0
		小計	19,566	4,766	1,907	861	7,185	2,897	5,509	3,631	1,790	280	1,020	0
	直接搬入ごみ量	混合ごみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		可燃ごみ	207	404	0	47	226	215	0	0	19	66	0	97
		不燃ごみ	361	0	84	17	165	30	139	71	0	0	0	41
		資源ごみ	0	230	36	0	323	107	772	142	10	0	0	62
		その他	0	0	4	0	0	0	3	3	0	0	0	89
		粗大ごみ	0	0	21	0	0	0	122	29	11	0	0	0
		小計	568	634	145	64	714	352	1,036	245	40	66	0	289
合計	20,134	5,400	2,052	925	7,899	3,249	6,545	3,876	1,830	346	1,020	289		
総合計	25,534		2,977		11,148		10,421		2,176		1,309			
区 分	佐久穂町		川上村		南牧村		南相木村		北相木村					
	生活系 (t)	事業系 (t)	生活系 (t)	事業系 (t)	生活系 (t)	事業系 (t)	生活系 (t)	事業系 (t)	生活系 (t)	事業系 (t)				
ごみ搬入量	計画収集ごみ量	混合ごみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		可燃ごみ	1,577	90	286	0	175	0	128	0	98	0	0	
		不燃ごみ	90	1	29	0	26	0	15	0	4	0	0	
		資源ごみ	695	23	230	0	211	0	71	0	38	0	0	
		その他	7	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
		粗大ごみ	36	0	10	0	5	0	3	0	6	0	0	
		小計	2,405	114	558	0	417	0	217	0	146	0	0	
	直接搬入ごみ量	混合ごみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		可燃ごみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		不燃ごみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		資源ごみ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		粗大ごみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小計	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	2,405	116	558	0	417	0	217	0	146	0	0			
総合計	2,521		558		417		217		146					

出典：環境省ホームページ「廃棄物処理技術情報—一般廃棄物処理実態調査結果（平成23年度調査結果）」



出典：環境省ホームページ「廃棄物処理技術情報—一般廃棄物処理実態調査結果（平成23年度調査結果）」より算出

図3-2-9 ごみ処理量の種別割合

## 2) 下水汚泥

佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町の下水汚泥処分量を表3-2-17に示す。

浅麓環境施設組合は、佐久市（旧浅科村、御代田町、小諸市及び軽井沢町の下水道汚泥を処理している。また、川西保健衛生施設組合は、佐久市（旧望月町）、立科町、東御市（旧北御牧村）の下水道汚泥を処理している。

表 3-2-17 下水汚泥処理処分状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

区分		処分形態	処理性状	処分量
佐久市	(旧佐久下水道組合)	農地利用	脱水汚泥	5,856 t
	(旧浅科村)	浅麓組合	脱水汚泥	307 t
	(旧望月町)	川西広域	濃縮汚泥	3,416 t
御代田町		浅麓組合	脱水汚泥	1,166 t
小諸市		浅麓組合	脱水汚泥	1,889 t
軽井沢町		浅麓組合	脱水汚泥	1,167 t

出典：長野県ホームページ「NAGANO『生活排水データ集』2013」

## 2-7 環境の保全を目的とした関係法令等による指定、規制等の状況

### 1. 大気質

#### 1) 環境基本法等

環境基本法に基づく大気汚染に係る環境基準を表3-2-18に示す。

表 3-2-18 (1) 大気の汚染に係る環境基準

物質	環境上の条件
二酸化いおう	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。
一酸化炭素	1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。
浮遊粒子状物質	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
光化学オキシダント	1 時間値が 0.06ppm 以下であること。
二酸化窒素	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。
微小粒子状物質	1 年間平均値が 15 μg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1 日平均値が 35 μg/m <sup>3</sup> 以下であること。

#### 環境基準の評価方法

##### 短期的評価（二酸化窒素、微小粒子状物質を除く）

測定を行った日についての 1 時間値の 1 日平均値もしくは 8 時間平均値または各 1 時間値を環境基準と比較して評価を行う。

##### 長期的評価

##### 二酸化窒素

1 年間の測定を通じて得られた 1 日平均値のうち、低い方から数えて 98% 目に当たる値（1 日平均値の年間 98% 値）を環境基準と比較して評価を行う。

##### 浮遊粒子状物質、二酸化いおう、一酸化炭素

1 年間の測定を通じて得られた 1 日平均値のうち、高い方から数えて 2% の範囲にある測定値を除外した後の最高値（1 日平均値の年間 2% 除外値）を環境基準と比較して評価を行う。ただし、上記の評価方法にかかわらず環境基準を超える日が 2 日以上連続した場合には非達成とする。

##### 微小粒子状物質

微小粒子状物質の暴露濃度分布全体を平均的に低減する意味での長期基準と、暴露濃度分布のうち高濃度の出現を減少させる意味での短期基準の両者について、長期的評価を行うものとする。

長期基準に関する評価は、測定結果の 1 年平均値を長期基準（1 年平均値）と比較する。

短期基準に関する評価は、測定結果の 1 日平均値のうち年間 98 パーセントタイル値を代表値として選択し、これを短期基準（1 日平均値）と比較する。

注 1) 環境基準は、工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活しない地域または場所については、適用しない。

注 2) 浮遊粒子状物質とは大気中に浮遊する粒子状物質であってその粒径が 10 μm 以下のものをいう。

注 3) 二酸化窒素について、1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内にある地域にあつては、原則としてこのゾーン内において現状程度の水準を維持し、又はこれを大きく上回ることをとらないよう努めるものとする。

注 4) 光化学オキシダントとは、オゾン、パーオキシアセチルナイトレートその他の光化学反応により生成される酸化性物質（中性ヨウ化カリウム溶液からヨウ素を遊離するものに限り、二酸化窒素を除く。）をいう。

注 5) 微小粒子状物質とは、大気中に浮遊する粒子状物質であつて、その粒径が 2.5 μm の粒子を 50% の割合で分離できる分粒装置を用いて、より粒径の大きい粒子を除去した後に採取される粒子をいう。

出典：「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和 48 年 5 月 8 日 環境庁告示 25 号）

「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和 53 年 7 月 11 日 環境庁告示 38 号）

「微小粒子状物質による大気の汚染に係る環境基準について」（平成 21 年 9 月 9 日 環境省告示第 33 号）

「環境大気常時監視マニュアル第 6 版」（平成 22 年 3 月 環境省）

表 3-2-18 (2) 大気の汚染に係る環境基準

物質	環境上の条件
ベンゼン	1年平均値が0.003mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
トリクロロエチレン	1年平均値が0.2mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
テトラクロロエチレン	1年平均値が0.2mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
ジクロロメタン	1年平均値が0.15mg/m <sup>3</sup> 以下であること。

注) 環境基準は、工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域または場所については、適用しない。

出典：「ベンゼン、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンによる大気の汚染に係る環境基準について」(平成9年2月4日 環境庁告示4号)  
 「ジクロロメタンによる大気の汚染に係る環境基準について」  
 (平成13年6月12日 環管総182号)

## 2) 大気汚染防止法

大気汚染防止法に基づく廃棄物焼却炉の排出基準を表3-2-19に示す。

また、塩化水素の目標環境濃度を表3-2-20に示す。

表 3-2-19 大気汚染防止法に基づく排出基準

項目	排出基準値
ばいじん	0.08g/Nm <sup>3</sup> 以下 <sup>注2</sup> (酸素濃度12%換算)
いおう酸化物	K値17.5
塩化水素	700mg/Nm <sup>3</sup> (430ppm)以下(酸素濃度12%換算)
窒素酸化物	250cm <sup>3</sup> /Nm <sup>3</sup> (250ppm)以下 <sup>注3</sup> (酸素濃度12%換算)

注1) 施設規模は110t/日で、2炉構成とした場合の1炉あたりの値である。

注2) 焼却能力2,000kg/h以上4,000kg/h未満の新設廃棄物焼却炉

注3) 排出ガス量4万Nm<sup>3</sup>/h以上の連続炉または連続炉以外の廃棄物焼却炉

出典：「大気汚染防止法施行規則」(昭和43年11月30日政令第329号)

表 3-2-20 塩化水素の目標環境濃度

項目	目標環境濃度
塩化水素	0.02ppm

出典：「大気汚染防止法に基づく窒素酸化物の排出基準の改定等について」(昭和52年6月16日 環境庁大気保全局長通達)

## 3) ダイオキシン類対策特別措置法

ダイオキシン類対策特別措置法で定める環境基準を表3-2-21に、廃棄物焼却炉からの排出基準を表3-2-22に示す。

表 3-2-21 ダイオキシン類の大気環境基準

項目	環境濃度
ダイオキシン類	年間平均値0.6pg-TEQ/m <sup>3</sup> 以下

注) 基準値は、2、3、7、8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。

出典：「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁及び土壌の汚染に係る環境基準について」  
 (平成11年12月27日 環境庁告示68号)

表 3-2-22 ダイオキシン類の焼却炉からの排出基準

特定施設種類	施設規模 (焼却能力)	排出基準(ng-TEQ/Nm <sup>3</sup> )
		新設廃棄物焼却炉
廃棄物焼却炉	2t/h以上4t/h未満	1

注) 施設規模は110t/日で、2炉構成とした場合の1炉あたりの値である。

出典：「ダイオキシン類対策特別措置法施行規則」(平成11年12月27日 総理府令第67号)

#### 4) 一般廃棄物処理施設の維持管理基準上の基準

廃棄物の処理及び清掃に関する法律で定める廃棄物焼却炉の排ガス中の一酸化炭素濃度の維持管理の技術上の基準を、表3-2-23に示す。

表 3-2-23 一般廃棄物処理施設の維持管理の技術上の基準

項目	維持管理基準
一酸化炭素	100ppm 以下(酸素濃度 12%換算)

出典：「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則」(昭和 46 年 9 月 12 日 厚生省令第 35 号)

## 2. 騒音

### 1) 環境基本法

環境基本法に基づく騒音に係る環境基準を表3-2-24に、道路に面する地域に係る環境基準を表3-2-25に、騒音の環境基準に係る地域の類型区分を表3-2-26、新幹線鉄道騒音に係る環境基準を表3-2-27に、地域の類型区分を表3-2-28に示す。

対象事業実施区域は、騒音に係る環境基準の地域の類型に該当しないため、騒音に係る環境基準は適用されない。

表 3-2-24 騒音に係る環境基準（等価騒音レベル）

地域の類型	時間帯の区分	
	昼間(午前6時～午後10時)	夜間(午後10時～翌日の午前6時)
AA	50 デシベル以下	40 デシベル以下
A及びB	55 デシベル以下	45 デシベル以下
C	60 デシベル以下	50 デシベル以下

注1) AA を当てはめる地域は、療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域とする。

注2) A を当てはめる地域は、専ら住居の用に供される地域とする。

注3) B を当てはめる地域は、主として住居の用に供される地域とする。

注4) C を当てはめる地域は、相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域とする。

表 3-2-25 (1) 道路に面する地域に係る環境基準（等価騒音レベル）

地域の区分	時間帯の区分	
	昼間	夜間
A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域	60 デシベル以下	55 デシベル以下
B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域	65 デシベル以下	60 デシベル以下

注) 車線とは一縦列の自動車安全かつ円滑に走行するために必要な一定の幅員を有する帯状の車道分をいう。この場合において、幹線交通を担う道路に近接する空間については、上表にかかわらず、特例として次表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

表 3-2-25 (2) 幹線交通を担う道路に近接する空間の環境基準（等価騒音レベル）

基準値	
昼間	夜間
70 デシベル以下	65 デシベル以下
備考：個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋内へ透過する騒音に係る基準(昼間にあっては45デシベル以下、夜間にあっては40デシベル以下)によることができる。	

注1) 「幹線交通を担う道路」とは、道路法第3条の規定による高速自動車道、一般国道、県道及び市町村道（市町村道にあっては4車線以上の区間に限る。）をいう。

注2) 「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは、次の車線数の区分に応じて道路端から距離によりその範囲を特定する。

(1) 2車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路 15メートル

(2) 2車線を超える車線を有する幹線交通を担う道路 20メートル

出典：「騒音に係る環境基準について」（平成10年9月30日 環境庁告示64号）



表 3-2-26 (1) 騒音の環境基準に係る地域の類型区分抜粋

類型区分	区分	用途地域の区分
A	佐久市	第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、付表の佐久市の項の地域
	小諸市	第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、付表の小諸市 1 の項の地域
	軽井沢町	第一種低層住居専用地域
B	佐久市	第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域
	小諸市	第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、付表の小諸市 2 の項の地域
	軽井沢町	第一種住居地域、付表の北佐久郡軽井沢町の項の地域
C	佐久市	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域
	小諸市	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域、付表の小諸市 3 の項の地域
	軽井沢町	近隣商業地域
備考		
<p>1 この表において、第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域とは、都市計画法（昭和 43 年法律第 100 号）第 2 章の規定により定められた用途地域をいう。</p> <p>2 指定状況：平成 25 年 3 月 31 日現在</p>		

出典：「環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令に基づく騒音に係る環境基準の類型及び地域の指定」（平成 11 年 3 月 25 日 県告示第 182 号）  
佐久市告示第 21 号 平成 24 年 2 月 23 日

表 3-2-26 (2) 付表の地域 (1)

佐久市	ア 長土呂字南上北原の一部、字竹の鼻の一部、字北近津の一部、字三貫畑の一部
	イ 岩村田字松ノ木の一部、字上豊橋の一部、字豊橋の一部、字下砂田の一部、字上砂田の一部、字西長塚の一部、字赤座頭の一部、字西芝間の一部、字鶴縄沢端の一部、字下駒喰の一部、字上駒喰の一部、字下小平の一部、字上小平の一部、字鼻顔上、字鼻顔、字鼻顔川原の一部
	ウ 猿久保字番屋前の一部、字丸山の一部、字野馬窪の一部、字坂下の一部、字屋敷添の一部
	エ 小田井字下曾根の一部、字穴沢の一部、字前田の一部、字西屋敷の一部、字前田原の一部、字下金井の一部、字仲金井の一部、字皎月の一部、字上金井の一部
	オ 横根字下長坂の一部、字上ノ原の一部、字桜垣外の一部、字向畑の一部、字延寿城の一部、字堰ノ内の一部、字堰下の一部、字北海老の一部、字島原の一部、字東海老の一部、字西海老の一部、字十二平の一部
	カ 上平尾字潰石の一部、字うとふ坂の一部、字西大久保の一部、字東大久保の一部、字塚畑の一部、字古城跡の一部、字宿、字与切の一部、字猫在家の一部、字前田の一部、字矢口の一部、字御台面の一部、字十二前の一部、字久保田の一部
	キ 下平尾字中島の一部、字空佛の一部、字下前原の一部、字一本木、字反田の一部、字山伏木の一部、字東村、字東前原の一部、字大口、字木田橋の一部、字万助の一部、字上の平の一部、字丸山の一部
	ク 塚原字駿河塚の一部、字大豆塚の一部、字西ツ谷の一部、字屋敷の一部、字濁りの一部、字丸山の一部、字久保田の一部、字北裏の一部、字閉上の一部、字閉添の一部、字堰下の一部、字宮ノ前的一部分、字長塚の一部、字前田の一部、字堰添の一部、字古屋敷の一部、字志茂田の一部、字井戸上的一部分、字姫子石の一部、字下荒町の一部、字野岸の一部、字東屋敷、字宮ノ沢の一部、字北浦の一部、字西屋敷、字土手下の一部、字寺脇の一部、字金山田、字クネ下的一部分、字四ツウ子的一部分、字立石の一部、字道添の一部、字道裏の一部、字屋敷添の一部、字砂田の一部
	ケ 常田字家地頭の一部
	コ 平塚字屋敷裏の一部、字屋敷、字屋敷前的一部分、字欠塚の一部、字矢殿の一部
	サ 根々井字北供養塚の一部、字西供養塚の一部、字芝宮の一部、字橋向の一部、字向田の一部、字辰ノ口の一部、字東辰ノ口の一部、字東向田の一部、字寺畑の一部、字南屋敷の一部、字上屋敷、字屋敷、字西屋敷の一部、字居屋敷の一部、字日向屋敷の一部、字伊勢田、字東坂上的一部分、字駒場の一部分、字日向の一部分、字坂下の一部分、字八戸坊の一部分、字七反田の一部分
	シ 鳴瀬字船久保の一部、字前田の一部、字東学塚の一部、字北びわじまの一部、字北田の一部、字下北古屋、字上北古屋、字宮ノ前的一部分、字溝の上の一部分、字堀越、字中屋敷、字寺中的一部分、字殿中、字地藏堂の一部分、字社口の一部分、字冷間の一部分、字白山の一部分、字原口的一部分、字上平の一部分、字十二山の一部分、字ついでじの一部分、字川原端の一部分、字屋舗、字東塚越の一部分、字西塚越の一部分、字矢殿の一部分、字浦田の一部分、字川端の一部分、字居屋敷、字屋敷浦の一部分
	ス 今井字東田の一部、字居屋敷字西の一部、字五反田の一部、字万五郎田の一部、字下原の一部
	セ 三河田字市子塚の一部、字屋敷添の一部、字屋敷、字中田の一部、字柳原の一部、字下原の一部
	ソ 横和字宮の上の一部、字宮の浦の一部、字屋敷、字高根の一部、字内屋敷の一部、字寄塚の一部、字下原の一部
	タ 野沢字辻の一部
	チ 鍛冶屋字前田の一部、字中島の一部、字二階田の一部、字五反田の一部、字間之田の一部、字金山前的一部分、字神明前的一部分、字向畑の一部、字東田的一部分、字牛流道下的一部分
	ツ 高柳字前堀の一部、字社在家の一部、字於毛田の一部、字三隅田の一部、字大柳の一部、字膳棚の一部、字金山の一部、字左内的一部分
	テ 本新町字堰下的一部分、字中島的一部分、字砂原的一部分、字西浦的一部分、字上木戸的一部分、字ヤツクラ田的一部分
	ト 跡部字舞台の一部、字七反の一部、字金山の一部、字子の神の一部、字孫次郎の一部、字口明塚の一部、字儘田の一部、字向畑の一部、字下町屋の一部、字上町屋の一部、字戸穂の一部
	ナ 三塚字三千束の一部、字前田の一部、字寺添の一部、字宮添の一部、字榎田の一部、字砂塚の一部、字横田の一部、字老町田の一部、字下屋敷の一部、字下榎の一部、字石反の一部、字泉野
	ニ 桜井字金井場の一部、字東屋敷、字南屋敷の一部、字西屋敷、字五反田の一部、字上前田の一部、字佃の一部、字東字前田の一部、字西字森の一部、字町の一部分、字西前田、字東田の一部分、字北屋敷、字松原免の一部分、字北、字児子塚の一部分、字宮浦の一部分、字谷地的一部分、字東谷地的一部分、字八反田的一部分、字上北谷の一部分、字石堂の一部分、字平馬塚の一部分、字四十九の一部分、字上の田の一部分、字塚田の一部分、字豆生田の一部分

表 3-2-26 (3) 付表の地域 (2)

<p>佐久市</p>	<p>ヌ 伴野字土手蔭の一部、字平の一部、字西東山の一部、字前日影の一部、字立石の一部、字神翁じの一部、字南裏の一部、字涌石の一部、字北裏の一部、字西裏の一部、字三条町の一部、字豆生田の一部、字樋口の一部、字門口の一部、字中田の一部、字向田の一部、字久保の一部、字水口の一部、字東湯免の一部、字膳棚の一部、字石橋の一部、字東屋敷添の一部、字屋敷、字屋敷田の一部、字道添の一部、字東田、字西屋敷添、字南屋敷添、字屋敷添の一部、字五反田の一部、字大長田の一部、字真弓田の一部、字北屋敷添、字休石の一部、字宮川の一部、字唐松坂の一部、字前田の一部、字東畑の一部、字打越字池上の一部、字桜坂の一部、字西浦の一部、字東山の一部</p> <p>ネ 根岸字阿ら屋の一部、字平見堂の一部、字竹田峰の一部、字高日影の一部、字東村中、字西村中、字宮の脇の一部、字山法師の一部、字日向の一部、字三年替戸の一部、字上長坂の一部、字長坂口、字下長坂の一部、字十二の一部、字中村の一部、字姥塚の一部、字中大地の一部、字大井戸の一部、字大井戸下の一部、字居村、字寺田の一部、字大佐田の一部、字大日影の一部、字小日影の一部、字正源の一部、字新海坂の一部、字新海坂下の一部、字村中の一部、字脇坂南の一部、字大久保口の一部、字村下、字御所村の一部、字尾崎の一部、字坪の内の一部、字曾里の一部、字滝の前の一部、字中島、字大門田の一部、字尾岸の一部、字堂の入の一部、字上畔の一部、字立石の一部、字小金平の一部、字馬場平の一部、字屋ち原の一部、字萩原の一部、字石付の一部、字五本木の一部、字石原坂の一部、字滝の山の一部、字筒井の一部、字大石の一部、字村上の一部</p> <p>ノ 東立科字立科の一部</p> <p>ハ 小宮山字轉石の一部、字屋敷添の一部、字伴野、字宮浦の一部、字後沢の一部、字西の張の一部</p> <p>ヒ 前山字町後の一部、字清水の一部、字中道の一部、字大堀の一部、字洞源の一部、字居屋敷、字中川原の一部、字倉沢の一部、字象ヶ岡の一部、字滝下の一部、字村上の一部、字八本木の一部</p> <p>フ 大沢字中島の一部、字下町屋の一部、字上町屋の一部、字水沼の一部、字蔵下の一部、字城下の一部、字陳川の一部、字地家の一部、字兜山の一部、字城山の一部、字屋敷の一部、字下中沢の一部、字金山久保の一部、字大地堂の一部、字上中沢の一部、字三百田の一部、字新田居村の一部、字大石平の一部、字上屋敷の一部、字鎌取場の一部</p> <p>ヘ 中込字油田の一部、字三反田の一部、字社口の一部、字杉ノ木の一部、字原田の一部、字梨ノ木の一部</p> <p>ホ 瀬戸字桜山の一部、字鷲ノ宮の一部、字城の一部、字屋地原の一部、字千香坊の一部、字水口田の一部、字屋敷添の一部、字深堀の一部、字東千石平の一部、字西千石平の一部、字西屋敷添、字八反田の一部、字中反、字中屋敷、字田中屋敷、字前田の一部、字竹原の一部、字駒在家の一部、字上屋敷、字中屋敷、字下屋敷</p> <p>マ 平賀字長塚の一部、字櫻敷の一部、字門前的一部分、字前田の一部、字堰口の一部、字下馬場の一部、字荒家、字下北口の一部、字北口の一部、字飯米馬の一部、字樋村前的一部分、字川原田の一部、字一丁田の一部、字樋村の一部、字塚田の一部、字後家的一部分、字開戸田の一部、字後家前的一部分、字荒神、字頭細の一部、字久保裏の一部、字梅ノ木の一部、字瀧平の一部、字北谷津の一部、字竹原の一部、字駒在家の一部、字上屋敷、字中屋敷、字下屋敷</p> <p>ミ 太田部字砂田の一部、字石田の一部、字西屋敷、字久祿添字丸田の一部、字飯塚の一部、字飛越</p> <p>ム 常和字下川原の一部、字曲り畑の一部、字阿ら井の一部、字下向在家の一部、字上向在家の一部、字東畑の一部、字上宮前的一部分、字下宮前的一部分、字上砂田の一部、字西畑の一部、字馬場在家の一部、字欠ノ上的一部分、字三丁畑の一部、字下黒坪的一部分</p> <p>メ 内山字神房の一部、字井出入口の一部、字黒田の一部、字上大月的一部分、字下大月的一部分、字千ヶ淵的一部分、字東平日影的一部分、字苦水日向的一部分、字御所平的一部分、字苦水的一部分、字東相立的一部分、字相立的一部分、字新田的一部分、字中村的一部分、字ダマリの一部分、字上朧水的一部分、字下朧水的一部分、字土井口的一部分、字一ツ御堂的一部分、字東浦田的一部分、字西浦田的一部分、字町、字城下的一部分、字法観寺的一部分、字下木戸的一部分、字無台的一部分、字行円的一部分、字松井的一部分、字松井東的一部分</p> <p>モ 香坂字鶉ヲネの一部、字下中原的一部分、字小屋前的一部分、字東山ノ神的一部分、字屋敷前的一部分、字城口的一部分、字欠田的一部分、字月夜田的一部分、字前田的一部分、字荒谷的一部分、字琵琶石的一部分、字屋敷、字日向的一部分、字青木的一部分、字梅ノ木的一部分、字古戸的一部分、字北古戸的一部分、字東大久保的一部分、字裏林的一部分</p> <p>ヤ 安原字光明寺的一部分、字下河原的一部分、字宿的一部分、字上屋敷、字岩久保的一部分、字城前的一部分、字後室的一部分、字内堀的一部分、字沖的一部分、字池畑的一部分、字筒畑的一部分、字西御堂的一部分、字猫久保的一部分、字戸屋敷的一部分、字北御堰的一部分、字向田的一部分、字西大久保的一部分、字蛇塚的一部分、字中棧敷的一部分、字四ツ行塚、字棧敷的一部分、字小平的一部分</p> <p>ユ 新子田字境内的一部分、字氏神的一部分、字東田的一部分、字前田、字ウトウ坂的一部分、字神明ノ木的一部分、字四ツ塚、字家の前的一部分、字柳ヶ反的一部分、字丑ヶ久保的一部分、字供養塚、字星谷端的一部分、字家後的一部分、字戸坂口的一部分、字高師町的一部分、字西原的一部分、字下原的一部分、字御両神的一部分、字小池的一部分、字東内池的一部分、字内池的一部分、字ミセギ的一部分、字蛇塚的一部分、字北野馬久保的一部分、字野馬久保的一部分、字中島的一部分、字原宿的一部分</p> <p>ヨ 志賀字下八重久保的一部分、字大星的一部分、字クネの内の一部分、字東駒込的一部分、字西駒込的一部分、字瓜作的一部分、字理久保的一部分、字郷源氏的一部分、字扇平的一部分、字本郷下北側的一部分、字本郷下南側、字本郷中北側的一部分、字本郷上北側的一部分、字本郷上南側字五十貫、字白見的一部分、字金定的一部分、字中村的一部分、字海老在家的一部分、字辻畑的一部分、字神明ノ木的一部分、字石田的一部分、字宮ノ西的一部分、字宮東的一部分、字宮前的一部分</p>
<p>小諸市1</p>	<p>ア 甲字南織矢川の一部、字北道木、字北糠塚、字西糠塚の一部、字山の前、字東諸山、字中諸山、字上諸山、字北諸山の一部、字西諸山の一部、字南諸山の一部、字下諸山、字洞の一部、字下山の前の一部分、字上山の前の一部分、字上関口の一部、字下関口の一部、字越後堀、字西原の一部、字片山の一部、字西小原、字北小松原の一部、字南小原、字上鶴巻の一部、字前原田の一部、字鳴石、字九唐松、字八唐松の一部、字味噌塚の一部、字六道、字東原田、字原田、字北原田、字西原田の一部、字大洞の一部、字扇畑の一部、字要畑の一部、字狐穴、字川原田、字上古宿の一部、字鹿曲輪の一部、字笠石の一部、字下蛇掘の一部、字西菊田の一部、字宮ノ前的一部分、字東菊田の一部、字下川原的一部分、字前川原的一部分、字万歳海土、字沢田、字御堂前的一部分、字御堂前的一部分、字下海土、字東野岸的一部分、字芹沢、字大畑沢の一部、字北嶺の一部、字下東沢、字上東沢、字栗毛沢、字栗毛坂、字北霞、字下郷土の一部、字熊野堂の一部、字大畑の一部、字東郷土、字和久井の一部、字上郷土、字中郷土、字前原、字尾尻、字小和久井の一部、字荒井、字西窪、字愛宕山、字寺窪、字寺窪峯、字西ノ峯、字松井の一部、字松井日向的一部分、字清水窪の一部、字東平的一部分、字御堂上的一部分、字上天池的一部分、字天池的一部分、字大犬窪の一部、字軽石の一部、字大安場的一部分、字大安平的一部分、字高津屋の一部、字鞍掛の一部、字斧石の一部</p> <p>イ 乙字上ノ鼻の一部、字竹ノ鼻の一部、字御所村の一部、字柳田の一部、字高津屋の一部、字東沢、字鳩ノ巢、字城下的一部分</p> <p>ウ 丙字押出の一部、字霧久保の一部、字滝ノ窪の一部</p> <p>エ 丁字南町三丁目的一部分、字中棚町的一部分</p> <p>オ 己字高峯の一部</p> <p>カ 大字八満、字宮平的一部分、字前原的一部分、字坪ノ内の一部分、字糶田的一部分、字吉田的一部分、字福島、字箒畑の一部、字福岡の一部、字源正原的一部分、字宮浦、字山ノ神、字狐島の一部、字鯨沢の一部、字平田的一部分、字井出沢、字諏訪宮の一部、字八満反的一部分、字大谷の一部、字浜茄子、字富反的一部分、字上平的一部分、字面田的一部分、字駒形的一部分、字岩下、字中宮的一部分、字林平的一部分、字牧留の一部、字林下的一部分、字林前、字豊岡、字八反林の一部</p> <p>キ 大字柏木、字西前畑の一部、字東前畑の一部、字荒井の一部、字御堂反的一部分、字原田的一部分、字上原的一部分、字下飯坂田的一部分、字岩田的一部分、字天神久保的一部分、字宮ノ前的一部分、字南大道砂的一部分、字北大道砂的一部分、字前谷地的一部分、字上飯坂田的一部分、字石峠、字峯塚の一部、字東長張的一部分、字西長張、字下出間的一部分</p> <p>ク 大字加増、字峯塚の一部、字佃の一部、字八子屋の一部、字坂保町的一部分、字源田谷地的一部分、字谷地的一部分、字東谷地的一部分、字上原、字中原的一部分、字石峠の一部、字ケカチの一部、字西石峠の一部、字濁沢の一部、字日影の一部、字袖川原的一部分</p> <p>ケ 大字塩野、字隠開土の一部、字宮崎の一部、字中ノ宮、字坂口、字頼朝井、字沢田、字乗寄の一部、字堀合の一部、字西今宮の一部、字東荒神、字東今宮、字上荒田の一部、字南ヶ原の一部</p>

表 3-2-26 (4) 付表の地域 (3)

<p>小諸市1</p>	<p>コ 大字菱平、字東丸山の一部、字西丸山、字干又、字稲荷の一部、字入小姓の一部、字下小姓の一部、字舟ヶ沢の一部、字観音平の一部、字湯ノ丸の一部、字以良久保の一部、字柿木平の一部、字原の一部、字鎌研の一部、字中尾根の一部、字板沢の一部、字筒井沢の一部、字上菱野入の一部、字下菱野入の一部、字前田の一部、字宮ノ前的一部分、字柳平の一部、字苗田の一部、字風張の一部、字大久保の一部、字堀尾田の一部、字竹原の一部、字東辺の一部、字大畑の一部、字田頭の一部、字龍神前的一部分、字中島、字野無、字扇畑の一部、字西辺の一部</p> <p>サ 大字諸、字矢鼻の一部、字中村の一部、字社宮司の一部、字東房の一部、字上屋敷の一部、字屋敷、字前田、字鳥井辺の一部、字大門、字天神の一部、字寺内的一部分、字清水田、字並木の一部、字別府の一部、字窪屋敷の一部、字西平的一部分、字坂井田的一部分</p> <p>シ 大字西原、字天神前的一部分、字若宮の一部、字原田的一部分、字山神前的一部分、字田中反的一部分、字八満反的一部分、字金山的一部分</p> <p>ス 大字滝原、字唐沢的一部分、字下山神反、字上山神反的一部分、字下孫藤的一部分、字上孫藤的一部分、字下三ツ久保的一部分、字長倉的一部分、字闊添的一部分、字宮平的一部分、字宮裏的一部分、字京塚的一部分、字野田的一部分</p> <p>セ 大字滋野甲、字深沢的一部分、字金卸的一部分、字下見原的一部分、字東原的一部分、字老騎場的一部分、字糠地久保的一部分、字荒井田的一部分、字中星合的一部分、字寺林的一部分、字中林的一部分、字坪屋敷的一部分、字上ノ原、字小深沢的一部分、字宮東的一部分、字上宿的一部分、字多古的一部分、字中宿的一部分、字上久根的一部分、字下宿的一部分、字清水的一部分、字八反田的一部分、字道下的一部分、字田中畑的一部分、字向押出的一部分、字押出的一部分、字神奈川的一部分、字下ノ原的一部分、字伊勢宮的一部分、字鍋弦的一部分、字寺ノ浦的一部分、字石原的一部分、字西久保平的一部分、字日向山的一部分、字芋畑、字糠地、字下ノ平的一部分、字東久保平、字屋敷、字中田的一部分、字破石的一部分、字宮元的一部分、字宮東的一部分、字三本木的一部分、字中老騎場的一部分、字上老騎場的一部分、字上原田的一部分、字池田、字上深沢的一部分、字天池的一部分、字日影山的一部分、字北山的一部分</p> <p>ソ 大字山浦、字宮脇的一部分、字道下的一部分、字松葉的一部分、字道祖神前的一部分、字下腰巻的一部分、字上腰巻、字腰巻前、字月夜平、字大久保的一部分、字雨引的一部分、字観音平、字与良昌的一部分、字長ウネ的一部分、字沢、字大井戸的一部分、字花水的一部分、字宮ノ前的一部分、字十二ヒラ的一部分、字下北細久保的一部分、字鷹ノ巢的一部分、字菖蒲沢的一部分、字戸石又、字沢尻、字上川端的一部分、字下川端的一部分、字地獄久保的一部分、字細畑ヶの一部、字鍋洗久保的一部分、字カクラ的一部分、字下カクラ的一部分、字水久保的一部分、字池ノ上的一部分、字中村的一部分、字内グネ的一部分、字坂ノ上的一部分、字下村、字湯ノ上的一部分、字北畑ヶ、字峯、字扇子平的一部分、字飯森掛的一部分、字堂庭的一部分、字明神平的一部分、字日向的一部分、字桐ヶ入的一部分、字松ヶ入口的一部分、字外海道的一部分、字アラヤ、字大井戸、字ガヶ下的一部分、字中畑ヶ的一部分、字下平的一部分、字片山的一部分、字林ギワ的一部分、字古池的一部分、字井戸ノ入口的一部分、字赤石脇的一部分、字大谷地脇的一部分、字上赤石的一部分、字稲荷前的一部分、字女石入的一部分、字雨池的一部分、字丸山池上的一部分、字白山前的一部分、字丸山西的一部分、字老ツ長西的一部分、字男石的一部分、字子持塚的一部分</p> <p>タ 大字大久保、字上ノ原的一部分、字牛骨的一部分、字鶴巻、字上平的一部分、字水ナ原、字北下平的一部分、字南下平、字一過田、字中嶋的一部分、字宮前的一部分、字東柳沢的一部分、字山峯的一部分、字水上的一部分、字前山的一部分、字北中山的一部分、字道木沢的一部分、字フヶ平的一部分、字矢ノ下的一部分、字氷的一部分、字大磊的一部分、字月夜平的一部分、字池田的一部分、字竹ノ上的一部分、字宮脇的一部分、字高日向的一部分、字坂下的一部分、字中ノ木戸的一部分、字日影的一部分、字山根的一部分、字中道的一部分、字山神的一部分、字八布施的一部分、字クルマ沢的一部分、字小屋場的一部分、字新切的一部分、字前法的一部分、字観音堂的一部分、字不通的一部分、字堀ノ内的一部分、字雨田的一部分、字シンナ石的一部分、字中ノ坂、字笹沢峯的一部分、字向原的一部分、字芝原的一部分、字カッパ沢的一部分</p> <p>チ 大字市、字上前田、字下前田的一部分、字我石的一部分、字下原的一部分、字道満的一部分、字藤塚、字狐塚、字飯塚、字北市村的一部分、字北浦的一部分、字伍加的一部分、字芝宮的一部分、字下立久保的一部分、字立久保的一部分、字五反田的一部分、字土橋的一部分、字北原的一部分、字新林的一部分、字竹の花的一部分、字高塚的一部分、字長塚的一部分</p> <p>ツ 大字耳取、字砦的一部分、字皿掛的一部分、字牛原的一部分、字北原的一部分、字古城的一部分、字下、字中、字五ヶ城的一部分、字五ヶ城、字一貫畑的一部分、字濁りの一部分、字八反田的一部分、字五領的一部分、字東久保田的一部分、字宮の北的一部分、字宮の前的一部分、字原田、字上、字沢田、字原、字中島的一部分</p> <p>テ 大字森山、字釜神的一部分、字道木的一部分、字山の神的一部分、字新林、字大平的一部分、字下平、字矢田頭的一部分、字下矢田的一部分、字大林的一部分、字下原、字長林的一部分、字西城的一部分、字宮前的一部分、字川内屋敷的一部分、字南屋敷、字前原的一部分、字天神前的一部分、字柳沢的一部分、字荻久保的一部分、字二ツ塚的一部分</p> <p>ト 大字御影新田、字中原、字西海地、字釜田原、字鎌田の一部、字野火附、字屋敷的一部分、字鋳物師屋の一部、字鑑田の一部、字池尻の一部、字塚ノ前、字竹ノ花の一部、字屋敷、字釜神的一部分、字向原的一部分、字舟窪的一部分、字大塚原的一部分、字池ノ上的一部分、字谷地原的一部分、字香久保的一部分、字和田原的一部分</p> <p>ナ 大字平原、字馬坂的一部分、字野海戸的一部分、字坂下的一部分、字祝堂的一部分、字赤沼的一部分、字長野原的一部分、字大豆田的一部分、字曲田的一部分、字深ヶ田的一部分、字川原田的一部分、字細久保的一部分、字欠田的一部分、字大石的一部分、字穴の前的一部分、字下原的一部分、字東下原的一部分、字西下原的一部分、字亀石的一部分、字久保田的一部分、字寺前的一部分、字城的一部分、字星合的一部分、字洪田的一部分、字北原的一部分、字下三田原的一部分、字上三田原的一部分、字東丸山的一部分、字十石坂上的一部分、字中原的一部分、字三ツ子塚的一部分、字寺裏的一部分、字老里塚的一部分、字改居祖的一部分、字東居祖、字西居祖、字入居祖、字居祖添、字丸山的一部分</p> <p>ニ 大字和田、字釜田原的一部分、字外端的一部分、字日名田的一部分、字穴和田的一部分、字権現堂、字東城、字中田的一部分、字下原的一部分、字西裏的一部分、字蓬萊的一部分、字高砂的一部分、字鷲林的一部分、字唐堀、字和田原的一部分、字入北原的一部分、字北原的一部分</p>
<p>小諸市2</p>	<p>ア 大字八満、字宮平的一部分、字坪ノ内的一部分、字稲田的一部分、字吉田的一部分、字諏訪宮的一部分、字八満反的一部分、字大谷的一部分、字八反林的一部分</p> <p>イ 大字加増、字峯塚的一部分</p> <p>ウ 大字御影新田、字谷地原的一部分、字御影田的一部分、字香久保的一部分</p> <p>エ 大字平原、字曲沢的一部分、字亀石的一部分、字久保田的一部分</p> <p>オ 大字和田、字下原的一部分、字西裏的一部分、字高砂的一部分、字和田原的一部分、字北原的一部分</p>
<p>小諸市3</p>	<p>ア 甲字東野岸的一部分</p> <p>イ 丙字芦原的一部分、字水押的一部分</p> <p>ウ 大字加増、字袖川原的一部分、字浦屋敷的一部分</p> <p>エ 大字諸、字中村的一部分、字社宮司的一部分、字鳥井辺的一部分</p> <p>オ 大字西原、字中辺的一部分、字金山的一部分、字深沢反的一部分</p> <p>カ 大字滝原、字闊添的一部分、字下西原的一部分</p> <p>キ 大字滋野甲、字深沢的一部分、字金卸的一部分、字小深沢的一部分、字宮東的一部分、字上宿的一部分、字多古的一部分、字中宿的一部分、字上久根的一部分、字下宿的一部分、字清水的一部分、字田中畑的一部分、字観音前的一部分</p> <p>ク 大字市、字五反田的一部分、字土橋的一部分、字北原的一部分、字新林的一部分</p> <p>ケ 大字森山、字釜神的一部分、字道木的一部分、字山の神的一部分、字大平的一部分</p> <p>コ 大字御影新田、字竹ノ花的一部分、字釜神的一部分、字向原的一部分、字舟窪的一部分、字大塚原的一部分、字池ノ上的一部分、字谷地原的一部分、字御影田的一部分、字香久保的一部分、字和田原的一部分</p> <p>サ 大字平原、字馬坂的一部分、字曲沢的一部分、字久保田的一部分、字寺前的一部分、字城的一部分、字星合的一部分、字洪田的一部分、字北原的一部分、字十石坂上的一部分、字中原的一部分、字三ツ子的一部分、字寺裏的一部分、字老里塚的一部分、字改居祖的一部分</p> <p>シ 大字和田、字入釜田的一部分、字釜田原的一部分、字外端的一部分、字日名田的一部分、字砂原的一部分、字蓬萊的一部分、字高砂的一部分、字鷲林的一部分、字和田原的一部分、字北原的一部分</p>

表 3-2-26 (5) 付表の地域 (4)

軽井沢町	<p>ア 大字茂沢、字板花沢、字大勝負沢、字吉田原、字小勝負沢、字片木、字矢ノ下、字山神平、字小塚、字海付、字堰下、字腰巻、字河原田、字神戸原、字日影、字前田、字竹花、字浴田、字海戸平、字荒井、字木附、字豆棚、字御堂地、字屋敷、字大開戸、字諏訪宮、字樹下、字加賀塚、字西畑、字北又、字田ノ入、字十二平、字下松葉、字構畑、字観音堂、字赤名木沢、字赤名木、字辰尾、字下ノ畑、字たて、字横畝、字田端、字岩名口、字矢ノ入、字宮沢、字上ノ平、字横吹、字二本木の一部、字山吹の一部、字勝負沢の一部、字西窪の一部、字石堂の一部、字南石堂の一部、字東通り、字宮前、字戸合、字下河原、字下丑越、字赤洪、字東沖、字西通り、字堰口、字押出し、字穴山、字南足、字丑越、字金井淵、字北石堂、字小諸堂</p> <p>イ 大字追分、字林中原尻、字実久保尻、字林中原、字借宿塚、字西軽井沢、字実原道東中、字実原道東下、字実原道西下、字実原道西上、字小原沢、字小原沢上、字荻畑東、字東牛越、字北牛越、字南荻畑、字城ノ沢、字稲荷山、字堂庭、字坂下、字南牛越の一部、字雨池の一部、字夕日当りの一部、字前谷地堰下の一部、字前谷地中島の一部、字夕日堰下、字昇進井戸、字吉野坂、字前谷地の一部、字桑畑、字草越原道東、字草越界、字追分道添、字草越原道西、字草越原窪、字草越原堰下、字備前林、字東滝沢、字西滝沢、字つくろふ島東、字つくろふ嶋、字一丁田の一部、字吉野坂下の一部、字腰巻の一部</p> <p>ウ 大字草越、字追分道添</p> <p>エ 大字長倉、字下東沢の一部、字深沢、字草場の一部、字下草場の一部、字水名畑の一部、字田通の一部、字平林の一部、字池ノ平の一部、字大深沢、字菅谷地、字小深沢、字中山、字川田原、字向井原、字本田、字夫婦石、字セバ石、字下原、字日影林、字熊沢、字熊沢原、字鳥井原、字鷲穴、字二段、字赤るまの一部、字西原の一部、字八升蒔の一部、字長淵の一部、字道六神の一部、字熊野前の一部、字鹿見塚の一部、字向井の一部、字釜橋の一部、字泥川の一部、字中島の一部、字毛勝沢の一部、字山ノ神前の一部</p> <p>オ 大字発地、字澤田、字木ノ下、字杉瓜、字横谷、字大原、字西山、字下原の一部、字湯川原の一部、字上ノ窪、字荻原、字祖父久保の一部、字沢川田、字下川田、字川田、字小沢、字坂下、字樋尻の一部、字六郎地道の一部、字下土井の一部、字鼠原の一部、字横道の一部、字風越の一部、字箕輪の一部、字欠羽の一部、字石尊道の一部、字荒熊、字六郎地、字上板取、字板取、字西尾高根、字土井口、字西郷、字本郷、字新田、字大日前、字寺前、字江戸村、字江戸坂下、字向畑、字木中的一部分、字木中入、字小倉、字名郷入、字悪場、字向井平、字大平の一部、字五反田、字揚口、字東山、字上郷、字鳥ノ巢の一部、字馬渡り、字出入、字若那、字久保田、字小屋ノ澤、字居久保、字清水久保、字本郷、字駒形、字本田、字山神、字前田の一部、字横手、字小林、字新道、字船内、字小屋場、字北原、字八幡畑、字二子塚、字泥川端、字若草山入口の一部、字東原、字狐山、字中島、字高割、字砂田、字渡り道、字清水ノ尾根、字日向林、字浴地中、字長尾根、字向田、字岡田、字弁天平、字牛道、字中山、字宮前的一部分、字銀杏木の一部、字三畝歩の一部、字尾高根の一部、字飯綱前</p>
------	--

表 3-2-27 新幹線鉄道騒音に係る環境基準

地域の種類	時間帯の区分
I	70 デシベル以下
II	75 デシベル以下

注 1) I をあてはめる地域は、住居の用に供される地域とする。

注 2) II を当てはめる地域は、商工業の用に供される地域等 I 以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域とする。

出典：「新幹線鉄道騒音に係る環境基準について」(昭和50年7月29日 環境庁告示第46号)

表 3-2-28 新幹線鉄道騒音に係る環境基準の類型指定状況

市町村名	第一種低層住居専用地域	第二種低層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域	第一種住居地域	第二種住居地域	準住居地域	付表の地域	近隣商業地域	商業地域	準工業地域	工業地域	工業専用地域	付表の地域
佐久市	I				I	I	I	I	II	II	II			II
御代田町	I				I			I			II			II
小諸市								I						
軽井沢町	I				I			I	II					

出典：「新幹線鉄道騒音に係る環境基準の類型指定状況」(平成6年2月17日 県告示第130号)

## 2) 騒音規制法

### (1) 工場騒音

騒音規制法に基づく特定工場等に係る規制基準を表3-2-29に、騒音規制地域の指定を表3-2-30に示す。

工場、事業場騒音については、特定施設を有する工場、事業場に対し、区域の区分に応じて時間区分ごとに規制基準が定められている。

なお、特定施設とは、騒音規制法第2条第1項における工場又は事業場に設置される施設のうち、著しい騒音を発生する施設であって政令で定めるものをいい、特定工場とは特定施設を有する工場、事業場をいう。

本事業では、空気圧縮機、送風機及び破碎機等の特定施設に該当する施設を設置する計画であるため騒音規制法に係る特定工場に該当するが、対象事業実施区域は規制地域に指定されていない。

表 3-2-29 特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準

区域の区分	時間の区分		
	昼間(8:00~18:00)	朝(6:00~8:00) 夕(18:00~21:00)	夜間(21:00~翌6:00)
第1種区域	50 デシベル	45 デシベル	45 デシベル
第2種区域	60 デシベル	50 デシベル	50 デシベル
第3種区域	65 デシベル	65 デシベル	55 デシベル
第4種区域	70 デシベル	70 デシベル	65 デシベル
備考			
1 規制基準は、特定工場等の敷地の境界線における大きさの許容限度をいう。			
2 第2種区域、第3種区域又は第4種区域の区域内に所在する学校教育法第一条に規定する学校、児童福祉法第7条第1項に規定する保育所、医療法第1条の5第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者を入院させるための施設を有するもの、図書館法第2条第1項に規定する図書館並びに老人福祉法第5条の3に規定する特別養護老人ホームの敷地の周囲おおむね50メートルの区域内における当該基準は、それぞれの基準値から5デシベルを減じた値とする。			

出典：「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」(昭和43年11月27日 厚生省・農林省・通商産業省・運輸省告示1号)  
佐久市告示第59号 平成24年4月1日  
小諸市告示第60号 平成24年3月30日

表 3-2-30 騒音規制地域の指定

類型区分	区分	用途地域の区分
第1種区域	佐久市	第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域
	小諸市	第一種低層住居専用地域
第2種区域	佐久市	第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域
	小諸市	第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域
第3種区域	佐久市	近隣商業地域、商業地域、準工業地域
	小諸市	近隣商業地域、商業地域、準工業地域
第4種区域	佐久市	工業地域
	小諸市	工業地域
備考		
1 この表において、第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域とは、都市計画法(昭和43年法律第100号)第2条の規定により定められた用途地域をいう。		
2 指定状況：平成25年3月31日現在		

出典：「騒音規制法の規定に基づく規制地域及び規制基準等指定」(昭和50年2月27日 県告示第97号)  
佐久市告示第59号 平成24年4月1日  
小諸市告示第60号 平成24年3月30日

## (2) 道路交通騒音

騒音規制法に基づく道路に面する地域の要請限度を表3-2-31に、道路交通騒音に係る市長等が定める区域を表3-2-32に示す。

なお、要請限度とは、道路交通騒音により周辺の生活が著しく損なわれると認められるときに、都道府県公安委員会に対し、道路交通法の規定による措置を執るよう要請し、道路構造に関して、道路管理者または関係行政機関の長に意見を述べることができる限度である。

表 3-2-31 道路交通騒音の要請限度

区域の区分	時間の区分	
	昼間 (6:00～22:00)	夜間 (22:00～翌6:00)
a 区域及び b 区域のうち 1 車線を有する道路に面する区域	65 デシベル以下	55 デシベル以下
a 区域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する区域	70 デシベル以下	65 デシベル以下
b 区域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する区域及び c 区域のうち車線を有する道路に面する区域	75 デシベル以下	70 デシベル以下

注 1) 表に掲げる区域のうち幹線交通を担う道路に近隣する区域（2 車線以下の車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 15m、2 車線を超える車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 20m までの範囲をいう）に係る限度は上表にかかわらず、昼間においては 75 デシベル、夜間においては 70 デシベルとする。

注 2) 車線とは、1 縦列の自動車安全かつ円滑に走行するために必要な一定の幅員を有する帯状の車道部分をいう。

注 3) 「幹線交通を担う道路」とは、道路法第 3 条の規定による高速自動車道、一般国道、県道及び市町村道（市町村道にあっては 4 車線以上の区間に限る。）をいう。

注 4) 「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは、次の車線数の区分に応じて道路端から距離によりその範囲を特定する。

(1) 2 車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路 15 メートル

(2) 2 車線を超える車線を有する幹線交通を担う道路 20 メートル

出典：「騒音規制法第 17 条第 1 項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令（要請限度）」（平成 12 年 3 月 2 日総理府令第 15 号）

表 3-2-32 道路交通騒音に係る市長等が定める区域

類型区分	区分	用途地域の区分
a	佐久市	第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域
	小諸市	第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域
b	佐久市	第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域
	小諸市	第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域
c	佐久市	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域
	小諸市	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域

備考

1 この表において、第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域とは、都市計画法（昭和 43 年法律第 100 号）第 2 条の規定により定められた用途地域をいう。

2 指定状況：平成 25 年 3 月 31 日現在

出典：「騒音規制法の規定に基づく規制地域及び規制基準等指定」（昭和 50 年 2 月 27 日 県告示第 97 号）

佐久市告示第 59 号 平成 24 年 4 月 1 日

小諸市告示第 60 号 平成 24 年 3 月 30 日

### (3) 建設作業騒音

騒音規制法に基づく特定建設作業騒音に係る騒音の規制基準を表3-2-33に示す。

なお、対象事業に伴う建設工事は、バックホウ等を使用するため騒音規制法に係る特定建設作業に該当するが、対象事業実施区域は規制地域に指定されていない。

表 3-2-33 特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準

		騒音の 大きさ	作業が できない時間 (夜間)	1日における 作業時間	同一場所 における 作業時間	日曜日、休日 における 作業
くい打機等を使用する作業		85 デシベル	第1号区域 午後7時～ 翌日午前7時	第1号区域 10時間を超 えないこと	連続して 6日を 超えないこと	禁止
びよう打機を使用する作業						
さく岩機を使用する作業						
空気圧縮機を使用する作業						
コンクリートプラント又はアスフ ァルトプラントを設けて行う作業						
バックホウ、トラクターショベル、 ブルドーザーを使用する作業						
適用除外	作業がその作業を開始した日に終わ るものを除く。		ABCDE	AB	AB	ABCDEF
備考						
1 騒音の大きさは、特定建設作業の場所の敷地境界での値。						
2 表中A～Fは次の場合をいう。						
A 災害その他非常の事態のための緊急に行う必要がある場合						
B 人の生命又は身体に対する危険の防止のため行う必要がある場合						
C 鉄道または軌道の正常な運行確保のため行う必要がある場合						
D 道路法第34条(道路の占用許可)、第35条(協議)による場合						
E 道路交通法第77条第3項(道路の使用許可)、第80条第1項(協議)による場合						
F 電気事業法施行規則第1条第2項第1号の変電所の変更の工事で特定建設作業に従事する者の生命 又は身体に対する安全の確保のため電気工作物の機能を停止して日曜日、休日に行う必要のある場合						
3 第1号区域とは、指定地域のうち第1種区域と第2種区域の全域、並びに第3種区域と第4種区域のうち学 校、保育所、病院及び診療所のうち患者の収容施設を有するもの、図書館並びに特別養護老人ホームの敷地 の周囲80mの区域をいう。						
第2号区域とは第3種区域及び第4種区域のうち上記以外のものをいう。						

出典：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」(昭和43年11月27日 厚生省・建  
設省告示1号)

佐久市告示第59号 平成24年4月1日

小諸市告示第60号 平成24年3月30日

### 3. 振動

#### 1) 振動規制法

##### (1) 工場振動

振動規制法に基づく特定工場等に係る振動の規制基準を表3-2-34に示す。

なお、特定施設とは、振動規制法第2条第1項における工場又は事業場に設置される施設のうち、著しい振動を発生する施設であって政令で定めるものをいい、特定工場とは特定施設を有する工場、事業場をいう。

本事業では、破砕機等の特定施設に該当する施設を設置する計画であるため振動規制法に係る特定工場に該当するが、対象事業実施区域は規制地域に指定されていない。

表 3-2-34 特定工場等において発生する振動の規制に関する基準

地域の区分	時間帯の区分	
	昼 間 (7:00~19:00)	夜 間 (19:00~翌7:00)
第1種区域	65 デシベル以下	60 デシベル以下
第2種区域	70 デシベル以下	65 デシベル以下
備考 1 規制基準は、特定工場等の敷地の境界線における大きさの許容限度をいう。 2 第1種区域及び第2種区域に所在する学校教育法第1条に規定する学校、児童福祉法第7条第1項に規定する保育所、医療法第1条の5第1項に規定する病院及び同条第二項に規定する診療所のうち患者の収容施設を有するもの、図書館法第2条第1項に規定する図書館並びに老人福祉法第5条の3に規定する特別養護老人ホームの敷地の周囲おおむね50メートルの区域内における規制基準値は、それぞれの基準値から5デシベルを減じた値とする。		

出典：「特定工場等において発生する振動の規制に関する基準」(昭和51年11月10日 環境庁告示90号)  
佐久市告示第60号 平成24年4月1日  
小諸市告示第61号 平成24年3月30日

##### (2) 道路交通振動

振動規制法に基づく道路に面する地域の要請限度を表3-2-35に、振動規制地域の指定を表3-2-36に示す。

なお、対象事業実施区域は規制地域に指定されていない。

表 3-2-35 道路交通振動の要請限度

区域の区分	時間の区分	
	昼 間 (7:00~19:00)	夜 間 (19:00~翌7:00)
第一種区域	65 デシベル以下	60 デシベル以下
第二種区域	70 デシベル以下	65 デシベル以下

出典：「振動規制法施行規則」(昭和51年11月10日 総理府令第58号)

表 3-2-36 振動規制地域の指定

類型区分	区分	用途地域の区分
第1種区域	佐久市	第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域
	小諸市	第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域
第2種区域	佐久市	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域
	小諸市	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域
備考 1 この表において、第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域とは、都市計画法(昭和43年法律第100号)第2条の規定により定められた用途地域をいう。 2 指定状況：平成25年3月31日現在		

出典：「振動規制法に基づく規制地域の指定」(昭和52年12月26日 県告示第683号)

佐久市告示第60号 平成24年4月1日  
小諸市告示第61号 平成24年3月30日



### (3) 建設作業振動

振動規制法に基づく特定建設作業に係る振動の規制基準を表3-2-37に示す。

なお、対象事業に伴う建設工事は、ブレーカー等を使用するため振動規制法に係る特定建設作業に該当するが、対象事業実施区域は規制地域に指定されていない。

表 3-2-37 特定建設作業の規制に関する基準

	振動の大きさ	作業が できない時間 (夜間)	1日における 作業時間	同一場所 における 作業時間	日曜日、休日 における 作業
基準	特定建設作業の場所の敷地において、75デシベルを超える大きさのものでないこと	第1号区域 午後7時～ 翌日午前7時  第2号区域 午後10時～ 翌日午前6時	第1号区域 10時間を超えないこと  第2号区域 14時間を超えないこと	連続して 6日を 超えないこと	禁止
適用除外	作業がその作業を開始した日に終わるものを除く。	ABCDE	AB	AB	ABCDEF
備考					
<p>1 表中A～Fは次の場合をいう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 災害その他非常の事態のための緊急に行う必要がある場合</li> <li>B 人の生命又は身体に対する危険の防止のため行う必要がある場合</li> <li>C 鉄道または軌道の正常な運行確保のため行う必要がある場合</li> <li>D 道路法第34条(道路の占用許可)、第35条(協議)による場合</li> <li>E 道路交通法第77条第3項(道路の使用許可)、第80条第1項(協議)による場合</li> <li>F 電気事業法施行規則第1条第2項第1号の変電所の変更の工事で特定建設作業に従事する者の生命又は身体に対する安全の確保のため電気工作物の機能を停止して日曜日、休日に行う必要がある場合</li> </ul> <p>2 第1号区域：法第三条第一項の規定により指定された地域のうち、次のいずれかに該当する区域として都道府県知事が指定した区域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イ 良好な住居の環境を保全するため、特に静穏の保持を必要とする区域であること。</li> <li>ロ 住居の用に供されているため、静穏の保持を必要とする区域であること。</li> <li>ハ 住居の用に併せて商業、工業等の用に供されている区域であつて、相当数の住居が集合しているため、振動の発生を防止する必要がある区域であること。</li> <li>ニ 学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第一条に規定する学校、児童福祉法（昭和二十二年法律第六十四号）第七条第一項に規定する保育所、医療法（昭和二十三年法律第二百五号）第一条の五第一項に規定する病院及び同条第三項に規定する診療所のうち患者を入院させるための施設を有するもの、図書館法（昭和二十五年法律第百十八号）第二条第一項に規定する図書館並びに老人福祉法（昭和三十八年法律第百三十三号）第五条の三に規定する特別養護老人ホームの敷地の周囲おおむね八十メートルの区域内であること。</li> </ul> <p>第2号区域：法第三条第一項の規定により指定された地域のうち、前号に掲げる区域以外の区域</p>					

出典：「振動規制法施行規則」（昭和51年11月10日 総理府令第58号）

佐久市告示第60号 平成24年4月1日

小諸市告示第61号 平成24年3月30日

#### 4. 悪臭

##### 1) 悪臭防止法

悪臭防止法に基づく特定悪臭物質の規制基準及び悪臭規制地域の指定を表3-2-38に示す。対象事業実施区域及びその周辺では、臭気指数による規制は行われていない。

なお、対象事業実施区域は、規制地域に指定されていない。

表 3-2-38 (1) 敷地境界線の地表における規制基準

特定悪臭物質等の名称	単位	敷地境界の規制基準		敷地境界	気体排出施設	排水水
		第1地域	第2地域			
アンモニア	ppm	2	5	○	○	
メチルメルカプタン		0.004	0.01	○		○
硫化水素		0.06	0.2	○	○	○
硫化メチル		0.05	0.2	○		○
トリメチルアミン		0.02	0.07	○	○	
二硫化メチル		0.03	0.1	○		○
アセトアルデヒド		0.1	0.5	○		
プロピオンアルデヒド		0.05	0.1	○	○	
ノルマルブチルアルデヒド		0.009	0.03	○	○	
イソブチルアルデヒド		0.02	0.07	○	○	
ノルマルバレールアルデヒド		0.009	0.02	○	○	
イソバレールアルデヒド		0.003	0.006	○	○	
イソブタノール		0.9	4	○	○	
酢酸エチル		3	7	○	○	
メチルイソブチルケトン		1	3	○	○	
トルエン		10	30	○	○	
キシレン		1	2	○	○	
スチレン		0.8	2	○		
プロピオン酸		0.07	0.2	○		
ノルマル酪酸		0.002	0.006	○		
ノルマル吉草酸		0.002	0.004	○		
イソ吉草酸		0.004	0.01	○		

出典：「悪臭防止法」(昭和46年6月1日 法律第91号)

佐久市告示第20号 平成24年2月23日

小諸市告示第62号 平成24年3月30日

表 3-2-38 (2) 煙突等の排出口における規制基準

特定悪臭物質の名称	規制基準
アンモニア、硫化水素、トリメチルアミン、プロピオンアルデヒド、ノルマルブチルアルデヒド、イソブチルアルデヒド、ノルマルバレールアルデヒド、イソバレールアルデヒド、イソブタノール、酢酸エチル、メチルイソブチルケトン、トルエン、キシレン	

注) 規制基準は、次の式によって得られた排出口からの排出量によって規制される。

$$q=0.108 \times He^2 \cdot Cm$$

q：特定悪臭物質の排出量 (Nm<sup>3</sup>/h)

He：補正された排出口の高さ (m)

Cm：敷地境界線における規制基準値 (ppm)

出典：「悪臭防止法」(昭和46年6月1日 法律第91号)

「三訂版ハンドブック悪臭防止法」(平成11年6月 ぎょうせい)

表 3-2-38 (3) 排出口からの排水水中における規制基準

特定悪臭物質の名称	規制地域の区分	排水水の流量区分(m <sup>2</sup> /s)		
		0.001以下の場合	0.001を超え、0.1以下の場合	0.1を超える場合
メチルメルカプタン (mg/L)	第1種地域	0.06	0.01	0.003
	第2種地域	0.2	0.03	0.007
硫化水素 (mg/L)	第1種地域	0.3	0.07	0.02
	第2種地域	1	0.2	0.05
硫化メチル (mg/L)	第1種地域	2	0.3	0.07
	第2種地域	6	1	0.3
二硫化メチル (mg/L)	第1種地域	2	0.4	0.09
	第2種地域	6	1	0.3

出典：「悪臭防止法」(昭和46年6月1日 法律第91号)

表 3-2-38 (4) 悪臭規制地域の指定

類型区分	区分	用途地域の区分
第 1 地域	佐久市	第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域
	小諸市	第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域
第 2 地域	佐久市	工業地域
	小諸市	工業地域
備考		
1 この表において、第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域とは、都市計画法（昭和 43 年法律第 100 号）第 2 条の規定により定められた用途地域をいう。		
2 指定状況：平成 25 年 3 月 31 日現在		

出典：「規制地域の指定状況」（昭和 50 年 3 月 10 日 県告示第 114 号）

佐久市告示第 20 号 平成 24 年 2 月 23 日

小諸市告示第 62 号 平成 24 年 3 月 30 日

## 2) 長野県環境審議会答申

対象事業実施区域及びその周辺では、臭気指数規制に関する指定地域はないが、地域指定にあたっての基本的な考え方について長野県環境審議会で答申されている。このうち、ごみ焼却施設については表3-2-39に示すとおりとなっている。

表 3-2-39 (1) 規制基準の設定方法

区分	規制地域の区分	規制基準
敷地境界線の地表における規制基準（ごみ焼却場）	第 1 地域	10
	第 2 地域	13
気体排出施設から排出される気体に係る規制基準	—	悪臭防止法施行規則第 6 条の 2 に定める方法により算出して得た値
排水に係る規制基準	—	敷地境界線の地表における規制基準として定められた値に 16 を加算した値

出典：長野県環境審議会答申 平成 9 年 1 月 23 日

表 3-2-39 (2) 規制地域の指定区分

類型区分	地 域
第 1 地域	1 都市計画法の規定に基づく第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域並びにこれらの地域に相当する地域 2 学校、病院の周辺の地域
第 2 地域	1 都市計画法の規定に基づく工業地域及びこの地域に相当する地域 2 都市計画法の規定に基づく工業専用地域のうち、悪臭により住民の生活環境が損なわれていると認められる地域 3 第 1 地域並びに第 2 地域の 1 及び 2 を除く地域で悪臭に対する順応のみられる地域

出典：長野県環境審議会答申 平成 9 年 1 月 23 日

## 5. 水質

### 1) 河川及び湖沼

#### (1) 環境基準

環境基本法に基づく人の健康の保護に関する環境基準及びダイオキシン類対策特別措置法に基づくダイオキシン類に関する水質の環境基準を表3-2-40に示す。

また、生活環境の保全に関する河川の環境基準を表3-2-41、湖沼の環境基準を表3-2-42に示す。

佐久市内では、対象事業実施区域の北側を流れる湯川がA類型に指定されている。

表 3-2-40 人の健康の保護に関する環境基準等

項目	基準値	項目	基準値
カドミウム	0.003mg/L以下	1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下
全シアン	検出されないこと。	トリクロロエチレン	0.03mg/L以下
鉛	0.01mg/L以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下
六価クロム	0.05mg/L以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L以下
砒素	0.01mg/L以下	チウラム	0.006mg/L以下
総水銀	0.0005mg/L以下	シマジン	0.003mg/L以下
アルキル水銀	検出されないこと。	チオベンカルブ	0.02mg/L以下
P C B	検出されないこと。	ベンゼン	0.01mg/L以下
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	セレン	0.01mg/L以下
四塩化炭素	0.002mg/L以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	ふっ素	0.8mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下	ほう素	1mg/L以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	1,4-ジオキサン	0.05mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L以下	ダイオキシン類	1pg-TEQ/L以下

注1) 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。

注2) 「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量下限を下回ることをいう。

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日 環境省告示第59号）

「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁及び土壌汚染に係る環境基準について」（平成11年12月27日 環境庁告示第68号）

表 3-2-41 生活環境の保全に関する環境基準（河川）

ア BOD 等

類型	利用目的の 適 応 性	基準値					該当水域
		水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	
AA	水道1級 自然環境保全 及びA以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	50MPN/ 100mL 以下	別に水域類 型ごとに指 定する水域
A	水道2級 水産1級 水浴 及びB以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	1,000MPN/ 100mL 以下	
B	水道3級 水産2級 及びC以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/L 以下	25mg/L 以下	5mg/L 以上	5,000MPN/ 100mL 以下	
C	水産3級 工業用水1級 及びD以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/L 以下	50mg/L 以下	5mg/L 以上	-	
D	工業用水2級 農業用水 及びEの欄に掲げ るもの	6.0以上 8.5以下	8mg/L 以下	100mg/L 以下	2mg/L 以上	-	
E	工業用水3級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/L 以下	ごみ等の浮遊 が認められな いこと。	2mg/L 以上	-	
備考 1 基準値は日間平均とする。 2 農業用利水点については、水素イオン濃度 6.0 以上 7.5 以下、溶存酸素量 5mg/L 以上とする。							

- 注 1) 自然環境保全：自然探勝等の環境保全  
 注 2) 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの  
 水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの  
 水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの  
 注 3) 水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用  
 水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用  
 水産3級：コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用  
 注 4) 工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの  
 工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの  
 工業用水3級：特殊の浄水操作を行うもの  
 注 5) 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度  
 出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日 環境庁告示第59号）

イ 全亜鉛等

	水生生物の生息状況の適応性	基準値			該当水域
		全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下	0.001mg/L以下	0.03mg/L以下	別に水域類型ごとに指定する水域
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.0006mg/L以下	0.02mg/L以下	
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生育する水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.05mg/L以下	
生物特B	生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.04mg/L以下	

備考：基準値は、年間平均値とする。

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日 環境庁告示第59号）

表 3-2-42 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (湖沼)

ア COD 等

類型	利用目的の 適 応 性	基準値					該当水域 別に水域類 型ごとに指 定する水域
		水素イオン 濃度 (pH)	化学的 酸素要求量 (COD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	
AA	水道1級 水産1級 自然環境保全 及びA以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/L 以下	1mg/L 以下	7.5mg/L 以上	50MPN/ 100mL 以下	
A	水道2、3級 水産2級 水浴 及びB以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/L 以下	5mg/L 以下	7.5mg/L 以上	1,000MPN/ 100mL 以下	
B	水産3級 工業用水1級 及びCの欄に掲げ るもの	6.5以上 8.5以下	5mg/L 以下	15mg/L 以下	5mg/L 以上	-	
C	工業用水2級 環境保全	6.0以上 8.5以下	8mg/L 以下	ごみ等の浮遊 が認められな いこと。	2mg/L 以上	-	

備考：水産1級、水産2級及び水産3級については、当分の間、浮遊物質量の項目の基準値は適用しない。

- 注1) 自然環境保全：自然探勝等の環境保全  
 注2) 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの  
 水道2、3級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作、又は前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの  
 注3) 水産1級：ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用  
 水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用  
 水産3級：コイ、フナ等富栄養湖型の水域の水産生物用  
 注4) 工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの  
 工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作、又は特殊の浄水操作を行うもの  
 注5) 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度  
 出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日 環境庁告示第59号）

イ 全窒素、全磷

類型	利用目的の適応性	基準値		該当水域
		全窒素	全磷	
I	自然環境保全及びII以下の欄に掲げるもの	0.1mg/L以下	0.005mg/L以下	別に水域類型 ごとに指定す る水域
II	水道1、2、3級（特殊なものを除く。） 水産1種 水浴及びIII以下の欄に掲げるもの	0.2mg/L以下	0.01mg/L以下	
III	水道3級（特殊なもの）及びIV以下の欄に掲げるもの	0.4mg/L以下	0.03mg/L以下	
IV	水産2種及びVの欄に掲げるもの	0.6mg/L以下	0.05mg/L以下	
V	水産3種 工業用水 農業用水 環境保全	1mg/L以下	0.1mg/L以下	

- 備考  
 1 基準値は、年間平均値とする。  
 2 水域類型の指定は、湖沼植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある湖沼について行うものとし、全窒素の項目の基準値は、全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼について適用する。  
 3 農業用水については、全磷の項目の基準値は適用しない。
- 注1) 自然環境保全：自然探勝等の環境保全  
 注2) 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの  
 水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの  
 水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの  
 注3) 水産1種：サケ科魚類及びアユ等の水産生物用並びに水産2種及び3種の水産生物用  
 水産2種：ワカサギ等の水産生物用及び水産3種の水産生物用  
 水産3種：コイ、フナ等の水産生物用  
 注4) 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度  
 出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日 環境庁告示第59号）

表 3-2-42 (2) 生活環境の保全に関する環境基準 (湖沼)

ウ 全亜鉛等

	水生生物の生息状況の適応性	基準値			該当水域
		全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下	0.001mg/L以下	0.03mg/L以下	別に水域類型ごとに指定する水域
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.0006mg/L以下	0.02mg/L以下	
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生育する水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.05mg/L以下	
生物特B	生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.04mg/L以下	
備考：基準値は、年間平均値とする。					

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年12月28日 環境庁告示第59号)



(2) 水質汚濁防止法に基づく排水基準等

水質汚濁防止法に基づく排水基準及びダイオキシン類対策特別措置法に基づく排水基準を表3-2-43に示す。

また、長野県公害防止に関する条例に基づく上乘せ排水基準を表3-2-44に示す。  
なお、焼却施設は特定施設を有する工場に該当する。

表 3-2-43 (1) 排水基準 (有害物質に関する項目)

項目	許容限度	項目	許容限度
カドミウム及びその化合物	0.1mg/L	1,1-ジクロロエチレン	1mg/L
シアン化合物	1mg/L	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.4mg/L
有機燐化合物 (パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びEPNに限る。)	1mg/L	1,1,1-トリクロロエタン	3mg/L
鉛及びその化合物	0.1mg/L	1,1,2-トリクロロエタン	0.06mg/L
六価クロム化合物	0.5mg/L	1,3-ジクロロプロペン	0.02mg/L
砒素及びその化合物	0.1mg/L	チウラム	0.06mg/L
水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物	0.005mg/L	シマジン	0.03mg/L
アルキル水銀化合物	検出されないこと	チオベンカルブ	0.2mg/L
ポリ塩化ビフェニル	0.003mg/L	ベンゼン	0.1mg/L
トリクロロエチレン	0.3mg/L	セレン及びその化合物	0.1mg/L
テトラクロロエチレン	0.1mg/L	ほう素及びその化合物	海域以外：10mg/L
ジクロロメタン	0.2mg/L	ふっ素及びその化合物	海域以外：8mg/L
四塩化炭素	0.02mg/L	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	アンモニア性窒素に0.4を乗じたもの、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量100mg/L
1,2-ジクロロエタン	0.04mg/L	ダイオキシン類	10pg-TEQ/L
1,4-ジオキサン	0.5mg/L		

注 1) 「検出されないこと」とは、定められた方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

注 2) 砒素及びその化合物についての排出基準は、水質汚濁防止法施行令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の一部を改正する政令 (昭和 49 年政令第 363 号) の施行の際、現に湧出している温泉 (温泉法 (昭和 23 年法律第 125 号) 第 2 条第 1 項に規定するものをいう。以下同じ。) を利用する旅館業に属する事業場に係る排水については、当分の間適用しない。

出典：「排水基準を定める省令」(昭和 46 年 6 月 21 日 総理府令第 35 号)

「ダイオキシン類対策特別措置法施行令」(平成 11 年 12 月 27 日 政令第 433 号)

「ダイオキシン類対策特別措置法施行規則」(平成 11 年 12 月 27 日 総理府令第 67 号)

表 3-2-43 (2) 排水基準 (生活環境に係る項目)

項目	許容限度
pH	5.8 以上 8.6 以下
BOD	160 (日間平均 120) mg/L
COD	160 (日間平均 120) mg/L
SS	200 (日間平均 150) mg/L
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	5mg/L
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (動植物油脂類含有量)	30mg/L
フェノール類含有量	5mg/L
銅含有量	3mg/L
亜鉛含有量	2mg/L
溶解性鉄含有量	10mg/L
溶解性マンガン含有量	10mg/L
クロム含有量	2mg/L
大腸菌群数	日間平均 3,000 個/cm <sup>3</sup>
窒素含有量	120 (日間平均 60) mg/L
磷含有量	16 (日間平均 8) mg/L
備考	<p>1 「日間平均」による許容限度は、1日の排出水の平均的な汚染状態について定めたものである。</p> <p>2 この表の排水基準は、1日当たりの平均的な排出水の量が 50m<sup>3</sup>以上である工場又は事業場に係る排水について適用する。</p> <p>3 水素イオン濃度及び溶解性鉄含有量についての排水基準は、いおう鉱業 (いおうと共存する硫化鉄鉱を採掘する鉱業を含む。) に属する工場又は事業場に係る排水については適用しない。</p> <p>4 水素イオン濃度、銅含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量、クロム含有量についての排水基準は、水質汚濁防止法施行令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の一部を改正する政令の施行の際現に湧出している温泉を利用する旅館業に属する事業場に係る排水については、当分の間、適用しない。</p> <p>5 生物化学的酸素要求量 (BOD) についての排出基準は、海域及び湖沼以外の公共用水域に排出される排水に限って適用し、化学的酸素要求量 (COD) についての排出基準は、海域及び湖沼に排出される排水に限って適用する。</p> <p>6 窒素含有量についての排出基準は、窒素が湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼として環境大臣が定める湖沼、海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域 (湖沼であって水の塩素イオン含有量が 1L につき 9,000mg を超えるものを含む。以下同じ。) として環境大臣が定める海域及びこれに流入する公共用水域に排出される排水に限って適用する。</p> <p>7 磷含有量についての排水基準は、磷が湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼として環境大臣が定める湖沼、海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域として環境大臣が定める海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される排水に限って適用する。</p>

出典：「排水基準を定める省令」(昭和 46 年 6 月 21 日 総理府令第 35 号)

表 3-2-44 (1) 上乘せ排水基準 (有害物質に関する項目)

区分	項目	許容限度
水質汚濁防止法第 2 条第 2 項に規定する特定施設を有する工場又は事業場	カドミウム及びその化合物	0.05mg/L
	シアン化合物	0.5mg/L
	六価クロム化合物	0.3mg/L
	水銀及びアルキル水銀、その他の水銀化合物	0.003mg/L

注) 特定施設とは、次の各号のいずれかの要件を備える污水又は廃液を排出する施設で政令で定めるものをいう。

1. カドミウムその他の人の健康に係る被害を生ずるおそれがある物質として政令で定める物質 (以下「有害物質」という。) を含むこと。
2. 化学的酸素要求量その他の水の汚染状態 (熱によるものを含み、前号に規定する物質によるものを除く。) を示す項目として政令で定める項目に関し、生活環境に係る被害を生ずるおそれがある程度のものであること。

出典：「公害の防止に関する条例」(昭和 48 年 3 月 30 日 県条例第 11 号第 16 条)

表 3-2-44 (2) 上乗せ排水基準 (生活環境に関する項目)

排水量	項目及び許容限度			
	BOD 又は COD (mg/L)		SS (mg/L)	
	最大	日間平均	最大	日間平均
10m <sup>3</sup> 以上 50m <sup>3</sup> 未満	60	40	90	60
50m <sup>3</sup> 以上	30	20	50	30

出典：「公害の防止に関する条例」(昭和 48 年 3 月 30 日 県条例第 11 号第 16 条)

## 6. 地下水

環境基本法に基づく地下水の水質汚濁に係る環境基準及びダイオキシン類対策特別措置法に基づく水質に係る地下水の環境基準を表3-2-45に示す。

表 3-2-45 地下水の水質汚濁に係る環境基準等

項目	基準値	項目	基準値
カドミウム	0.003mg/L以下	1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下
全シアン	検出されないこと	トリクロロエチレン	0.03mg/L以下
鉛	0.01mg/L以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下
六価クロム	0.05mg/L以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L以下
砒素	0.01mg/L以下	チウラム	0.006mg/L以下
総水銀	0.0005mg/L以下	シマジン	0.003mg/L以下
アルキル水銀	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02mg/L以下
P C B	検出されないこと	ベンゼン	0.01mg/L以下
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	セレン	0.01mg/L以下
四塩化炭素	0.002mg/L以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下
塩化ビニルモノマー	0.002mg/L以下	ふっ素	0.8mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	ほう素	1mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下	1,4-ジオキサン	0.05mg/L以下
1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	ダイオキシン類	1pg-TEQ/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L以下		

注1) 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。

注2) 「検出されないこと」とは、定められた方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量下限を下回ることをいう。

出典：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日 環境庁告示第10号）

「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁及び土壌汚染に係る環境基準について」（平成11年12月27日 環境庁告示第68号）

## 7. 土壌

環境基本法に基づく土壌の汚染に係る環境基準及びダイオキシン類対策特別措置法に基づくダイオキシン類に関する環境基準を表3-2-46に示す。

表 3-2-46 土壌の汚染に係る環境基準

項目	環境上の条件	
	検液中濃度	農地における基準
カドミウム	0.01mg/L 以下	産米中濃度 0.4mg/kg 以下
全シアン	検出されないこと	—
有機燐	検出されないこと	—
鉛	0.01mg/L 以下	—
六価クロム	0.05mg/L 以下	—
砒素	0.01mg/L 以下	土壌中濃度（田に限る。）15mg/kg 未満
総水銀	0.0005mg/L 以下	—
アルキル水銀	検出されないこと	—
P C B	検出されないこと	—
銅	—	土壌中濃度（田に限る。）125mg/kg 未満
ジクロロメタン	0.02mg/L 以下	—
四塩化炭素	0.002mg/L 以下	—
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L 以下	—
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L 以下	—
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L 以下	—
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L 以下	—
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L 以下	—
トリクロロエチレン	0.03mg/L 以下	—
テトラクロロエチレン	0.01mg/L 以下	—
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L 以下	—
チウラム	0.006mg/L 以下	—
シマジン	0.003mg/L 以下	—
チオベンカルブ	0.02mg/L 以下	—
ベンゼン	0.01mg/L 以下	—
セレン	0.01mg/L 以下	—
ふっ素	0.8mg/L 以下	—
ほう素	1mg/L 以下	—
ダイオキシン類	1,000pg-TEQ/g 以下	—

### 備考

- 1 カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、セレン、ふっ素及びほう素に係る環境上の条件のうち、検液中濃度に係る値にあっては、汚染土壌が地下水水面から離れており、かつ、原状において当該地下水中のこれらの物質の濃度がそれぞれ地下水 1L につき 0.01mg/L、0.01mg/L、0.05mg/L、0.01mg/L、0.0005mg/L、0.01mg/L、0.8mg/L 及び 1mg/L を超えていない場合には、それぞれ検液 1L につき 0.03mg/L、0.03mg/L、0.15mg/L、0.03mg/L、0.0015mg/L、0.03mg/L、2.4mg/L 及び 3mg/L とする。
- 2 「検液中に検出されないこと」とは定められた方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量下限値を下回ることをいう。
- 3 ダイオキシン類（土壌）にあっては、環境基準が達成されている場合であって、土壌中のダイオキシン類の量が 250pg-TEQ/g 以上の場合には、必要な調査を実施することとする。

出典：「土壌の汚染に係る環境基準について」（平成 3 年 8 月 23 日 環境庁告示第 46 号）

「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁及び土壌の汚染に係る環境基準について」（平成 11 年 12 月 27 日 環境庁告示第 68 号）

## 8. 自然保護等

### 1) 環境関連法規制状況

対象事業実施区域及びその周辺における環境関連法令による指定、規制の状況を表3-2-47に示す。

表 3-2-47 関係法令による指定・規制の状況

法令等	内容	対象事業実施区域 及びその周辺*	うち対象事業 実施区域
自然環境保全法	原生自然環境保全地域	×	×
	自然環境保全地域	×	×
自然環境保全条例	郷土環境保全地域	×	×
	自然環境保全地域	×	×
自然公園法	国立・国定公園	×	×
	県立自然公園	×	×
鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律	鳥獣保護区	○	×
	特別保護地区	×	×
都市計画法	風致地区	○	×
都市公園法	都市公園	○	×
都市緑地保全法	緑地保全地区	×	×
森林法	保安林	○	×
農業振興地域の整備に関する法律	農業振興地域	○	×
砂防法	砂防指定地	○	×
地すべり等防止法	地すべり防止区域	×	×
	ぼた山崩壊防止区域	×	×
土砂災害防止法により長野県が指定	土砂災害特別警戒区域 (土石流)	○	×
	土砂災害特別警戒区域 (急傾斜地の崩壊)	○	×
	土砂災害特別警戒区域 (地すべり)	×	×
	土砂災害警戒区域 (土石流)	○	○
	土砂災害警戒区域 (急傾斜地の崩壊)	○	×
	土砂災害警戒区域 (地すべり)	×	×
急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律	急傾斜地崩壊危険区域	○	×
長野県水環境保全条例	水道水源保全地区	×	×

注1) 有：○ 無：×

注2) \*：対象事業実施区域及びその周辺とは、対象事業実施区域より半径4kmの範囲。

## 2) 鳥獣保護区

対象事業実施区域及びその周辺における鳥獣保護区の指定状況を表3-2-48に、鳥獣保護区の位置図を図3-2-10に示す。

対象事業実施区域の南には平尾富士鳥獣保護区がある。対象事業実施区域には鳥獣保護区は存在せず、関係地域範囲の全域を通じて鳥獣保護区は1件のみである。

表 3-2-48 鳥獣保護区の指定状況

名称	所在地	面積 (ha)	期限
平尾富士	佐久市	97	平成28年10月31日

出典：「平成25年度版 長野県鳥獣保護区等位置図」（平成25年、長野県）

## 3) 風致地区

対象事業実施区域及びその周辺における風致地区の指定状況を表3-2-49に、風致地区の位置図を図3-2-11に示す。

風致地区とは、都市の風致を維持するために、樹林地や丘陵地、水辺地等の良好な自然環境を保持している区域や城址、史跡、庭園等の歴史的景観を持つ区域などを、都市計画で定める地域地区である。

調査範囲には6件の指定地区があり、対象事業実施区域の付近では久保沢（第2種）が指定されている。なお、対象事業実施区域には風致地区の指定はない。

表 3-2-49 風致地区の指定状況

都市計画区域名	風致地区名	種別 <sup>注)</sup>	面積 (ha)	指定年月日
佐久	十二の森	第1種	15.8	S47.12.25
	久保沢	第1種	103.9	S47.12.25
		第2種	73.0	S47.12.25
	一里塚	第2種	116.2	S47.12.25
	雪窓	第1種	19.0	S47.12.25
		第2種	40.5	S47.12.25

注) 第1種：特に風致をそのまま保全するための規制を必要とする地区

第2種：風致の維持に支障のない範囲の規制で差し支えない地区

出典：長野県ホームページ「長野県統合型地理情報システム」

## 4) 都市公園

対象事業実施区域及びその周辺における都市公園の整備状況を表3-2-50及び図3-2-12に示す。

佐久市の区域には街区公園が11施設、近隣公園が1施設、地区公園が1施設、総合公園が1施設あり、御代田町の区域には地区公園が2施設、近隣公園が1施設ある。また、佐久市内に長野県立駒場公園がある。小諸市及び軽井沢町の区域には都市公園はない。

表 3-2-50(1) 対象事業実施区域周辺の都市公園

設置者	No. <sup>注1)</sup>	名称	種別 <sup>注2)</sup>	所在地
佐久市	1	岩村田公園	街区	佐久市岩村田字上の城地内
	2	中央公園	街区	佐久市岩村田字中宿地内
	3	若宮公園	街区	佐久市岩村田字宮ノ後地内
	4	久保田公園	街区	佐久市岩村田北一丁目地内
	5	仙祿湖公園	街区	佐久市岩村田北一丁目地内
	6	曾根公園	街区	佐久市岩村田北一丁目地内

表 3-2-50(2) 対象事業実施区域周辺の都市公園

設置者	No. 注1)	名 称	種別注2)	所在地
佐久市	7	枇杷坂公園	街区	佐久市岩村田字外西浦地内
	8	やまぼうし公園	街区	佐久市佐久平駅北地内
	9	ゆりのき公園	街区	佐久市佐久平駅東地内
	10	けやき公園	街区	佐久市佐久平駅南地内
	11	湯川親水公園	街区	佐久市岩村田字飯綱下及び鼻顔川原地内
	12	王城公園	近隣	佐久市岩村田字古城地内
	13	鼻顔公園	地区	佐久市岩村田字鼻顔、鼻顔上及び上小平並びに安原字小平及び棧敷地内
御代田町	14	平尾山公園	総合	佐久市上平尾字下伴助、大平、表沢及び馬弓並びに下平尾字一本松、丸山、中山寺、伴助久保及び北山寺地内
	15	雪窓公園	地区	御代田町大字御代田 4107 番 42
	16	やまゆり公園	地区	御代田町大字塩野 3036 番 48
佐久市・長野県	17	龍神の杜公園	近隣	御代田町大字御代田 2505 番 2
	18	駒場公園	総合	佐久市猿久保

注 1) 表中の番号は図 3-2-12 に対応している。

注 2) 街区：街区公園。もっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とする公園。一箇所当たり 0.25ha を標準として配置する。

近隣：近隣公園。主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園。一箇所当たり 2ha を標準として配置する。

地区：地区公園。主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園。一箇所当たり 4ha を標準として配置する。

総合：総合公園。都市住民全般の休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園。一箇所当たり 10～50ha を標準として配置する。

出典：佐久市公園条例（平成 19 年 3 月 23 日条例第 15 号）

御代田町公園条例（平成 22 年 12 月 13 日条例第 23 号）

長野県都市公園条例（昭和 41 年長野県条例第 23 号）

#### 5) 保安林

対象事業実施区域及びその周辺における保安林の指定状況を図3-2-13に示す。対象事業実施区域には保安林の指定はない。

#### 6) 農業振興地域内農用地区域

対象事業実施区域及びその周辺における農業振興地域内農用地区域の位置図を図 3-2-14に示す。周辺地域には農業振興地域内農用地区域は存在するが、対象事業実施区域には存在しない。

#### 7) 砂防指定地

対象事業実施区域及びその周辺における砂防指定地の指定状況を図3-2-15に示す。周辺地域には砂防指定地が8箇所存在するが、対象事業実施区域には砂防指定地は存在しない。

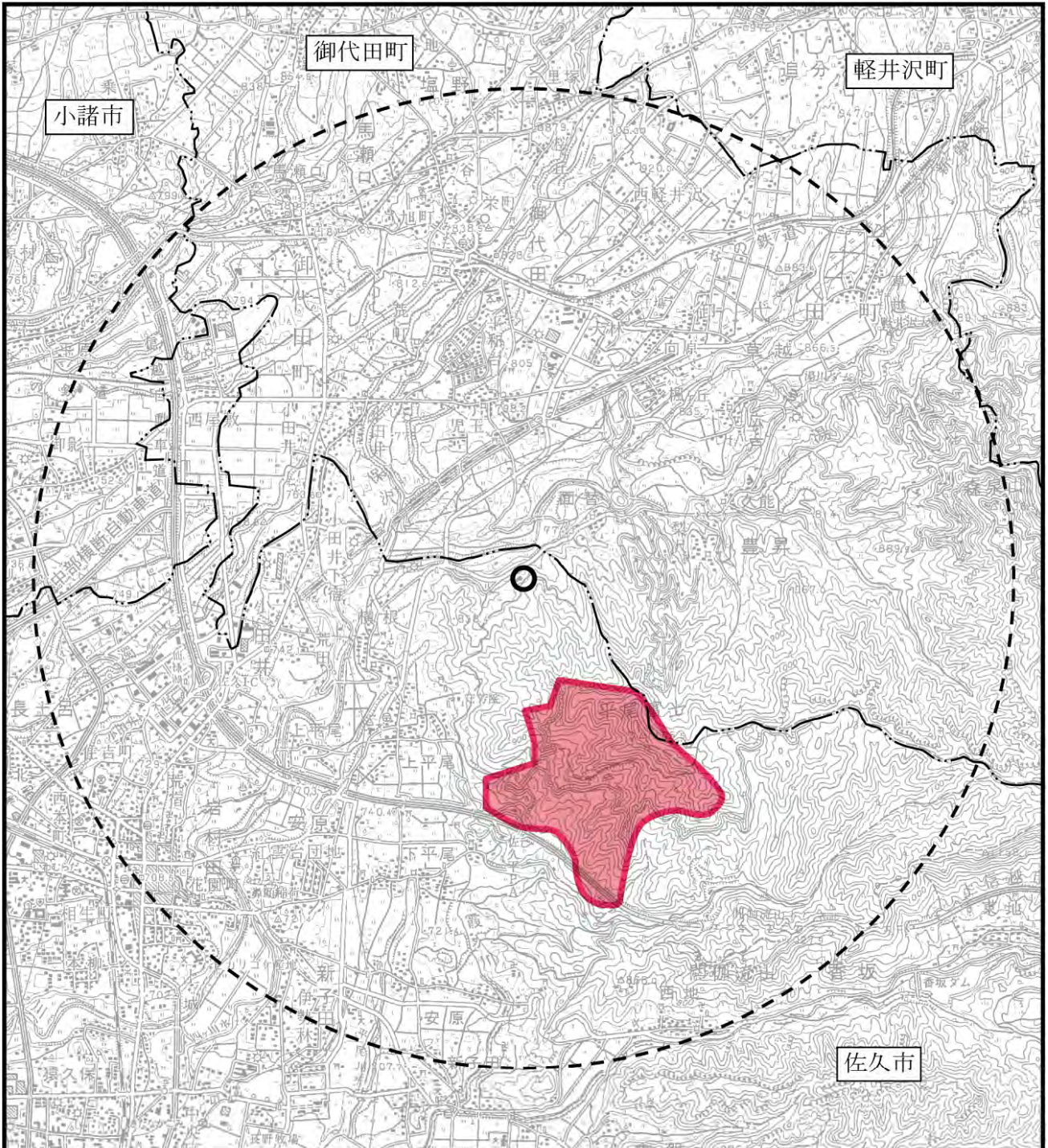
#### 8) 土砂災害警戒区域

対象事業実施区域及びその周辺における土砂災害警戒区域の指定状況を図3-2-15に示す。対象事業実施区域の一部が、土石流に係る土砂災害警戒区域に指定されている。

#### 9) 急傾斜地崩壊危険区域

対象事業実施区域及びその周辺における急傾斜地崩壊危険区域の指定状況を図 3-2-16に示す。対象事業実施区域付近では、「上尾崎」及び「城ノ腰」の2箇所が急傾斜地崩壊危険区域に指定されているが、対象事業実施区域は指定されていない。





凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 関係地域範囲
- : 鳥獣保護区

—— : 市町界

図 3-2-10

鳥獣保護区位置

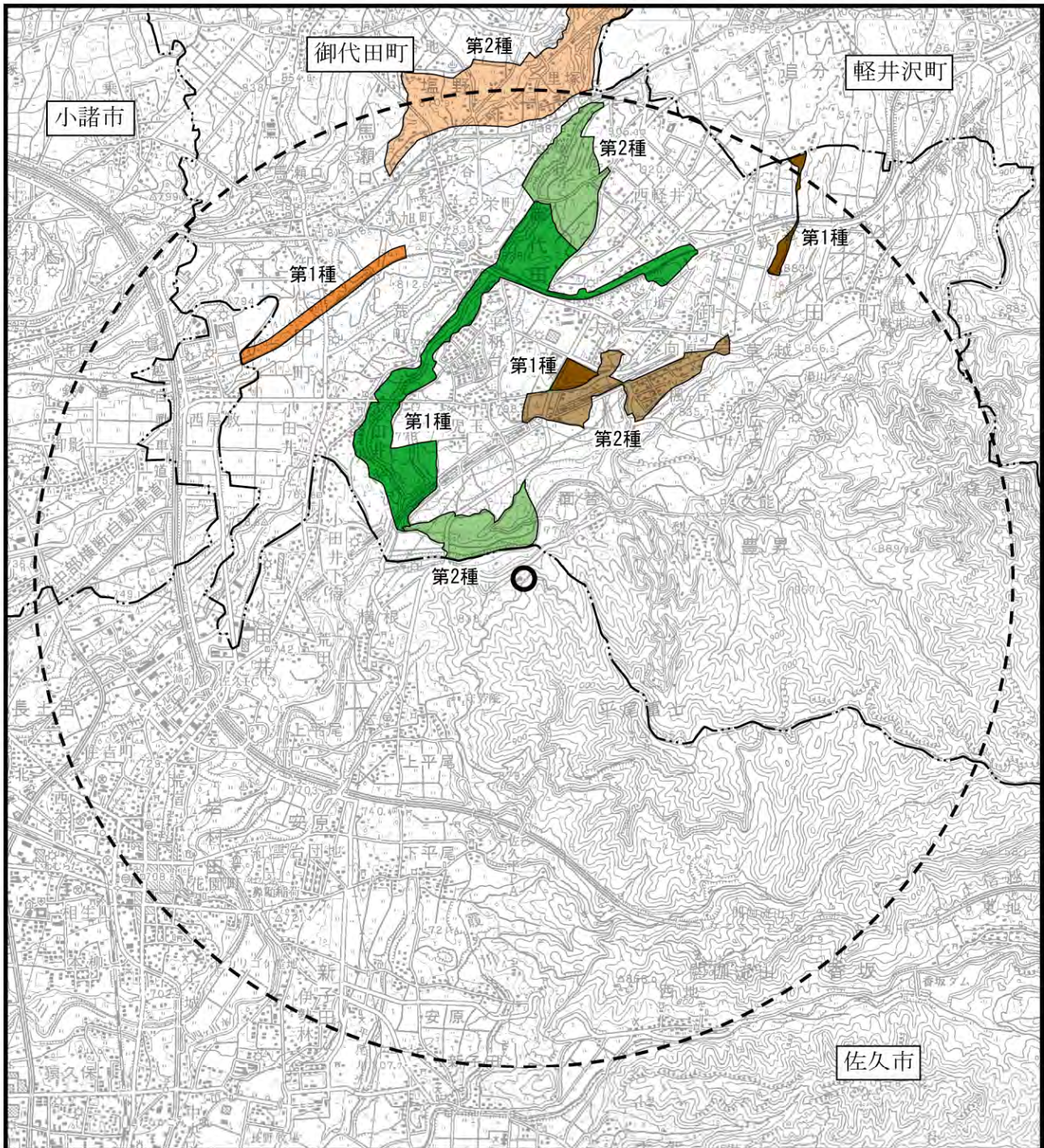
出典：「平成 25 年度版 長野県鳥獣保護区等位置図」  
(平成 25 年、長野県)



1:50,000

0 1 2km





凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- (orange) : 十二の森 (第1種)
- (green) : 久保沢 (第1種)
- (brown) : 雪窓 (第1種)
- (light orange) : 一里塚 (第2種)
- (light green) : 久保沢 (第2種)
- (tan) : 雪窓 (第2種)

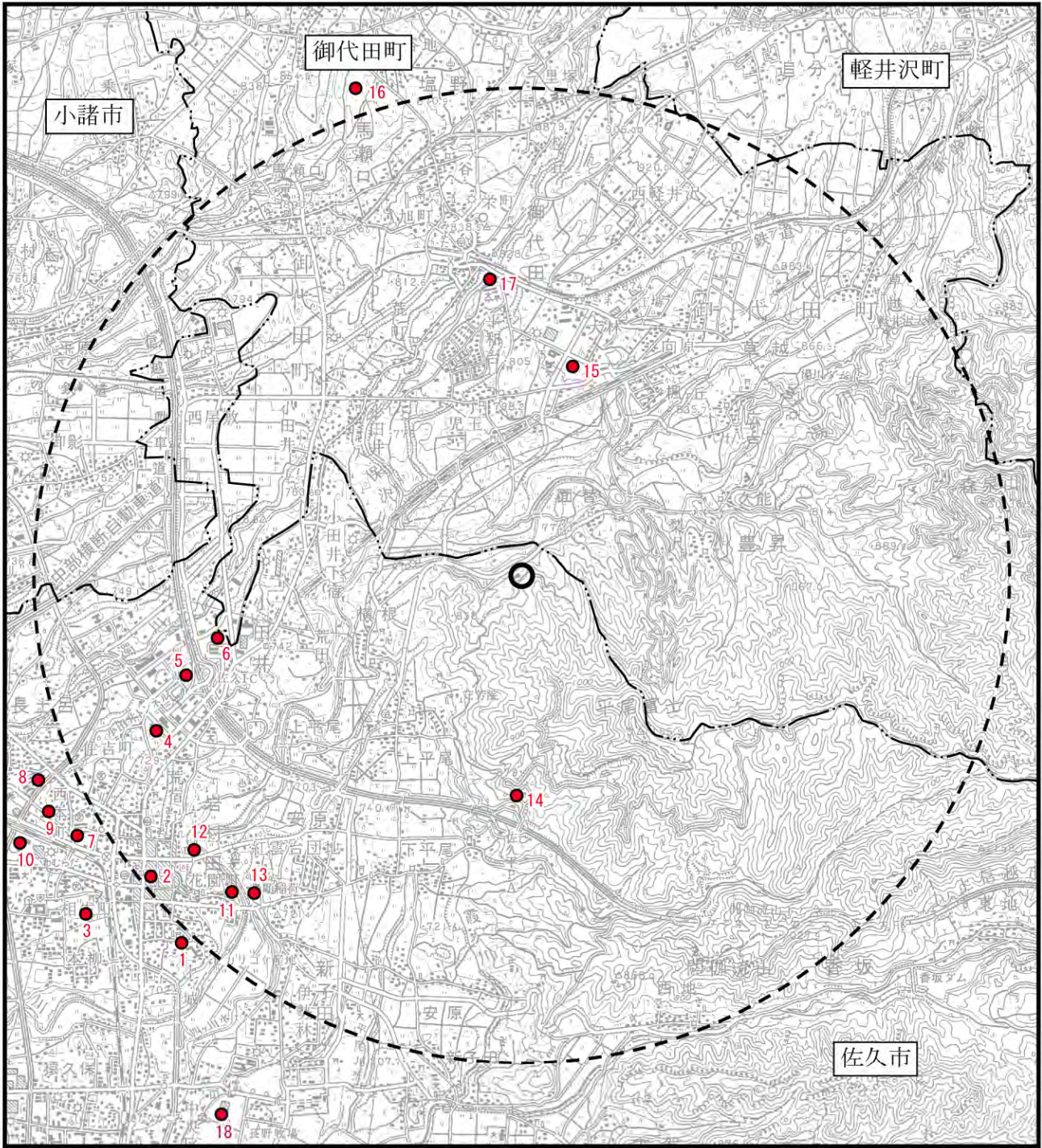
—— : 市町界

図 3-2-11  
風致地区位置図

出典：長野県ホームページ  
「長野県統合型地理情報システム」  
(時点情報：平成 21 年 3 月)







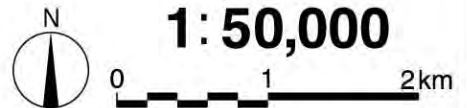
凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- : 都市公園

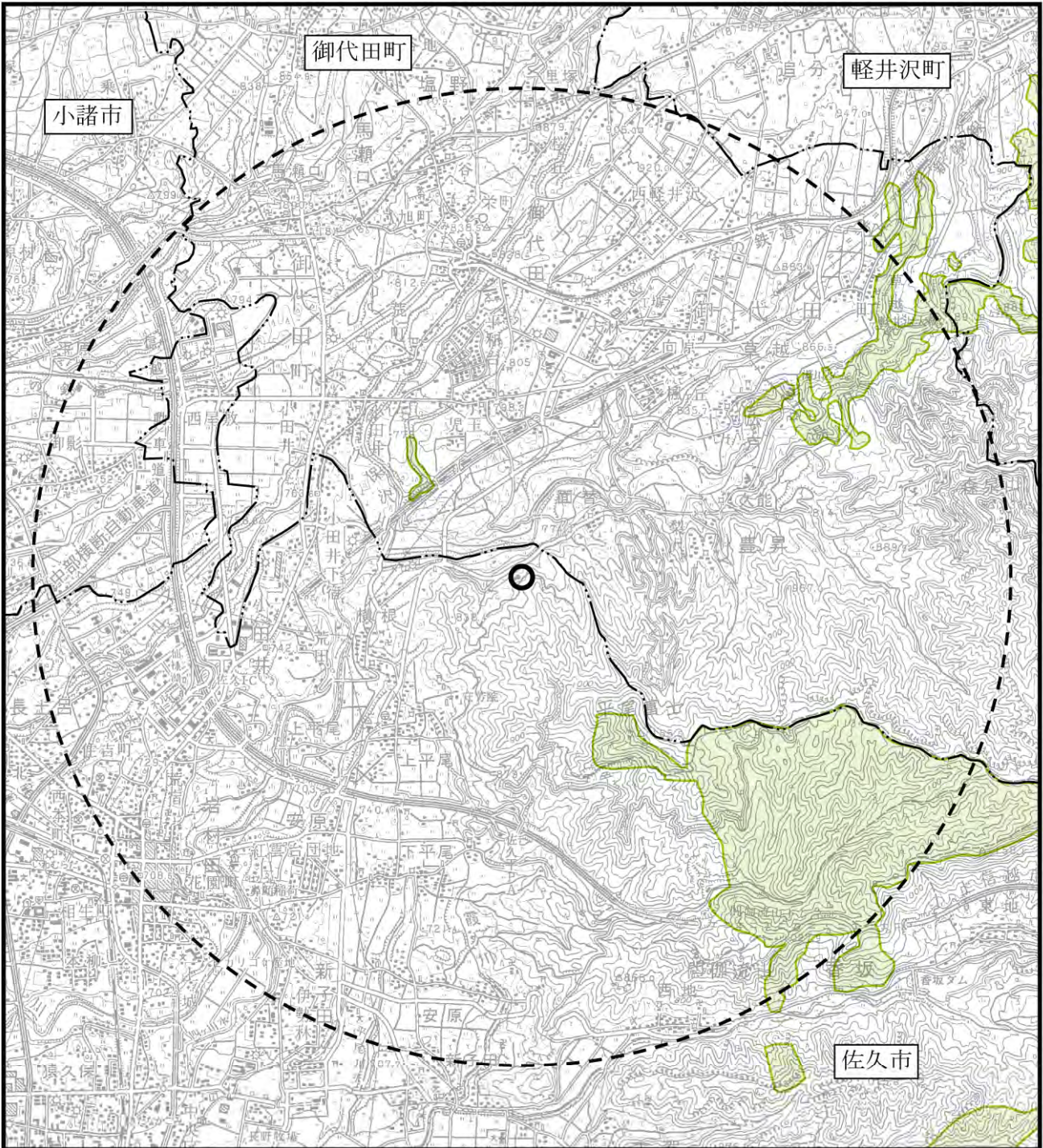
—— : 市町界

図 3-2-12  
都市公園位置図

出典：佐久市公園条例（平成19年3月23日条例第15号）  
佐久市ホームページ「公園の概要図」  
御代田町公園条例（平成22年12月13日条例第23号）







凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- (green) : 保安林

—— : 市町界

図 3-2-13

保安林位置図

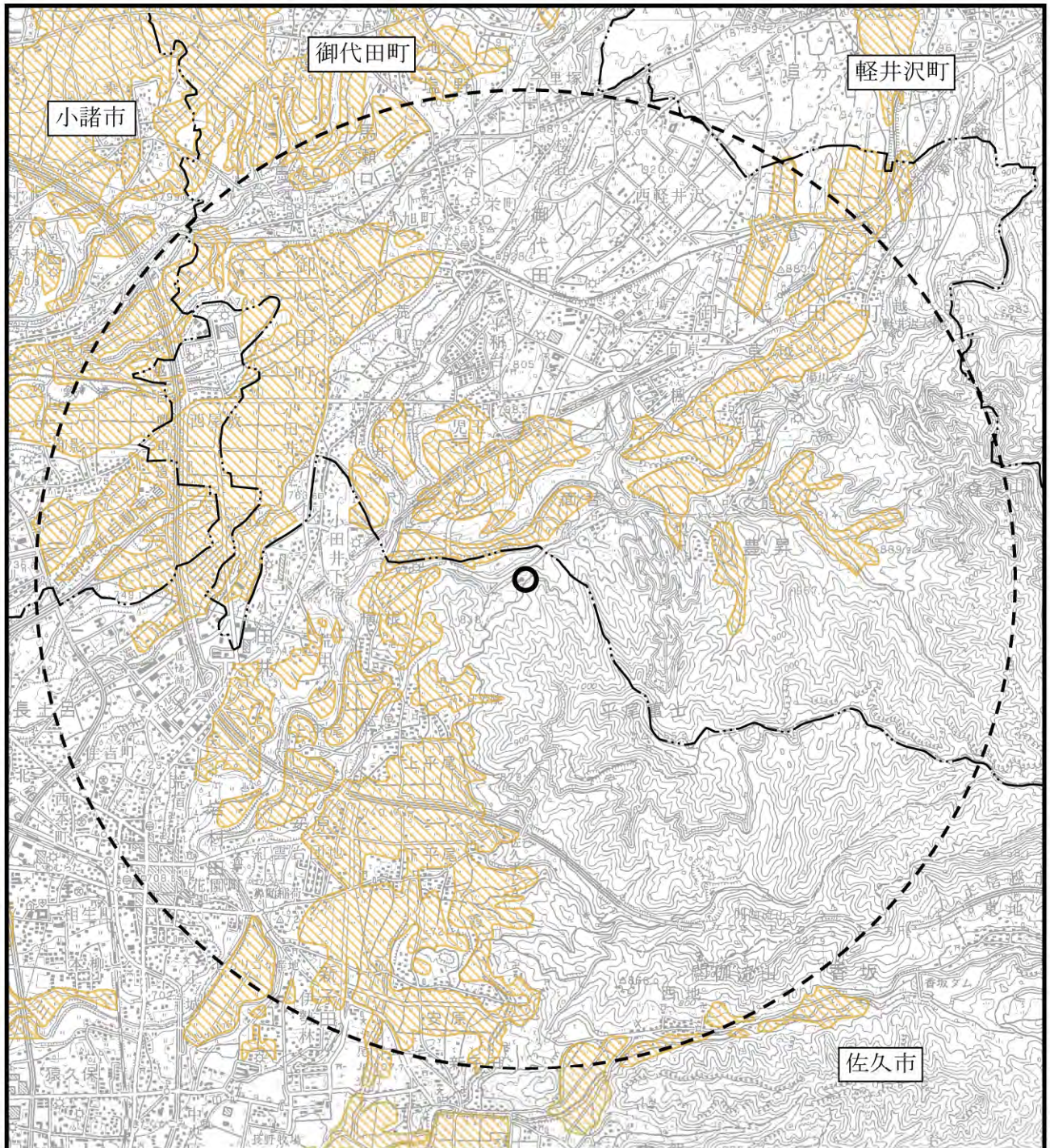
出典：国土交通省ホームページ  
「土地利用調整総合支援ネットワークシステム (LUCKY)」  
(平成 25 年 3 月 時点)






1:50,000







凡 例

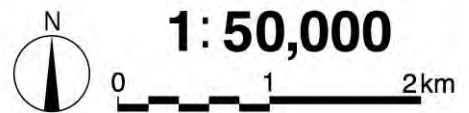
-  : 対象事業実施区域
-  : 関係地域範囲
-  : 農業振興地域

— · — · — : 市町界

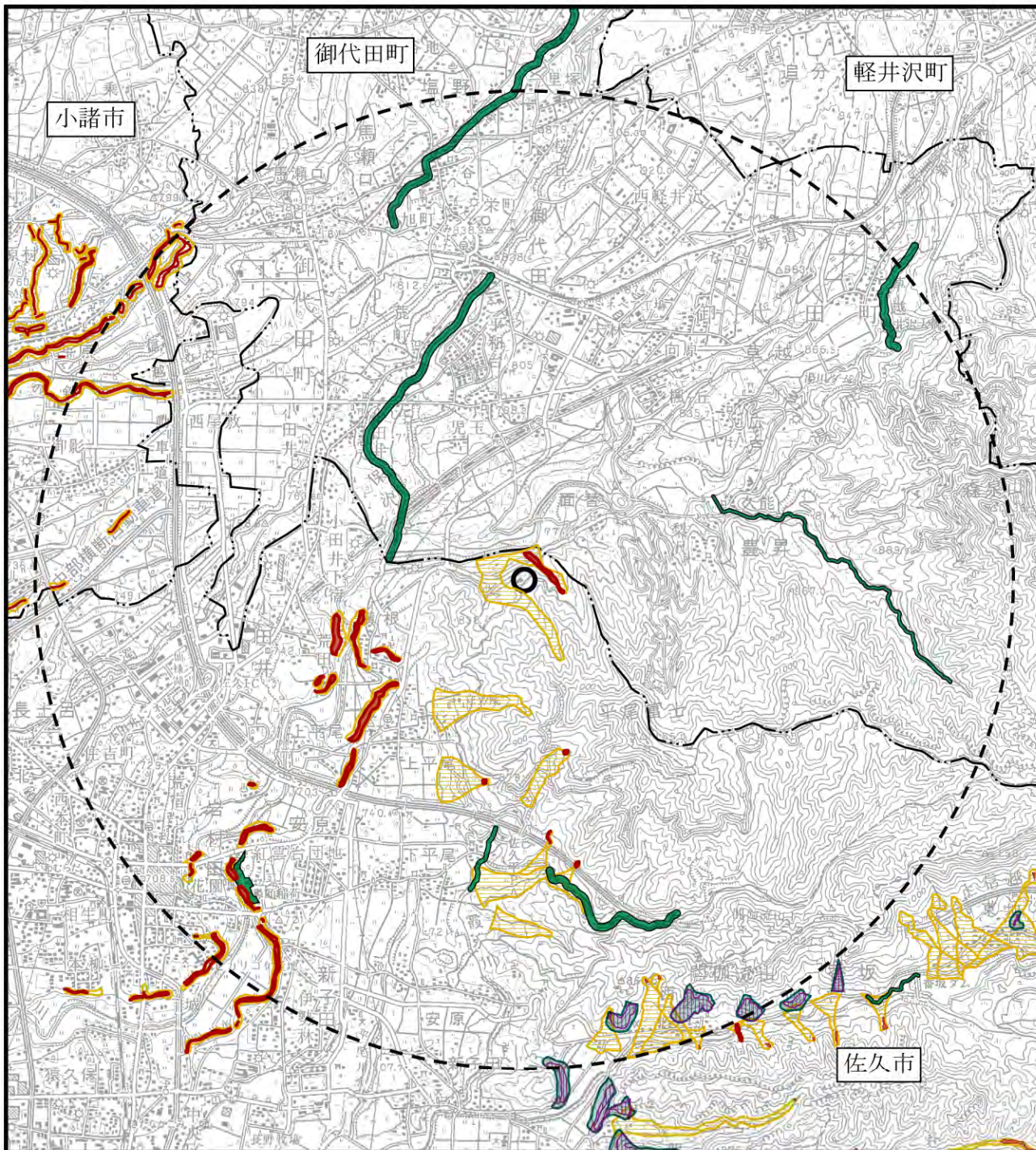
図 3-2-14

農業振興地域内農用地区域

出典：国土交通省ホームページ  
「土地利用調整総合支援ネットワークシステム (LUCKY)」  
(平成 25 年 3 月 時点)







凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 関係地域範囲
- : 砂防指定地
- : 土砂災害警戒区域 (Y 急傾斜地の崩壊)
- : 土砂災害特別警戒区域 (R 急傾斜地の崩壊)
- : 土砂災害警戒区域 (Y 土石流)
- : 土砂災害特別警戒区域 (R 土石流)

--- : 市町界

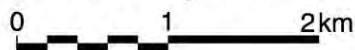
図 3-2-15

砂防法、土砂災害防止法に基づく  
指定状況

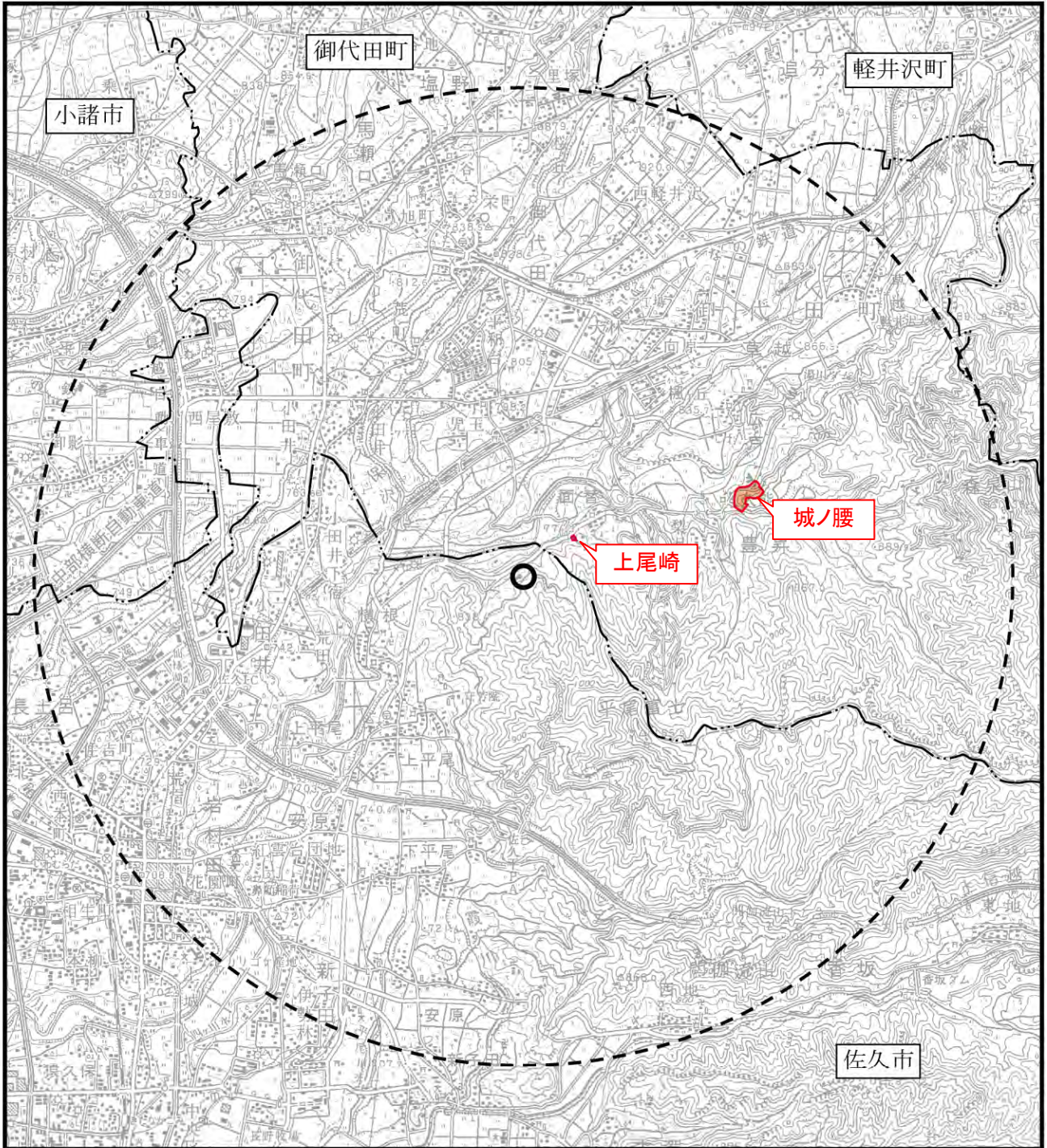
出典：長野県ホームページ  
「長野県統合型地理情報システム」  
(時点情報：平成 26 年 3 月)






1:50,000







凡 例

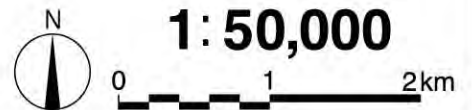
-  : 対象事業実施区域
-  : 関係地域範囲
-  : 急傾斜地崩壊危険区域

——— : 市町界

図 3-2-16

急傾斜地崩壊危険区域位置図

出典：長野県ホームページ  
「長野県統合型地理情報システム」  
(時点情報：平成 26 年 3 月)





## 9. 景観

### 1) 佐久市景観計画に基づく基準等

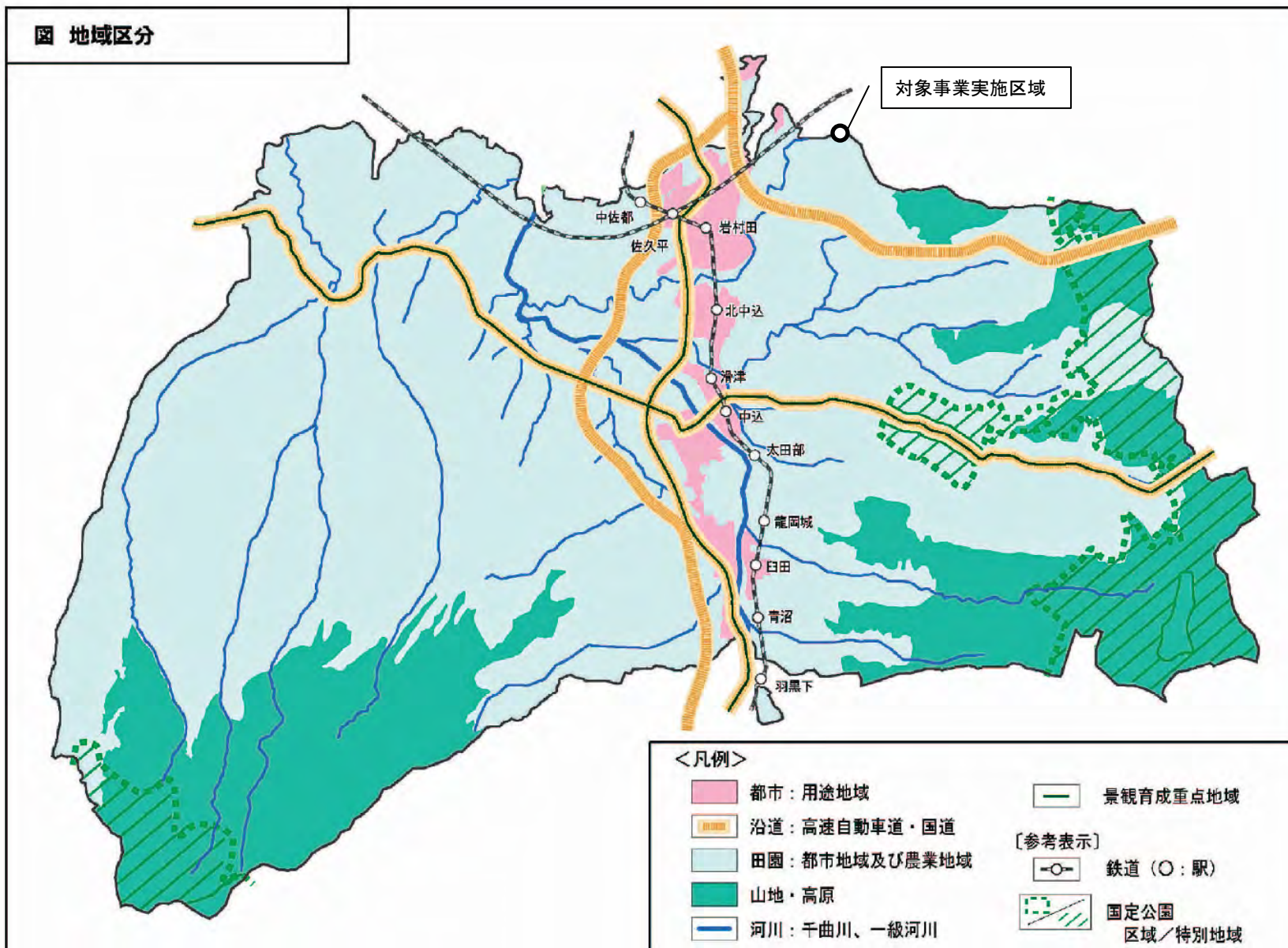
対象事業実施区域を含む佐久市の全域は、「佐久市景観計画」（平成21年12月、佐久市）の区域となっている。このうち、特に重点的に景観の育成を図る区域が「景観育成重点地域」として指定されているが、対象事業実施区域及びその周辺は指定されていない。同計画に基づく地域区分としては、表3-2-51及び図3-2-17に示すとおり「田園」に該当する。

「佐久市景観条例」（平成21年3月18日、条例第10号）では、市内において公共的団体が建築物、工作物の新築等を行う場合は、あらかじめ市長への通知を義務づけている。また、「公共事業景観育成指針」や、地域区分ごとの建築物の配置、規模、意匠等を定めた「景観育成基準」に準拠した計画とする必要がある。

表 3-2-51 佐久市景観計画における地域区分

地域区分	
都市	都市計画法に基づき用途地域として定められた地域
沿道	高速自動車国道、一般国道の道路両側30mの地域（都市を除く。）
河川	千曲川とその支流の1級河川の両側18mの地域（都市・沿道を除く。）
田園	国土利用計画に基づき都市地域及び農業地域として定められた地域（都市・沿道及び河川を除く。）
山地・高原	都市・沿道・河川及び田園を除く地域

出典：「佐久市景観計画」（平成21年12月、佐久市）



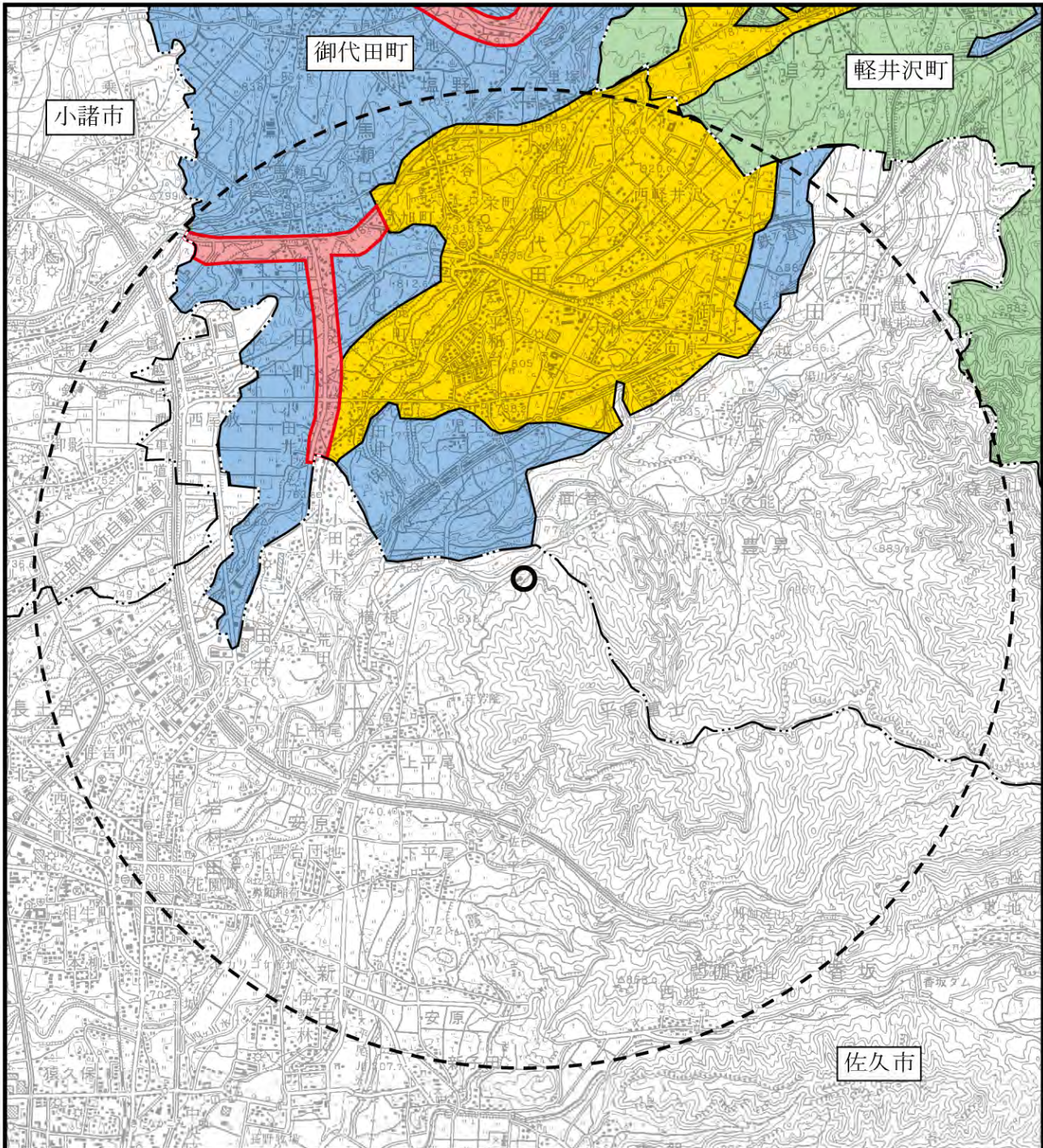
出典：「佐久市景観計画」（平成 21 年 12 月、佐久市）

図 3-2-17 佐久市景観計画における地域区分図

## 2) 長野県景観計画に基づく基準等

対象事業実施区域の周辺においては、景観法に基づく「長野県景観計画」（平成 17 年 12 月 22 日、長野県）において、図 3-2-18 に示すとおり、御代田町及び軽井沢町の区域の一部が「浅間山麓景観育成重点地域」に指定されているが、対象事業実施区域は当該地域に含まれない。





凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- (Yellow) : 都市
- (Red) : 沿 道
- (Blue) : 田 園
- (Green) : 山地・高原
- : 重点地域指定区域
- ⋯⋯ : 市町界

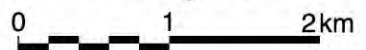
図 3-2-18

景観育成重点地域位置図

出典：長野県ホームページ「景観育成重点地域について」  
(更新日：平成 25 年 8 月 19 日)



1:50,000



## 10. 廃棄物等

長野県は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第2条で定める「廃棄物」の排出抑制、再使用、再生利用及びその適正処理の確保を目的に、「長野県廃棄物処理計画（第三期）」（平成23年2月、長野県）を策定している。

長野県は「長野県建設リサイクル推進指針」（平成14年5月、長野県）を定め、表3-2-52に示すとおり、多くの区分で国の基本方針より高いリサイクル目標値を設定し、建設系廃棄物の有効利用と適正処理に取り組んでいる。

表 3-2-52 長野県における建設系廃棄物の再資源化目標値

区分	長野県 平成 22 年目標値	国 平成 22 年目標値
アスファルト・コンクリート塊	100%	98%
コンクリート塊	100%	98%
建設発生木材	95%	95%
建設汚泥	60%	80%

## 11. 温室効果ガス等

長野県は、より実効性の高い地球温暖化対策を展開するとともに、省エネルギーと自然エネルギーの推進に加え、環境エネルギー政策を統合的に推進するため、「長野県環境エネルギー戦略～第三次長野県地球温暖化防止県民計画～」（平成25年2月）を策定している。

この計画では、地球温暖化ガス総排出量、最終エネルギー消費量、最大電力需要、自然エネルギー導入量、自然エネルギー発電設備容量の5指標について、短期（2020（平成32）年度）、中期（2030（平成42）年度）、長期（2050（平成62）年度）の目標値を表3-2-53に示すとおり定めている。

表 3-2-53 長野県環境エネルギー戦略の目標値

指標	基準年度	短期目標 2020 年度	中期目標 2030 年度	長期目標 2050 年度
温室効果ガス総排出量 <sup>注1)</sup>	15,311 千 t-CO <sub>2</sub>	10%削減	30%削減	80%削減
最終エネルギー消費量 <sup>注2)</sup>	18.6 万 TJ	15%削減	30%削減	40%削減
最大電力需要 <sup>注2)</sup>	297 万 kW	15%抑制	25%抑制	45%抑制
自然エネルギー導入量 <sup>注2)</sup>	1.1 万 TJ	増加率 55.1%	増加率 124.5%	増加率 243.5%
自然エネルギー発電設備容量 <sup>注2)</sup>	10 万 kW	増加率 200%	増加率 500%	増加率 800%

注1) 1990（平成2）年度比

注2) 2010（平成22）年度比

出典：長野県ホームページ「長野県環境エネルギー戦略～第三次長野県地球温暖化防止県民計画」



## 2-8 地域の環境に係る方針等の状況

### 1. 佐久市環境基本計画

佐久市は、「佐久市環境基本条例」（平成17年4月1日、条例第110号）に基づき、「佐久市環境基本計画」を策定している。本計画は、平成17年4月の市町村合併により、新佐久市が誕生したことから、新市域における地域別の環境配慮方針を策定するとともに、循環型社会構築に向け、新たな方策などを追加し、平成20年3月に策定したものである。本計画における施策の体系を表3-2-54に示す。

表 3-2-54 佐久市環境基本計画における施策の体系

	基本施策	個別目標	個別施策	施策の具体的な内容
望ましい環境像《水と緑きらめく自然を、みんなの力で未来に伝えるまち》	安全な生活環境の保全	清らかで豊かな水を確保します。	水環境の保全	①生活排水、事業活動からの排水対策の推進 ②水質の監視や水源の維持・管理等水資源の保全
		澄みわたるさわやかな空気を確保します。	大気環境の保全	①事業活動からのばい煙、自動車等からの排ガス対策の推進 ②大気質の監視や家庭ごみ等の野外焼却対策等の継続
		静けさや快適さが保たれた安全かつ健全な生活環境を確保します。	安全な生活環境の確保	①騒音・振動、悪臭、土壌汚染防止対策、化学物質対策の推進 ②公害苦情の適正処理の推進
		地球環境問題を正しく認識し、地球環境の保全に取り組みます。	地球環境の保全	①地球温暖化対策の推進 ②酸性雨対策の継続
	良好な自然環境の保全	身近で親しみやすい快適な水辺空間を確保します。	水辺の保全と改善	①水辺空間の保全 ②水辺空間の整備と利用の推進
		農地・森林を保全し、豊かで美しい自然環境を確保します。	農地・森林の保全と活用	①農地の保全と活用 ②森林の保全と活用
		動植物の生態系を保全し、多様な生物が息できる環境を確保します。	動物・植物の保全	①生態系全体を考慮した適正な自然環境の保全 ②外来種対策等の推進
		里山を保全し、自然環境と生活環境の均衡を図ります。	里山の保全と再生	①里山の環境の維持・回復 ②鳥獣による被害の把握と適切な対策の確立
	快適な環境の創造	自然環境と一体となった美しい景観を創出します。	景観の保全と創造	①景観の保全 ②景観の創造
		市民へ潤いと安らぎを与える快適な環境を創出提供します。	住み良い環境の確保	①自然とふれあう場所の整備 ②自然とふれあう活動の推進
	循環型社会の構築	地球環境にやさしい新エネルギーの積極的利用を図ります。	新エネルギーの有効利用の推進	①地域特性に応じた新エネルギーの導入 ②新エネルギーの導入に向けた体制・システムの構築
		省資源・省エネルギーを進め、資源・エネルギーの有効活用を図ります。	省資源・省エネルギーの推進	①省資源・省エネルギーの推進 ②省資源・省エネルギー機器等の普及推進
		ごみの減量とリサイクルに取り組み、環境への負荷の抑制に努めます。	廃棄物の減量、リサイクルの推進	①廃棄物の排出抑制、リサイクルの推進 ②不法投棄の防止、環境美化の推進
	協調した環境保全への取り組み	個々の取り組みに加え、市民、事業者、市が協働した環境保全活動を進めます。	環境保全活動の推進	①一人ひとりの環境保全の取り組みの推進 ②市民、事業者、市が協働した環境保全の取り組みの推進
		様々な団体の連携・協力のもとで環境保全活動の輪を広げます。	ネットワーク形成の推進	①各種団体等との連携・協力の推進 ②地域コミュニティの活性化
		環境教育・環境学習により、環境への意識の向上を図ります。	環境教育・環境学習の推進	①あらゆる場での環境教育の推進 ②環境情報の提供、環境学習の場所・機会の整備

出典：「佐久市環境基本計画」（平成20年3月、佐久市）

## 2. 御代田町環境保全条例

御代田町では、「本町の良好な自然環境及び生活環境を保全すると共に住民の健康で快適な生活を確保するため必要な事項を定め、もって住み良い郷土の実現を期すること」を目的とした「御代田町環境保全条例」(平成元年3月31日、条例第3号)を制定している。

## 3. 佐久市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画

「佐久市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」(平成17年4月1日、条例第106号)に基づく「一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」は、平成16年度を基準年度とし、平成18年3月に平成36年度を最終目標年次と設定して策定され、廃棄物の排出を抑制し(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)する取り組みにより、一般廃棄物を適正かつ合理的に処理する「循環型社会」の形成を目指してきた。

その後、平成23年3月に見直しが行われた本計画の基本方針は以下のとおりである。

### 【一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の基本方針】

方針1: 市民、事業者、行政の役割分担と協働によるごみ減量化・資源化を推進します。

- 市民、事業者、行政のパートナーシップの推進
- ごみの3R、リデュース(排出抑制)・リユース(再使用)・リサイクル(再生利用)に係る施策の総合的な展開
- 数値目標の共有化
- 環境教育の推進

方針2: 効率的な資源循環システムを構築します。

- 効率的な収集運搬体制の整備
- 中間処理施設の適正な維持管理
- 最終処分計画の構築

方針3: 資源循環できないごみの適正処理・処分を推進します。

- 中間処理施設の更新

## 4. 御代田町一般廃棄物(ごみ)処理基本計画

御代田町では、「廃棄物の発生を抑制するとともに廃棄物の適正な分別、保管、収集、運搬、再生、処分等の処理を行い、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、もって町民の健康で快適な生活を確保すること」を目的とした「御代田町一般廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」(平成7年9月20日、条例第17号)を制定している。

同条例に基づく「御代田町一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」は、平成22年度を基準年度とし、平成23年3月に平成32年度を最終目標年次と設定し、『町民・事業者・行政との協働による資源循環のまちづくり』を計画目標とし策定した。

### 【御代田町一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の基本方針】

方針1: 町民、事業者、行政の役割分担と協働によるごみ減量・リサイクルを推進します。

- 町民、事業者、行政のパートナーシップの推進
- ごみの3Rに係る施策の総合的な展開
- 数値目標(家庭系ごみ/事業系ごみ)の共有化
- 環境教育の推進

方針2: 効率的な資源循環システムを構築します。

- 効率的な収集・運搬システム構築
- エネルギー利用のできる施設整備
- 埋立処分量を最小化する処理システムの構築

方針3: ごみの適正処理・処分を推進します

- 新たな枠組みによる広域処理の実現

## 5. 開発動向

### 1) 国土利用計画（佐久市計画）

「国土利用計画（佐久市計画）」は、平成19年3月に策定され、平成24年3月に改訂が行われている。本市の調和ある持続的発展と一体性の確保を基本として、各地域の自然的、社会的、経済的及び文化的諸条件を踏まえ、市民の理解と協力のもとに、公共の福祉を優先させ、安全で快適な生活環境の確保と地域の特性を生かした土地利用を、総合的かつ計画的に行うことを基本理念として、「広域拠点都市としての機能の充実」、「産業基盤の充実」、「魅力発信による交流の促進」、「市土利用の適正化と質的向上」、「新しい公共との連携、協働の取組み」を土地利用の基本的な方向として定め、本市の将来都市像である「叡智と情熱が結ぶ、21世紀の新たな文化発祥都市」の実現を目指している。計画の基準年次は平成21年、目標年次は平成28年である。

佐久市における利用区分ごとの規模の目標の概要を表3-2-55に、地域別の土地利用の概要と目標を表3-2-56及び図3-2-19に示す。

なお、対象事業実施区域では、大規模な開発は計画されていない。

表3-2-55 利用区分ごとの規模の目標の概要

利用区分	規模の目標の概要
農用地	田は 108ha 程度減少、畑は 95ha 程度減少し、採草放牧地は増減無しと見込まれる。よって目標年次における農用地の面積は、203ha 程度減少し、6,885ha 程度とする。田・畑の面積が減少する要因は、道路用地、住宅地、工業用地等への転換等である。
森林	国有林は増減が無く、民有林は 15ha 程度の減少が見込まれる。よって目標年次における森林の面積は、15ha 程度減少し、26,238ha 程度とする。民有林の面積が減少する要因は、道路等への転換である。
原野	目標年次における面積は、1ha 程度減少し、36ha 程度とする。減少する要因は、公共用地等への転換である。
水面 河川 水路	水面・河川は増減が無く、水路は 5ha 程度の減少が見込まれる。よって目標年次における水面・河川・水路の面積は、5ha 程度減少し、1,079ha 程度とする。水路面積が減少する要因は、田の利用転換に伴う農業用水路のかい廃等である。
道路	一般道路（高速道路、国道、県道、市道）は 106ha 程度の増加、農道は 7ha 程度の減少、林道は 1ha 程度の増加が見込まれる。よって目標年次における道路の面積は、100ha 程度増加し、2,079ha 程度とする。増加要因は中部横断自動車道をはじめとする道路の新設改良であり、減少要因は田・畑の利用転換に伴う農道のかい廃等である。
宅地	住宅地については、人口及び世帯数の増加に伴い、40ha 程度の増加が見込まれる。工業用地については、新たな工業用地の確保等により、65ha 程度の増加が見込まれる。その他の宅地（商業・業務用地等）については、用途地域内の土地の有効利用や都市機能充実のための土地利用の促進等により、50ha 程度の増加が見込まれる。よって目標年次における宅地の面積は、155ha 程度増加し、2,492ha 程度とする。
その他	目標年次における面積は、31ha 程度減少し、3,590ha 程度とする。減少要因は、公共用地から道路や宅地等への転換である。

出典：佐久市ホームページ「国土利用計画（佐久市計画）の改訂について」



出典：佐久市ホームページ「国土利用計画（佐久市計画）の改訂について」

図3-2-19 国土利用計画における地域区分

表3-2-56 (1) 地域別の土地利用の概要と目標

地域区分	地域特性及び現状	取組事項
①北部地域	<p>長野新幹線佐久平駅、上信越自動車道佐久インターチェンジ及び中部横断自動車道佐久北インターチェンジ、佐久中佐都インターチェンジを有し、佐久平駅を中心として高速交通網や幹線道路の整備に伴う新たな商業集積が形成され、本市の中心的市街地となっている。広域圏の拠点地域としての都市機能を高めるとともに、地域間交流の中心地として魅力を向上していく必要がある。</p> <p>佐久平駅周辺の土地区画整理事業で整備された区域は、商業の集積が進み、土地利用が図られていることから、新たな開発需要の受け皿として、佐久平駅から佐久中佐都インターチェンジにかけての地域についても、都市的土地利用を推進していく必要がある。</p> <p>また、佐久総合病院の再構築に伴い、中込原地区に佐久総合病院佐久医療センターが開設される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住居系・商業系・工業系の各用途区分に応じた土地利用と、低・未利用地の有効利用を促進する。</li> <li>●佐久北インターチェンジ周辺は、住宅地などの民間開発の適切な誘導を図る。</li> <li>●佐久中佐都インターチェンジ周辺は、地域幹線道路等の整備を推進するとともに、産業振興、企業誘致のための基盤整備を図ります。</li> <li>●佐久平駅南から佐久中佐都インターチェンジにかけての土地については、新たな土地利用の受け皿として、都市的土地利用を推進する。</li> <li>●種豚場跡地には、武道館、研修センターを移転し、文化・スポーツの交流の場として有効利用を図る。</li> <li>●中込原地区の佐久総合病院佐久医療センター周辺については、都市基盤の整備を図る。</li> </ul>
②南部地域	<p>中込、野沢、臼田の中心市街地があり、また、用途地域外には、大規模な優良農用地が広がっている。</p> <p>近年、商店街の空洞化が進んでいるため、商店街における連携と活性化に向けた取組みが重要となっている。空き店舗の再利用や低・未利用地の有効利用を図り、地域住民の暮らしの基盤として、賑わいがある商店街の再生が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商店街の空き店舗や空地を有効利用し、地域の活性化を目指す。</li> <li>●地域の個性や特色を生かした便利で魅力ある市街地形成を図る。</li> <li>●臼田地区の市街地については、佐久総合病院の再構築と併せたまちづくりを推進する。</li> <li>●優良農用地の保全に努める。</li> <li>●幹線道路沿線の優良農用地についても保全に努めるとともに、無秩序な土地利用を抑制するため、特定用途制限地域の指定等について検討する。</li> </ul>

表3-2-56 (2) 地域別の土地利用の概要と目標

地域区分	地域特性及び現状	取組事項
③ 東部地域	平坦地は農村集落が散在する農業地帯であり、北部に観光拠点である平尾山公園、工業団地として佐久リサーチパーク、また、南部には龍岡城五稜郭、離山南工業団地がある。全体として優良農用地を保全しつつ、工業用地、住宅地等との調和に配慮した土地利用を図る区域である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●優良農用地の保全に努める。</li> <li>●平尾山一帯は、森林の保健休養機能を生かした有効利用を推進する。</li> <li>●龍岡城五稜郭周辺は、貴重な景観資源を生かし、観光拠点としての周辺整備を進める。</li> <li>●工業団地の未分譲地への積極的な企業誘致を推進する。</li> <li>●市民のスポーツ・レクリエーション活動の拠点、広域スポーツ交流の中核施設として、緑豊かな総合運動公園の整備を推進する。</li> </ul>
④ 東部山間地域	大部分を森林が占め、河川沿いに農用地、集落が分布し、妙義荒船佐久高原国定公園を含む優れた自然環境を有している。農用地の保全、森林の保全・育成を図るとともに、自然の有効利用を図る区域である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林の除間伐の促進や森林整備の効率化を図り、多様な公益的機能の保全に努める。</li> <li>●中山間農用地を活用した農村振興を図る。</li> <li>●観光や農業体験などを通じた都市と農村との交流を推進し、耕作放棄地等の有効利用を進める。</li> </ul>
⑤ 西部地域	農村集落が散在する農業地帯であり、「五郎兵衛新田」に代表される水田をはじめ、果樹、花き、野菜の栽培も行われており、優良農用地の保全を基本とした土地利用を図る区域である。 国道 142 号沿線には、中部横断自動車道佐久南インターチェンジの供用が開始され、引続き延伸工事が進んでいる。佐久南インターチェンジ・臼田インターチェンジ（仮称）周辺について新たな土地需要が予想されることから、適正な土地利用への誘導を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●優良農用地の保全に努める。</li> <li>●佐久南インターチェンジ周辺は、佐久の魅力を発信するための、サービスエリア的機能を有した拠点の整備を推進する。</li> <li>●臼田インターチェンジ（仮称）は、臼田地区の観光施設や商店街への人の流れを呼び込み、定住及び交流人口の創出に向けた道路整備等の検討を進める。</li> </ul>
⑥ 北西部地域	良好な田園風景を形成している水田地帯が多く、また、中山道の宿場町として栄えた望月宿・茂田井間の宿には、現在も歴史的な街並みが残されている。 農用地の保全と良好な景観の形成に向けた土地利用を図る区域である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●優良農用地の保全に努める。</li> <li>●田園景観の保全に努めるとともに、地域拠点においては活気あるまちづくりを推進する。</li> <li>●狭あい道路の解消に努め、良好な居住環境の形成を推進する。</li> <li>●歴史的観光資源を生かした誘客を図り、地域の活性化を目指す。</li> </ul>
⑦ 西部山間地域	大部分を森林が占め、緩やかな丘陵地帯は冷涼な気候を生かした高原野菜の生産が行われているほか、良好な自然、気候等地域の特性を生かした温泉、ゴルフ場、別荘地などが点在している。 豊かな自然を有する森林の保全・育成を図りつつ、森林の持つ多面的機能を広範な人々に提供する土地利用を図る区域である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林の保全に努めるとともに、有効利用を図り、地域間交流を促進する。</li> <li>●春日温泉の良質で豊かな温泉資源を生かし、観光及び健康づくりの拠点として交流人口の創出を図る。</li> <li>●高原野菜の一大産地である長者原周辺等の農用地の保全、有効利用を促進する。</li> <li>●豊かな自然環境の中での暮らしを求める都会からの I ターン・U ターンなどの需要を取り込み、定住人口の増加、耕作放棄地の有効利用を推進する。</li> </ul>

出典：佐久市ホームページ「国土利用計画（佐久市計画）の改訂について」

## 2) 第二次御代田町計画

御代田町の国土利用計画である「第二次御代田町計画」は平成22年12月に策定されている。地域の自然的条件、社会的条件、経済的条件および文化的条件を踏まえ、公共の福祉を優先させつつ、健康で快適な生活環境の確保と地域の特性を生かした均衡ある発展を図ること、総合的なマネジメントを進める中で利用目的に応じた区分（利用区分）ごとの土地需要の量的な調整を行うこと、多様な主体との協働による管理などにより、町土のより一層の質的向上を図ることを基本方針として、利用区分別の町土利用の基本方向を定めている。計画の基準年次は平成20年、目標年次は平成37年である。

御代田町における利用区分ごとの基本方向を表3-2-57に示す。また、土地利用にあたっては、性格の異なる5つのゾーニングを町土地利用の基本として、都市計画法等の個別法の適合性を図りながら、一体的な土地利用を行い、均衡ある町土の発展を図ることとしている。土地利用ゾーン配置基本図を図3-2-20に、ゾーニングの内容を表3-2-58に示す。



表3-2-57 利用区分ごとの基本方向

利用区分	基本方向
農用地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営の規模拡大および農用地等の効率的かつ総合的な利用を図る。</li> <li>・優良農用地を保全・確保し、農業経営の安定化を図る土地利用を進める。</li> <li>・耕作放棄地の発生防止に努める。</li> </ul>
森林	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の経済的・多面的機能を増進するため、必要な森林の整備と確保を図る。</li> <li>・保健休養の場としての利用を推進し、総合的な利用を図る。</li> </ul>
水面 河川 水路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川整備、治水、砂防・排水施設、農業施設の整備に努める。</li> </ul>
道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般道路は、幹線道路、生活道路、各ゾーンを結ぶ道路などの整備促進を図る。</li> <li>・農林道は、個別計画に基づき計画的かつ効果的に整備を推進する。</li> </ul>
宅地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅地は、既存の社会資本の効率的な活用と新たな整備により適正な配置を進める。</li> <li>・御代田町環境保全条例等により、良好な住環境および景観の形成を図る。</li> <li>・新たな工業用地の確保は、社会経済状況等を勘案しながら慎重に検討する。</li> <li>・リゾート・商業・流通施設等の整備を計画的かつ効率的に進める。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公用・公共施設は、地域の充足度に応じて計画的に整備を進める。</li> <li>・耕作放棄地の再生利用を図るとともに、有効で適切な利用に努める。</li> </ul>

出典：「国土利用計画（第二次御代田町計画）」（平成22年12月、御代田町）

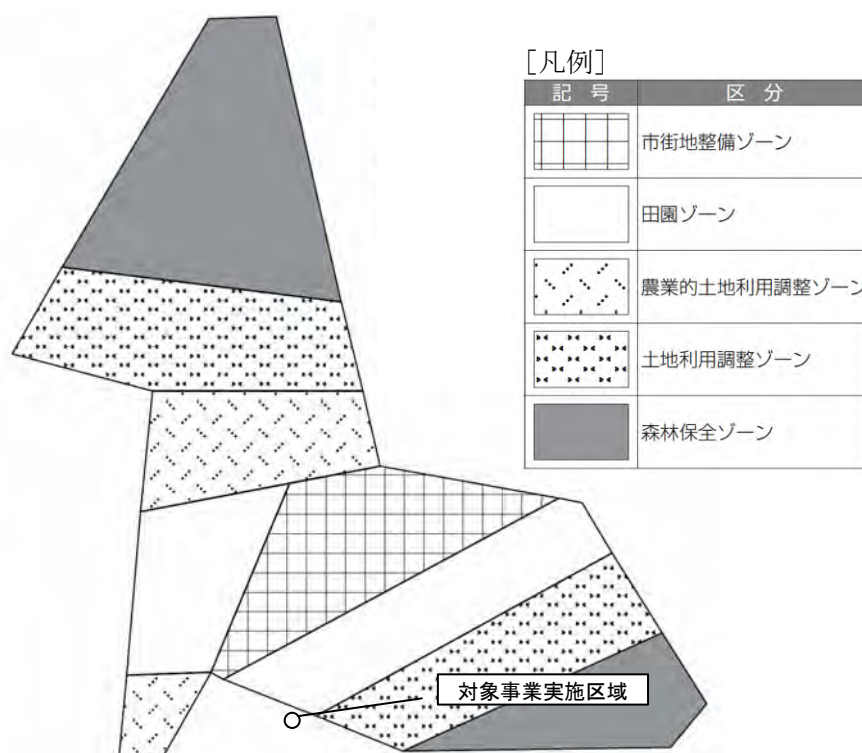


図3-2-20 第二次御代田町計画における地域区分

出典：「国土利用計画（第二次御代田町計画）」（平成22年12月、御代田町）

表3-2-58 第二次御代田町計画における地域区分

区分	ゾーニング内容
市街地整備ゾーン	市街地として、均衡ある地域の活性化を図りながら都市的開発を促進します。
田園ゾーン	農業基盤整備、農村集落の環境整備を推進し、潤いのある農業の拠点としていきます。
農業的土地利用調整ゾーン	農業的土地利用と共に都市的土地利用を受け入れていく地域として土地利用の調整を図ります。
土地利用調整ゾーン	林業の振興とともに良好な自然環境、水・緑資源の保全等に留意し、多目的な利用をしていきます。
森林保全ゾーン	恵まれた自然環境の森林地域を長期的に保護するものとし、開発は行わないものとします。

出典：「国土利用計画（第二次御代田町計画）」（平成22年12月、御代田町）

### 第3節 自然的状況

#### 3-1 気象の状況

長野県の東部に位置する佐久市一帯は、四方を山々に囲まれた盆地にあり、気温の較差が大きく、降水量が少ないなど、典型的な内陸性気候を示す高燥冷涼地である。また、年間を通して晴天が多く、国内でも有数の日照時間が多い地域となっている。

対象事業実施区域には地域気象観測所はなく、最寄りの気象観測所は佐久地域気象観測所である。気象観測結果を表3-3-1に、地域気象観測所の位置図を図3-3-1に、平均気温及び降水量の月別の平年値を図3-3-2、佐久地域気象観測所における風配図を図3-3-3に示す。

佐久地域気象観測所では、平均風速の平年値は年間を通じて概ね1m/sであり、季節による差異は小さい。風向は、秋季から冬季にかけて西北西、春季から夏季にかけて東北東の風が卓越している。

表 3-3-1 気象観測結果

月	平均気温(°C)		平均風速(m/s)		最多風向		降水量(mm)	
	平年値	平成25年	平年値	平成25年	平年値	平成25年	平年値	平成25年
1月	-1.8	-2.7	1.0	1.5	西北西	西)	24.1	30.5
2月	-1.0	-1.8	1.1	1.6	西北西	西)	31.6	30.5)
3月	2.9	5.3	1.2	2.0	西北西	西	54.4	17.5
4月	9.4	8.7	1.3	2.0	北西	西	59.0	84.5
5月	14.6	15.1	1.1	1.7	東北東	東	87.8	45.0
6月	18.6	19.6	0.9	1.3	東北東	東	125.1	124.0
7月	22.3	23.7	0.8	1.1	東北東	東南東	140.4	98.5
8月	23.4	24.8	0.8	1.0	東北東	西北西	111.0	97.0
9月	19.0	19.3	0.8	1.2	東北東	東	165.0	203.0
10月	12.2	14.4	0.7	1.3	北東	東北東	99.5	170.5
11月	6.2	5.9	0.9	1.4	西北西	西	41.9	20.0
12月	0.9	0.6	1.0	1.5	西北西	西	21.1	13.5
年間	10.6	11.1	1.0	1.5	西北西	西)	960.9	934.5

注1) 平年値は1981年～2010年までの30年間の統計によるものを示す。

注2) )…統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、一部の例外を除いて正常値(資料が欠けていない)と同等に扱う(準正常値)。

出典：気象庁ホームページ「気象統計情報」

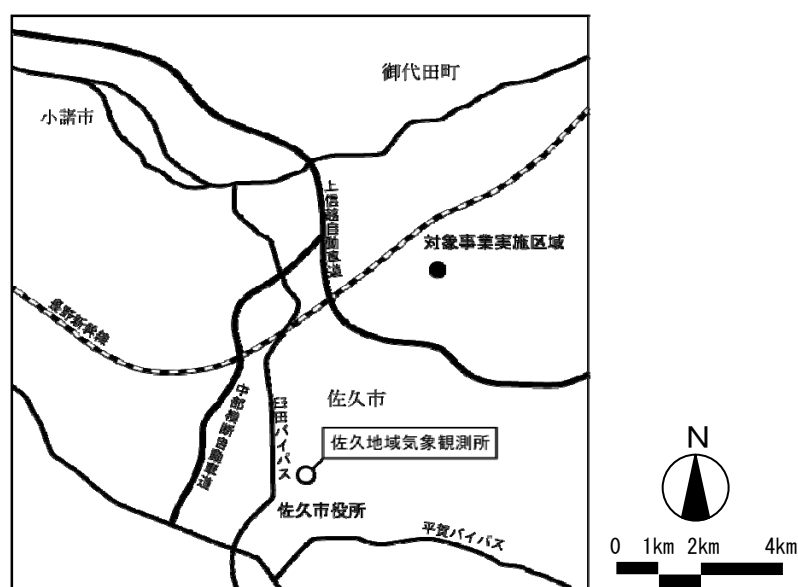
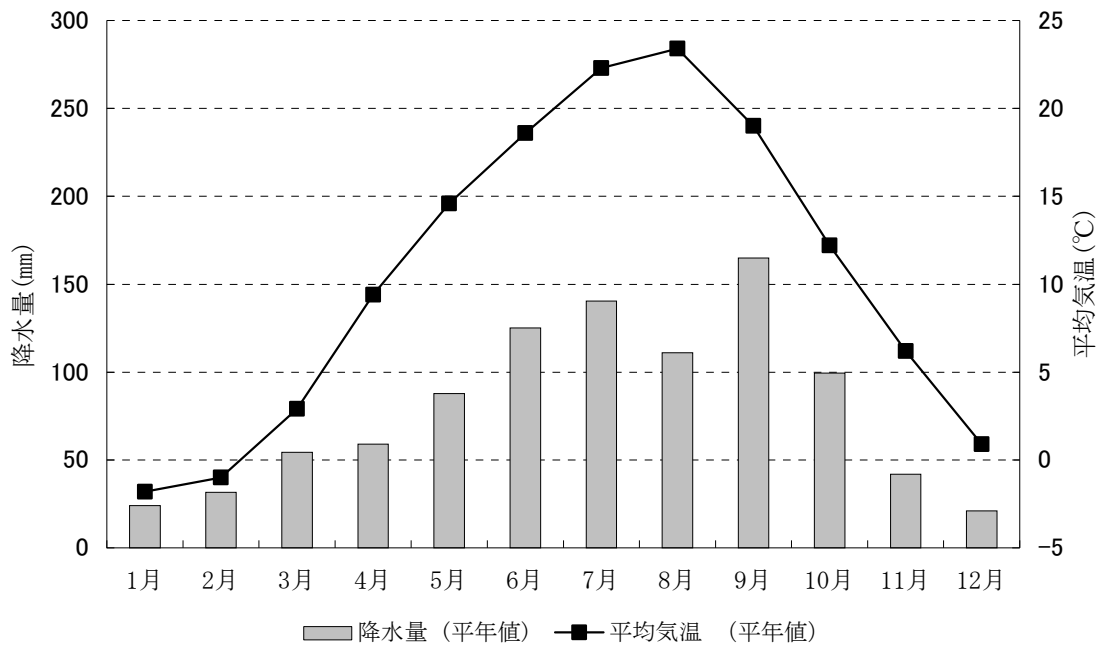
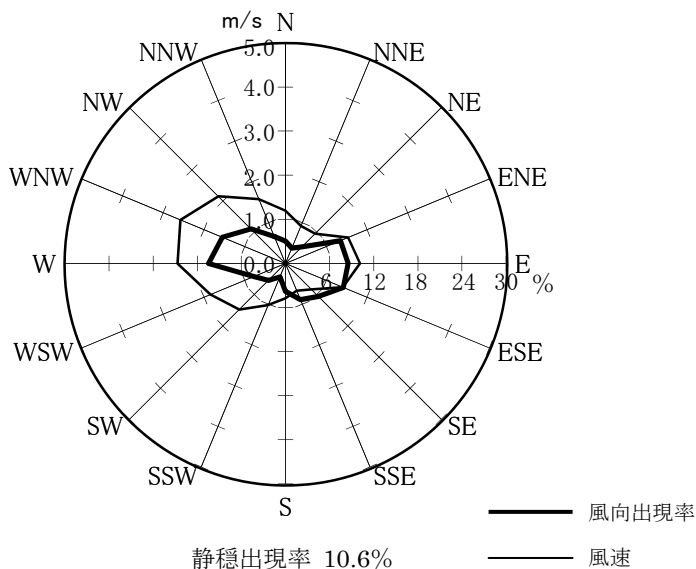


図 3-3-1 気象観測所位置図



注) 平均気温及び降水量は1981年～2010年までの30年間の統計による平年値。  
 出典：気象庁ホームページ「気象統計情報」

図 3-3-2 佐久地域気象観測所における月別の平均気温・降水量



注) 静穏率：風速 0.3m/s 未満の風の割合  
 出典：気象庁ホームページ「気象統計情報」

図 3-3-3 佐久地域気象観測所における風配図（平成 25 年）

### 3-2 水象の状況

#### 1. 河川・湖沼及びため池

対象事業実施区域及びその周辺における一級河川の概要を表3-3-2に示す。

また、河川・湖沼・ため池の状況を図3-3-4に示す。

対象事業実施区域の北側を流れる湯川は、軽井沢町を源として南西に流下し、千曲川と合流する。また、対象事業実施区域と湯川の間にも水路があるが、これは、対象事業実施区域の西側に位置する平根発電所の取水にも利用される平尾用水である。

表 3-3-2 主な河川の概要（一級河川）

河川名	区 間		河川延長 (m)
	上流端	下流端	
繰矢川	左岸：御代田町大字塩野字久合池 3058 番の 2 地先 右岸：同町同大字同字 3057 番の 2 地先	千曲川への合流点	10,000
湧玉川	左岸：小諸市大字御影新田字鎌田 238 番地先 右岸：同市同大字字八鎌田 2 番地先	千曲川への合流点	6,100
湯川	軽井沢町大字長倉字獅子岩地籍地先	千曲川への合流点	34,335
濁川	御代田町字血の池地先の上流端を示す標柱	湯川への合流点	16,920
香坂川	佐久市香坂字ぶぶき原 1 番地先	志賀川への合流点	8,611
霞川	左岸：佐久市下平尾字大口 2918 番地先 右岸：同市下平尾同字 2018 番地先	香坂川への合流点	3,200

出典：「河川調書」（平成 11 年、長野県）

#### 2. 用排水路

対象事業実施区域の南側の耕作地帯には、図3-3-4に示すように、平尾用水、安原用水、四ヶ用水、常木用水等が存在する。

#### 3. 地下水・湧水

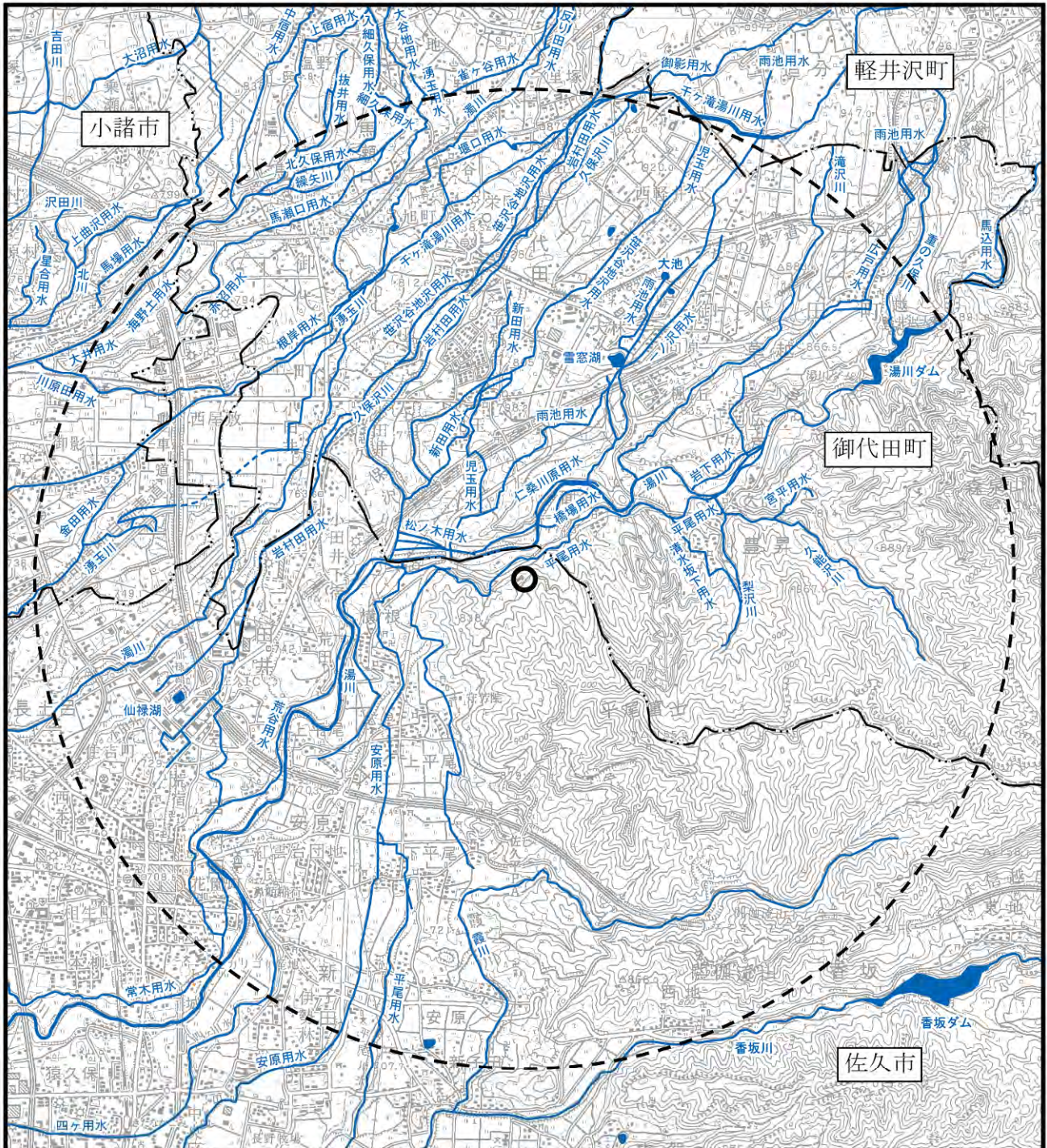
「平根地区候補地地表踏査報告書」（平成22年12月、佐久市）によれば、図3-3-5に示すとおり、対象事業実施区域を構成する地層ごとの地下水の流れ方向を推定している。いずれの地質においても、地下水は斜面上側から湯川方面に流下しているとされている。

また、「平成24年度循環型社会形成推進交付金事業 新クリーンセンター地質調査業務委託 調査報告書」（平成25年3月、日本総合建設株式会社）によると、調査ボーリング8孔を行い地下水位を測定した結果として、対象事業実施区域における地下水位は、図3-3-6に示すとおりとされている。

この他、対象事業実施区域及びその周辺における地下水や湧水に関する資料としては、佐久水道企業団の取水源がある。佐久水道企業団の取水源は、すべて地下水及び湧水であり、対象事業実施区域周辺における取水源は図3-2-8に示したとおりである。対象事業実施区域から至近の水源は、御代田町に位置する久能水源であり、本水源は湧水となっている。

なお、紀州鉄道別荘地の自己水源もある。



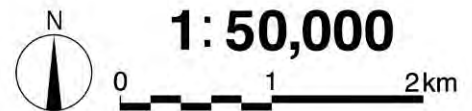


凡 例

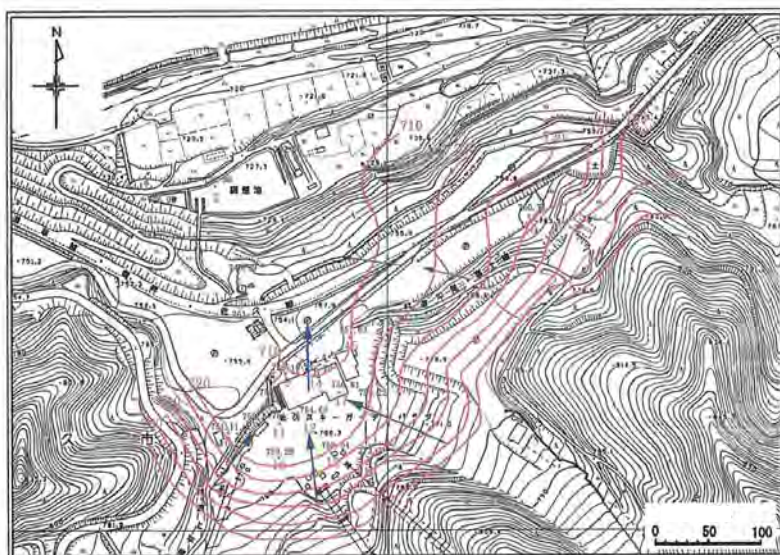
- : 対象事業実施区域
- : 関係地域範囲
- ~~~~~ : 河川等
- : 湖沼・ため池

— · — · — : 市町界

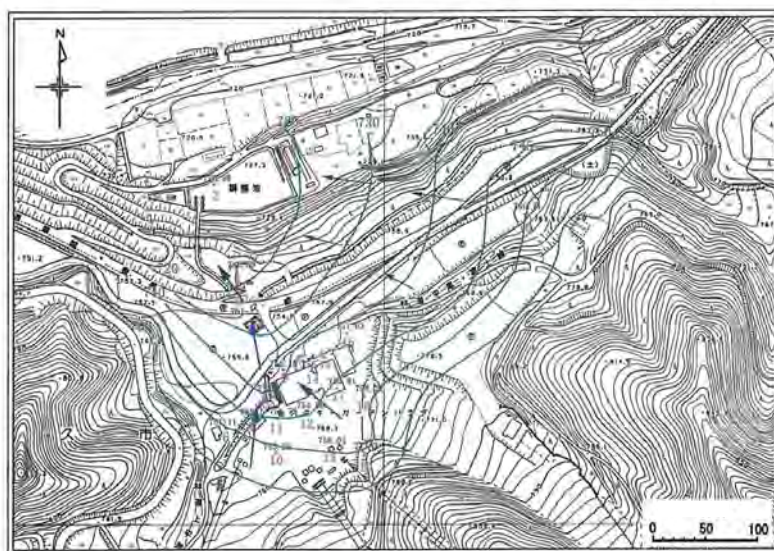
図 3-3-4  
河川・湖沼・ため池の状況



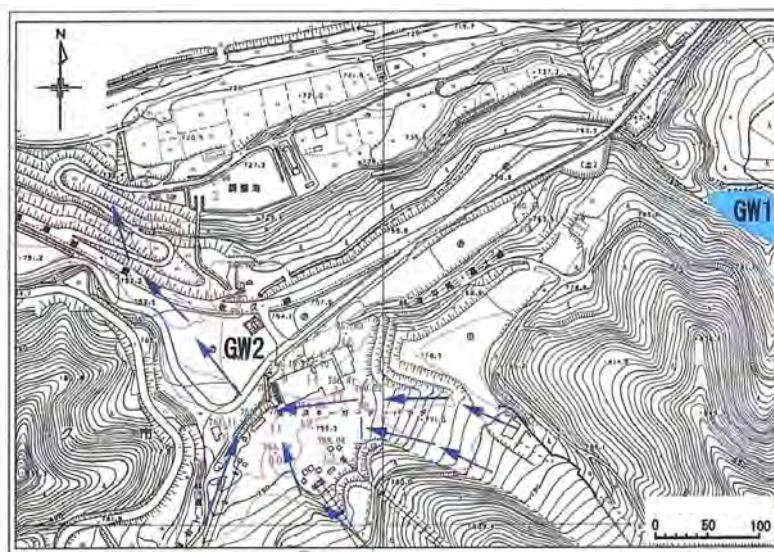




平尾火山岩類上面



岩尾層上面

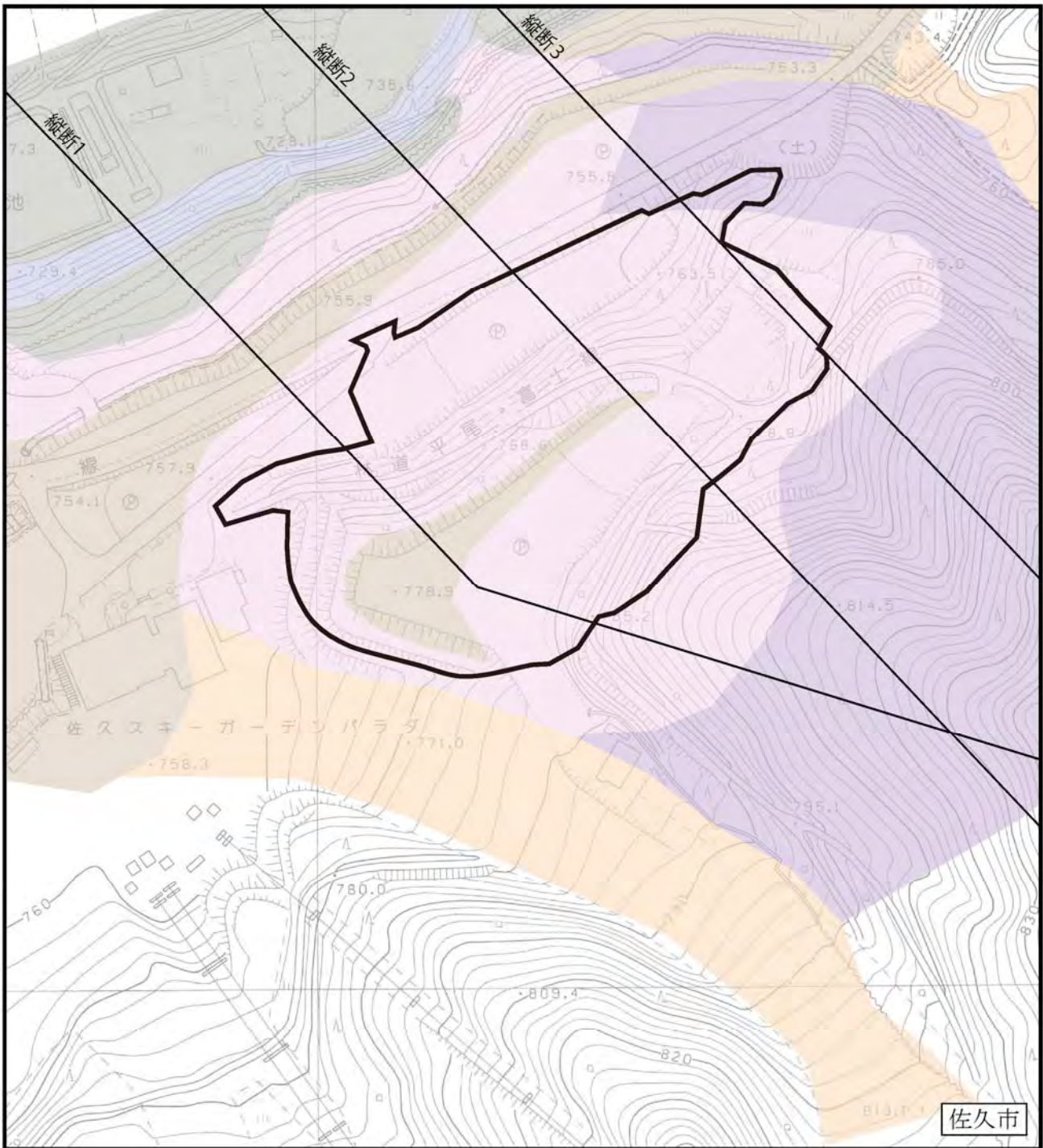


旧地形表面

← : 地下水の流れ方向

図 3-3-5 対象事業実施区域の地層ごとの地下水の流れ方向





凡 例

- : 対象事業実施区域
- 盛土
- 土石流堆積物
- 段丘堆積物（氾濫堆積物）
- 小諸第1軽石流堆積物
- 水成堆積物
- 志賀溶結凝灰岩（火山角礫岩）

図 3-3-6(1)

対象事業実施区域の地下水位（地質平面図）



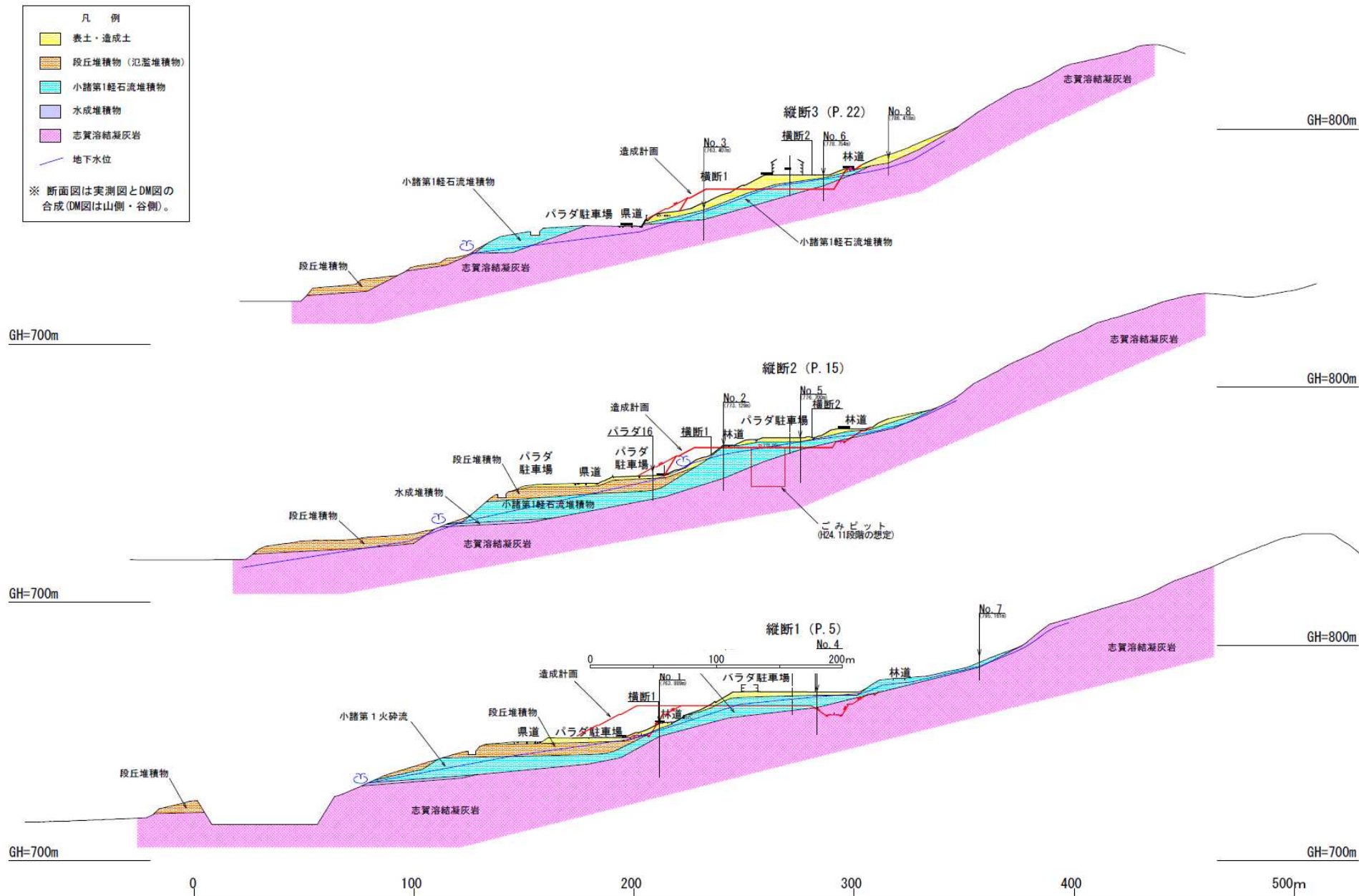


図 3-3-6(2) 対象事業実施区域の地下水位（地質縦断図）

### 3-3 地象の状況

#### 1. 地形

対象事業実施区域及びその周辺における地形分類を図3-3-7に示す。

対象事業実施区域及びその周辺は、JR小海線が走る市街地から湯川に沿って扇状地性低地に分類され、対象事業実施区域は小起伏山地となっている。これらのほかは、山麓地である。

対象事業実施区域は、平尾富士(標高 1,156m)の北西斜面山裾にある。北には浅間山(標高 2,542m)があり、緩やかな裾野を広げる。浅間山と平尾山の間には、千曲川の支川である湯川が東北東から西南西に流れており、段丘面(平坦面)がみられる。対象事業実施区域周辺の段丘面は、標高 750~800m に分布し、対象事業実施区域のある湯川左岸側に比べ、右岸側の分布が広い。また、湯川沿いには「田切地形」と呼ばれる、凹の字をした底の平らな谷地形がみられる。これは浅間山の噴火によって流れ出て生じた堆積物を河川が削ってできた地形で浅間山の裾野でよくみられる地形である。

#### 2. 地質

対象事業実施区域及びその周辺における表層地質を図3-3-8に示す。

対象事業実施区域及びその周辺は、JR小海線が走る市街地が氾らん原堆積物である礫・砂・泥に分類され、この東側の対象事業実施区域が位置する小起伏山地は、火山性岩石である流紋岩質岩石に分類される。事業実施区域とほぼ接する御代田町には火山砕屑物が広く分布している。

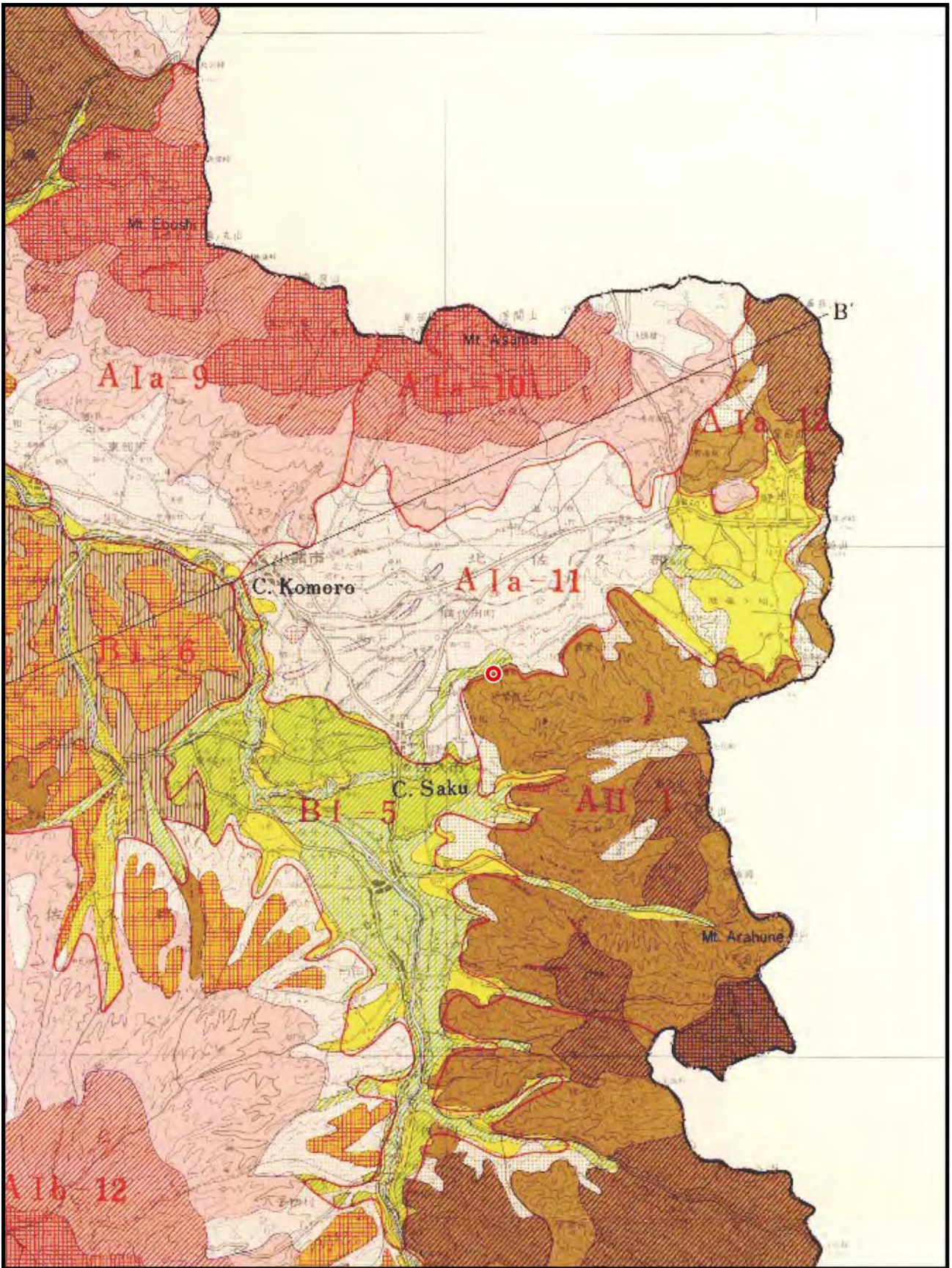
また、対象事業実施区域の地質について、「平成24年度循環型社会形成推進交付金事業新クリーンセンター地質調査業務委託 調査報告書」(平成25年3月、日本総合建設株式会社)で既存資料及び現調査結果に基づき整理されている。同報告書によれば、対象事業実施区域の地質構成は表3-3-3に示すとおりとなっている。また、対象事業実施区域の地質平面図は図3-3-6(1)に、地質縦断図は図3-3-6(2)に示すとおりとなっており、最下底部に志賀溶結凝灰岩があり、地表面に向かって小諸第1軽石流堆積物、段丘堆積物となっている。

表 3-3-3 対象事業実施区域周辺の地質層序表

年代	地層名	主な土質
第四系 完新統~更新統後記	段丘堆積物	礫質土、砂質土等で構成される。
	小諸軽石流堆積物 (第1及び第2小諸軽石流堆積物)	浅間火山の噴火による紛体流堆積物で、軽石角礫に軽石砂が混合する。
第三系	志賀溶結凝灰岩	安山岩質で弱溶結を示す。溶結凝灰岩の他に火山礫凝灰岩や凝灰角礫岩等から構成される。
	森泉山と平尾富士の安山岩類	輝石安山岩質の溶岩流や凝灰角礫岩等から構成される。

出典:「平成24年度循環型社会形成推進交付金事業 新クリーンセンター地質調査業務委託 調査報告書」(平成25年3月、日本総合建設株式会社)





凡 例 (1/2)

○ : 対象事業実施区域

図 3-3-7 地形分類の状況

出典: 「土地分類図 (地形分類図) 長野県」  
(昭和 49 年、経済企画庁)



1:200,000

0 5 8km

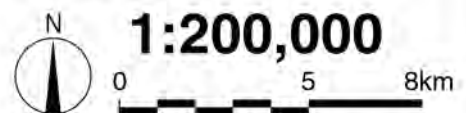


凡 例 (2/2)



図 3-3-7 地形分類の状況

出典：「土地分類図（地形分類図）長野県」  
（昭和 49 年、経済企画庁）





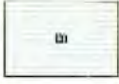











凡 例 (2/2)

未  
固  
結  
堆  
積  
物

-  **gsm** 礫・砂・泥  
(泥らん層堆積物)
-  **gs** 砂・礫  
(礫状土・礫層堆積物)
-  **ln** 泥  
(現湖沼堆積物)
-  **sm** 砂・泥  
(旧湖沼堆積物)











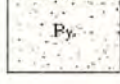
変  
成  
岩

-  **Hr** ホルンヘルス
-  **Ge** 緑色片岩
-  **Bs** 黒色片岩
-  **Altgb** 緑色片岩・  
黒色片岩互層


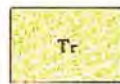



圧  
砕  
岩

-  **Mg** 圧砕岩質岩石

固  
結  
堆  
積  
物

-  **cg** 礫 岩
-  **ss** 砂 岩
-  **ms** 泥 岩  
(頁岩、粘板岩)
-  **alstm** 砂岩・泥岩互層
-  **altsg** 砂岩・礫岩互層
-  **altgsm** 砂・礫・粘土層  
(軟岩)
-  **Sch** 輝緑凝灰岩
-  **ch** 珪岩質岩石
-  **La** 石 灰 岩
-  **L** 火 山 灰
-  **Py** 火 山 砕 屑 物

火  
山  
性  
岩  
石

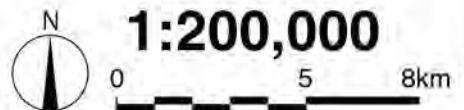
-  **Ag** 凝灰岩および  
凝灰角礫岩
-  **Tr** 凝灰岩質岩石
-  **Ry** 流紋岩質岩石
-  **Al** 安山岩質岩石
-  **B** 玄武岩質岩石

深  
成  
岩

-  **Qp** 斑 岩
-  **Po** 玢 岩
-  **Gr** 花崗岩質岩石
-  **Gb** 斑柄岩質岩石
-  **Ga** 変輝緑岩類
-  **Sp** 蛇紋岩質岩石

図 3-3-8 表層地質の状況

出典：「土地分類図（表層地質図）長野県」  
(昭和 49 年、経済企画庁)



### 3. 注目すべき地形・地質

「日本の地形レッドデータブック（第1集）危機にある地形」（2000年、古今書院）によると、対象事業実施区域及びその周辺には保存すべき地形はない。

対象事業実施区域の背後地は、新第三紀火山の死火山である平尾山（平尾富士）となっている。対象事業実施区域から北側は、浅間山からの碎屑物により緩やかな裾野となっているほか、これを河川が侵食することで形成された地形がみられる。特に湯川の右岸側は、広い範囲で田切地形が発達している。

### 4. 地すべり及び崩壊等の発生状況

調査範囲における土砂災害等危険箇所は、「環境関連法規制」の項で示したとおりであり、対象事業実施区域の一部が、土石流に係る土砂災害警戒区域に指定されている。

### 5. 災害履歴等

「平成18年7月15日から19日にかけての長野県内の大雨に関する気象速報」（長野地方気象台、2006年9月6日）によると、平成18年7月中旬後半から下旬にかけて梅雨前線の活動が活発化し、長野県では記録的な大雨となった。この大雨により県内各地で土砂災害等が発生し、死者・行方不明者13名、重軽傷者20名を数え、総被害金額は約557億円に達した。

調査範囲では、表3-3-4に示すとおり、佐久市及び小諸市に被害が生じた。

表 3-3-4 平成 18 年 7 月豪雨災害による被害状況

区分	全壊		半壊		一部破損		床上浸水		床下浸水	
	住家	非住家	住家	非住家	住家	非住家	住家	非住家	住家	非住家
佐久市							1		24	
小諸市									5	1

注) 人的被害なし。

出典：「平成 18 年 7 月 15 日から 19 日にかけての長野県内の大雨に関する気象速報」（長野地方気象台、2006 年 9 月 6 日）

### 3-4 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

#### 1. 動物

##### 1) 動物相の概要

調査地域一帯は、北部及び西部は農地や住宅が占めており、残りの地域には主としてクリやミズナラを主体とする落葉広葉樹林とカラマツやアカマツなどの針葉樹林が混在している。

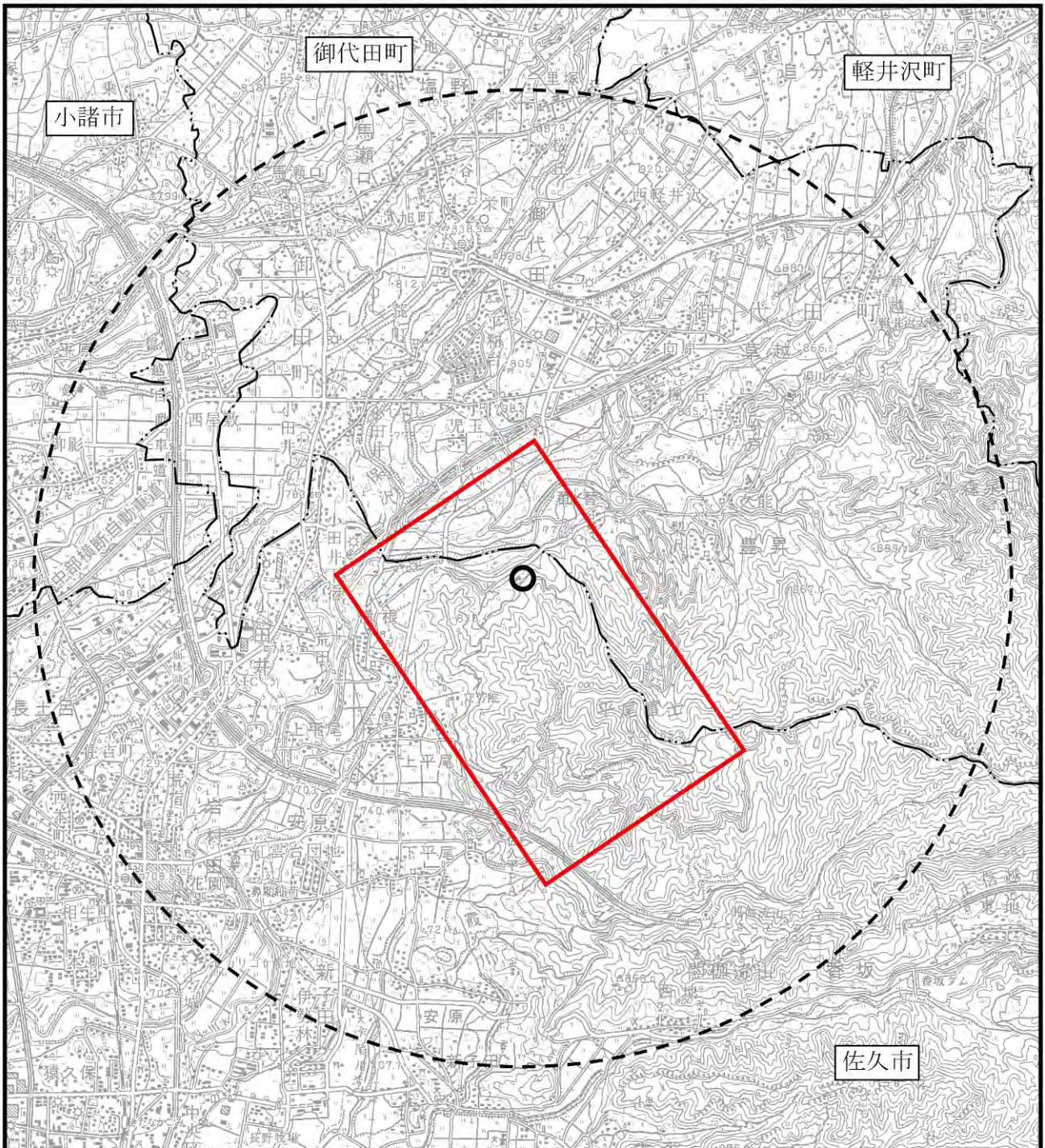
環境省の第5～6回自然環境保全基礎調査（平成9～16年度）によると、佐久市を中心とした一帯の哺乳類は、キツネ、ノウサギ、ニホンリス、ニホンザル、ツキノワグマ、タヌキ、アナグマ、テン、イタチ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、ニホンカモシカ、ムササビなどが生息している。これらのうち、タヌキやハクビシンは市街地にも出没している。

「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」（平成5年、佐久平尾山開発（株））では、対象事業実施区域を含む図3-3-9に示す範囲を対象に現地調査、文献調査並びに聞き取り調査を実施している。本報告書の文献調査では「佐久市志・自然編」（昭和63年、佐久市志刊行会）や「小諸市誌・自然編」（昭和61年、小諸市教育委員会）などの資料を用いて、当該地域の動物相を把握している。また、上記報告書で確認された動物相を補足する目的として、「御代田町誌-自然編-」（平成7年、御代田町誌刊行会）についても文献調査の対象とした。

これらの資料によると、哺乳類では上記の多くの種のほかに、ジネズミやアズマモグラなど29種を記載している。

これらの確認種のうち、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、魚類、貝類、昆虫類について、表3-3-5に示す。なお、昆虫類については記載種数が多いことから、目ごとによる整理とし、確認種の一覧は資料編（第7章 動物 7.1 文献調査確認種一覧）に示す。





凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 関係地域範囲
- : 動植物現地調査対象範囲

—— : 市町界

図 3-3-9

自然環境影響調査報告書における  
動植物現地調査の対象範囲

出典：「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る  
自然環境影響調査報告書」  
(平成 5 年、佐久平尾山開発株)



1:50,000

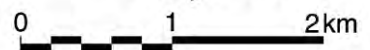


表 3-3-5 (1) 文献調査による確認種 (哺乳類)

綱名	目名	科名	和名	文献			
				出典 1			出典 2
				確認方法			
現地	文献	聞取					
哺乳綱	モグラ	トガリネズミ	ジネズミ		○		
		モグラ	ヒメヒミズ				○
			ヒミズ	○	○		○
			アズマモグラ	○	○		○
			コウベモグラ				○
	コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ				○
		ヒナコウモリ	アブラコウモリ	○			
	サル	オナガザル	ニホンザル				○
	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	○	○	○	○
	ネズミ	リス	ニホンリス	○	○	○	
			モモンガ				○
			ムササビ				○
		ヤマネ	ヤマネ				○
		ネズミ	ハタネズミ	○	○	○	○
			アカネズミ	○	○	○	○
			ヒメネズミ	○	○		○
			ハツカネズミ	○	○		○
			クマネズミ		○		○
			ドブネズミ		○		○
	ネコ	クマ	ツキノワグマ	○			○
		イヌ	タヌキ	○	○	○	○
			キツネ	○	○	○	○
		イタチ	テン		○		○
			イタチ	○	○	○	○
			オコジョ				○
			アナグマ	○			○
	ウシ	イノシシ	イノシシ				○
シカ		ホンドジカ				○	
ウシ		カモシカ		○	○	○	

出典 1: 「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」(平成 5 年、佐久平尾山開発(株))  
 出典 2: 「御代田町誌-自然編-」(平成 7 年、御代田町誌刊行会)

表 3-3-5 (2) 文献調査による確認種 (鳥類) (1)

綱名	目名	科名	和名	文献				
				出典 1			出典 2	
				確認方法				
				現地	文献	聞取		
鳥 綱	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ				○	
			ゴイサギ				○	
	コウノトリ	サギ	コサギ	○			○	
			アオサギ				○	
			オシドリ				○	
	カモ	カモ	マガモ				○	
			カルガモ	○			○	
			コガモ				○	
			トビ	○		○	○	
	タカ	タカ	オオタカ		○		○	
			ツミ				○	
			ハイタカ	○	○		○	
			ノスリ	○	○	○	○	
			ハヤブサ	○		○		
			チョウゲンボウ				○	
		キジ	キジ	ヤマドリ	○	○	○	
	チドリ	シギ	イソシギ				○	
			タシギ				○	
	ハト	ハト	ドバト	○				
			キジバト	○	○	○	○	
	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	○	○			
			カッコウ	○	○	○	○	
			ツツドリ		○		○	
			ホトトギス				○	
	フクロウ	フクロウ	アオバズク				○	
			フクロウ	○			○	
	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	○			○	
	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ				○	
			カワセミ	○			○	
	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	○	○		○	
			アカゲラ		○	○	○	
			コゲラ	○	○	○	○	
	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	○			○	
			ツバメ	○		○	○	
		セキレイ	イワツバメ	○		○	○	
			キセキレイ	○		○	○	
			ハクセキレイ				○	
			セグロセキレイ	○			○	
			ビンズイ	○	○		○	
			タヒバリ	○			○	
		サンショウクイ	サンショウクイ	○	○		○	
		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	
		モズ	モズ	○	○	○	○	
			アカモズ	○			○	
		レンジャク	キレンジャク				○	
		カワガラス	カワガラス				○	
		ミソサザイ	ミソサザイ	○		○	○	
		イワヒバリ	カヤクグリ				○	
		ツグミ	コルリ			○		○
			ルリビタキ	○	○		○	
			ジョウビタキ	○	○	○	○	
			ノビタキ				○	
トラツグミ					○	○		
マミジロ					○			
クロツグミ			○	○	○	○		
アカハラ	○		○		○			
ツグミ	○		○	○	○			
ウグイス	ヤブサメ					○		
	ウグイス		○	○	○	○		
	オオヨシキリ	○			○			
	メボソムシクイ	○			○			
	センダイムシクイ	○	○					



表 3-3-5 (3) 文献調査による確認種（鳥類）(2)

綱名	目名	科名	和名	文献			
				出典 1			出典 2
				確認方法			
現地	文献	聞取					
鳥 綱	スズメ	ウグイス	キクイタダキ		○		○
		ヒタキ	キビタキ	○	○		○
			オオルリ	○	○	○	○
			サメビタキ				○
			コサメビタキ	○	○		○
		カササギヒタキ	サンコウチョウ		○		
		エナガ	エナガ	○	○	○	○
		シジュウカラ	コガラ	○	○		○
			ヒガラ	○	○	○	○
			ヤマガラ	○	○		○
			シジュウカラ	○	○	○	○
		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○			○
		メジロ	メジロ	○	○	○	
		ホオジロ	ホオジロ	○	○	○	○
			ホオアカ				○
			カシラダカ	○	○	○	○
			ミヤマホオジロ		○		
			ノジコ	○			
			アオジ	○	○		○
			クロジ		○		
		アトリ	アトリ		○	○	○
			カワラヒワ	○	○	○	○
			マヒワ	○			
			ベニヒワ	○			
			ハギマシコ				○
			ベニマシコ	○	○		
			ウソ	○	○		○
			イカル	○	○	○	○
			シメ	○	○		○
		ハタオリドリ	スズメ	○		○	○
		ムクドリ	コムクドリ	○			○
			ムクドリ	○		○	○
		カラス	カケス	○	○	○	○
			オナガ	○			○
			ホシガラス				○
			ハシボソガラス	○	○		○
			ハシブトガラス	○		○	○

出典 1：「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」（平成 5 年、佐久平尾山開発（株））

出典 2：「御代田町誌-自然編-」（平成 7 年、御代田町誌刊行会）

表 3-3-5 (4) 文献調査による確認種 (両生類・爬虫類)

綱名	目名	科名	和名	文献			出典 2	
				出典 1				
				確認方法				
現地	文献	聞取						
両生綱	サンショウウオ	サンショウウオ	ハコネサンショウウオ				○	
		イモリ	アカハライモリ		○		○	
	カエル	ヒキガエル	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	○	○		
			アズマヒキガエル					○
		アマガエル	ニホンアマガエル	○	○	○	○	
		アカガエル	タゴガエル					○
			ナガレタゴガエル					○
			ニホンアカガエル	○				
			ヤマアカガエル	○	○	○	○	
			トノサマガエル	○		○		
			トウキョウダルマガエル	○	○			○
			ツチガエル	○	○	○		○
		アオガエル	シュレーゲルアオガエル					○
爬虫綱	カメ	ヌマガメ	ミシシippiaアカミミガメ				○	
トカゲ	トカゲ	ニホントカゲ		○	○		○	
	カナヘビ	ニホンカナヘビ		○	○	○	○	
	ナミヘビ	シマヘビ				○	○	
		アオダイショウ		○	○	○	○	
		ジムグリ		○	○			
		ヒバカリ		○	○		○	
		ヤマカガシ		○	○	○	○	
	クサリヘビ	ニホンマムシ			○	○	○	

出典 1: 「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」(平成 5 年、佐久平尾山開発(株))  
 出典 2: 「御代田町誌-自然編-」(平成 7 年、御代田町誌刊行会)

表 3-3-5 (5) 文献調査による確認種 (魚類)

綱名	目名	科名	和名	文献			出典 2	
				出典 1				
				確認方法				
現地	文献	聞取						
魚 綱	コイ	コイ	コイ			○	○	
			ゲンゴロウブナ				○	
			ギンブナ	○		○	○	
			キンブナ	○		○	○	
			オイカワ	○		○	○	
			アブラハヤ	○	○	○	○	
			ウグイ	○		○	○	
			モツゴ			○	○	
			ドジョウ	ドジョウ	○			○
				シマドジョウ				○
				ホトケドジョウ				○
				ヤマトイワナ				○
			サケ	サケ	ニッコウイワナ			○
	ニジマス	○				○	○	
	ヤマメ					○	○	
	アマゴ					○		
	スズキ	ハゼ	シマヨシノボリ				○	
クロヨシノボリ			○					

出典 1: 「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」(平成 5 年、佐久平尾山開発(株))  
 出典 2: 「御代田町誌-自然編-」(平成 7 年、御代田町誌刊行会)

表 3-3-5 (6) 文献調査による確認種 (貝類)

綱名	目名	名	和名	文献			
				出典 1			出典 2
				確認方法			
				現地	文献	聞取	
腹足綱	中腹足	タニシ	マルタニシ	○			
	柄眼	オカチョウジガイ (オカクチキレガイ)	オカチョウジガイ	○			
		ナメクジ	ナメクジ	○			
			ヤマナメクジ	○			
		オナジマイマイ	ウスカワマイマイ	○			
		ヒダリマキマイマイ	○				

出典 1: 「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」(平成 5 年、佐久平尾山開発(株))  
 出典 2: 「御代田町誌-自然編-」(平成 7 年、御代田町誌刊行会)

表 3-3-5 (7) 文献調査による確認種 (昆虫類)

目	文献							
	出典 1						出典 2	
	確認方法							
	現地		文献		聞取			
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
カゲロウ目	1	1					7	11
トンボ目	7	25	7	23	5	13	6	12
カマキリ目	1	2					1	1
ハサミムシ目	1	1						
カワゲラ目	1	2					5	8
バッタ目	10	23	8	18			5	10
ガロアムシ目							1	1
ナナフシ目							1	4
カメムシ目	18	44					8	16
ヘビトンボ目	1	1					1	1
アミメカゲロウ目	1	1						
シリアゲムシ目			1	2				
トビケラ目	7	7					6	9
チョウ目	28	166	7	73	7	46	6	18
ハエ目	10	27	6	14				
コウチュウ目	19	53					51	356
ハチ目	8	24	4	11			1	1
計	14 目 113 科 337 種		6 目 33 科 141 種		2 目 12 科 59 種		13 目 99 科 449 種	
合計							17 目 167 科 817 種	

出典 1: 「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」(平成 5 年、佐久平尾山開発(株))  
 出典 2: 「御代田町誌-自然編-」(平成 7 年、御代田町誌刊行会)



## 2) 注目すべき動物

注目すべき動物種は、「長野県版レッドデータブック 動物編」(平成16年3月、長野県)のうち、佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町を含む地域に記録のある種を抽出し、「文化財保護法」等に基づく指定状況等を踏まえて選定した。

また、「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」(平成5年、佐久平尾山開発(株))及び「御代田町誌-自然編-」(平成7年、御代田町誌刊行会)における確認種についても抽出の対象とした。

対象事業実施区域及びその周辺で確認された注目すべき動物を表3-3-6に示す。

哺乳類では、カグヤコウモリ、モモンガ、オコジョ、カモシカ等の6種が確認されている。

鳥類では、ハチクマやオオタカをはじめとした猛禽類、オオジシギ、ヤツガシラ、アカモズ等の32種が確認されている。

両生類では、アカハライモリ、ナガレタゴガエル、ツチガエル等の5種が確認されている。

爬虫類では、ヒバカリ1種が確認されている。

魚類では、スナヤツメ類やヤマメ(サクラマス)、カジカ等の9種が確認されている。

昆虫類では、オグマサナエやミヤマシロチョウ、ゲンゴロウ、オオチャイロハナムグリ等の87種が確認されている。

貝類では、マルタニシ及びモノアラガイの2種が確認されている。

このほか、アサギマダラ(チョウ目タテハチョウ科)について、レッドデータブック等による指定はされていないものの、対象事業実施区域周辺で保護や観察等の活動が行われている。

表 3-3-6 (1) 調査地域における注目すべき動物

区分	No.	目名	科名	種名	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
哺乳類	1	コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ				留意	
	2		ヒナコウモリ	カグヤコウモリ				CR	
	3	ネズミ	リス	モモンガ	県天			NT	
	4		ヤマネ	ヤマネ	天			NT	
	5	ネコ	イタチ	オコジョ	県天		NT	NT	
	6	ウシ	ウシ	カモシカ	特天			留意	
鳥類	1	コウノトリ	サギ	ササゴイ				NT	
	2	カモ	カモ	オシドリ			DD	LP	
	3			マガモ				LP	
	4	タカ	タカ	ハチクマ			NT	VU	
	5			オオタカ		国内	NT	VU	
	6			ツミ				DD	
	7			ハイタカ			NT	VU	
	8			ノスリ				NT	
	9			サシバ			VU	VU	
	10		ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	留意	
	11			チョウゲンボウ				留意	
	12	キジ	キジ	ウズラ			VU	CR	
	13	ツル	クイナ	ヒクイナ			NT	VU	
	14	チドリ	タマシギ	タマシギ			VU	EN	
	15		チドリ	イカルチドリ				NT	
	16		シギ	オオジシギ			NT	EN	
	17	ハト	ハト	アオバト				NT	
	18	フクロウ	フクロウ	コミミズク				VU	
	19			アオバズク				VU	
	20			フクロウ				NT	
	21	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	VU	
	22	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ				NT	
	23		ヤツガシラ	ヤツガシラ	県天			留意	
	24	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			VU	VU	
	25		モズ	アカモズ			EN	EN	
	26		ツグミ	ノビタキ				NT	
	27			マミジロ				NT	
	28		ウグイス	コヨシキリ				NT	
	29			セッカ				CR	
	30		カササギヒタキ	サンコウチョウ				VU	
	31		ホオジロ	ホオアカ				NT	
	32			ノジコ			NT	NT	
両生類	1	サンショウウオ	イモリ	アカハライモリ			NT		
	2	カエル	アカガエル	ナガレタゴガエル				DD	
	3			トノサマガエル			NT		
	4			トウキョウダルマガエル			NT		
	5			ツチガエル				VU	
爬虫類	1	トカゲ	ナミヘビ	ヒバカリ				DD	
魚類	1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ北方種			VU	VU	
	2	コイ	コイ	キンブナ			VU		
	3		ドジョウ	ドジョウ			DD		
	4			ホトケドジョウ			EN	VU	
	5	サケ	サケ	ヤマトイワナ				NT	
	6			ニッコウイワナ			DD	NT	
	7			ヤマメ (サクラマス)			NT	NT	
	8			アマゴ (サツキマス)			NT	NT	
	9	カサゴ	カジカ	カジカ			NT	NT	

表 3-3-6 (2) 調査地域における注目すべき動物

区分	No.	目名	科名	種名	選定基準						
					①	②	③	④	⑤		
昆虫類	1	トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ				VU			
	2			モートンイトトンボ			NT				
	3		カワトンボ	ミヤマカワトンボ				NT			
	4			アオハダトンボ			NT	VU			
	5		ヤンマ	マダラヤンマ				NT	NT		
	6			マルタンヤンマ					VU		
	7			クロスジギンヤンマ					NT		
	8			ギンヤンマ					NT		
	9			カトリヤンマ					VU		
	10			ミルンヤンマ					NT		
	11			サナエトンボ	アオサナエ					CR+EN	
	12		ウチワヤンマ						NT		
	13		オジロサナエ						NT		
	14		オグマサナエ					NT	CR+EN		
	15		エゾトンボ	トラフトンボ					CR+EN		
	16	カメムシ	コオイムシ	コオイムシ				NT			
	17		タイコウチ	タイコウチ					NT		
	18	チョウ	マダラガ	ベニモンマダラ				NT	NT		
	19		セセリチョウ	ホシチャバネセセリ				EN	EN		
	20			アカセセリ				EN	NT		
	21			ギンイチモンジセセリ					NT	NT	
	22			ミヤマチャバネセセリ						VU	
	23			キマダラセセリ						NT	
	24			チャマダラセセリ					EN	EN	
	25			スジグロチャバネセセリ					NT	VU	
	26			シジミチョウ	ウラジロミドリシジミ						NT
	27		クロミドリシジミ							NT	
	28		ウラナミアカシジミ							NT	
	29		ミヤマシジミ						EN	NT	
	30		アサマシジミ中部地方中山帯亜種		県天				VU	NT	
	31		ゴマシジミ飛騨山脈亜種						VU	VU	
	32		クロシジミ						EN	EN	
	33		オオルリシジミ						CR	EN	指定
	34		ムモンアカシジミ							NT	
	35		タテハチョウ	コヒオドシ	県天					NT	
	36		ヒョウモンチョウ本州中部亜種					VU	留意		
	37		オオウラギンヒョウモン					CR	CR		
	38		コヒョウモンモドキ					EN	NT		
	39		ヒョウモンモドキ				国内	CR	CR		
	40		オオムラサキ					NT	留意		
	41		アゲハチョウ	ヒメギフチョウ本州亜種				NT	留意		
	42			ミヤマシロチョウ	県天			VU	EN	特別	
	43			ミヤマモンキチョウ浅間山系亜種	県天				NT	NT	指定
	44			ツマグロキチョウ					EN	CR	
	45			ヤマキチョウ					EN	VU	
	46			ヒメシロチョウ					EN	NT	
	47		ジャノメチョウ	ヒメヒカゲ本州中部亜種					CR	EN	指定
	48			ベニヒカゲ本州亜種	県天				NT	留意	
	49			キマダラモドキ					NT	NT	
	50			クロヒカゲモドキ					EN	VU	
	51			オオヒカゲ						VU	
	52		シャクガ	トビスジヤエナミシャク						留意	
	53	カバシタムクゲエダシャク						CR	CR+EN		
	54	ヒトリガ	ヒメキシタヒトリ上信山地亜種						NT		
	55	カノコガ	キハダカノコ						NT		
	56	ヤガ	コシロシタバ					NT	NT		
	57		ナマリキシタバ						NT		
	58		ミツモンケンモン					EN	CR+EN		
	59		シロオビヨトウ					NT	留意		
	60		クマゾオオヨトウ						DD		
	61		シロスジキリガ						NT		



表 3-3-6 (3) 調査地域における注目すべき動物

区分	No.	目名	科名	種名	選定基準					
					①	②	③	④	⑤	
昆虫類	62	コウチュウ	ホソクビゴミムシ	ミイデラゴミムシ				VU		
	63		オサムシ	ミヤマヒサゴミムシ				NT		
	64			ホソクロナガオサムシ				NT		
	65			チョウセンマルクビゴミムシ				VU		
	66			ハネアカナガゴミムシ				NT		
	67			ニッコウオオズナゴミムシ				NT		
	68		ゲンゴロウ	ゲンゴロウ				VU	NT	
	69			マルガタゲンゴロウ				VU	VU	
	70		ミズスマシ	オオミズスマシ				NT		
	71			ミズスマシ				VU	NT	
	72		ガムシ	ガムシ				NT	NT	
	73		エンマムシモドキ	エンマムシモドキ					NT	
	74		シデムシ	ヤマトモンシデムシ				NT	VU	
	75			オニヒラタシデムシ					VU	
	76		コガネムシ	アカマダラハナムグリ				DD	VU	
	77			ゴホンダイコクコガネ					VU	
	78			シナノエンマコガネ					NT	
	79			ウエダエンマコガネ					NT	
	80			オオチャイロハナムグリ				NT	CR+EN	
	81			ナラノチャイロコガネ					VU	
	82		ホタル	ゲンジボタル					留意	
	83		テントウムシ	ヤマトアザミテントウ					NT	
	84		カミキリムシ	チャイロチビヒラタカミキリ					留意	
	85			ハセガワトラカミキリ					VU	
	86		ハムシ	コウホネネクイハムシ					VU	
	87		ハチ	ミツバチ	ホンシュウハイイロマルハナバチ				VU	
	貝類		1	中腹足	タルニシ	マルタニシ			VU	NT
2		基眼	モノアラガイ	モノアラガイ			NT	NT		

注 1) 動物種の選定は、「長野県版レッドデータブック 動物編」(平成 16 年 3 月、長野県)のうち、佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町を含む地域に記録のある種を抽出した。また、「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」(平成 5 年、佐久平尾山開発(株))及び「御代田町誌-自然編-」(平成 7 年、御代田町誌刊行会)における確認種も抽出の対象とした。

注 2) 注目すべき種は、既存文献を基に以下の選定基準から選定した。選定基準は以下のとおりである。

- ①: 「文化財保護法(1950年)」に基づく天然記念物及び特別天然記念物に指定されている種又は「文化財保護条例(1975年)」に基づく県天然記念物に指定されている種
- ②: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(1992年)」に基づく国内希少動植物種及び国際希少野生動植物種及び緊急指定種に指定されている種
- ③: 「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト(第4次レッドリスト)」(平成24年8月28日(魚類のみ平成25年2月1日)、環境省)に記載されている種
- ④: 「長野県版レッドデータブック 動物編」(平成16年、長野県)に記載されている種
- ⑤: 「長野県希少野生動植物保護条例(平成15年)」に基づく指定希少野生動植物及び特別指定希少野生動植物(脊椎動物)に指定されている種

注 3) ①～⑤の選定基準の記号は以下のとおりである。

- ①: 特天: 国指定特別天然記念物 天: 国指定天然記念物 県天: 県指定天然記念物
- ②: 国内: 国内希少野生動植物種
- ③、④: CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 留意: 留意種
- ⑤: 特別: 特別指定希少野生動植物 指定: 指定希少野生動植物

## 2. 植 物

### 3) 植生の概要

対象事業実施区域及びその周辺における現存植生図を図3-3-10に示す。

「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」（平成5年、佐久平尾山開発（株））によると、長野県内の植生は、県の最南部に丘陵帯の常緑広葉樹林が分布するものの、内陸部の大部分は冷温帯であり、山地帯に夏緑（落葉）広葉樹林からなるブナクラスの植生が広がっている。

また、中部山岳を中心として、山地帯より上部には亜高山帯の常緑針葉樹林が、さらに標高約2,500m付近より上部には高山帯植生が発達している。丘陵地から山地帯にかけては、人間の生活圏とほぼ重複するため、その大部分は代償植生と化しており、自然植生は僅かに残存するのみである。

調査地域一帯は、北部及び西部は耕作地や住宅が占めており、残りの地域には主としてカスミザクラ・コナラ群落やクリーミズナラ群落を主体とする落葉広葉樹林とカラマツ植林やアカマツ群落などの針葉樹林が混在している。

対象事業実施区域は畑地雑草群落やカラマツ植林により占められている。

### 4) 植物相の概要

「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」（平成5年、佐久平尾山開発（株））では、対象事業実施区域を含む範囲を対象に現地調査並びに文献調査を実施している。本報告書の文献調査では「佐久市誌・自然編」（昭和63年、佐久市志刊行会）や「小諸市誌・自然編」（昭和61年、小諸市教育委員会）などの資料を用いて、当該地域の植物相を把握している。

また、上記報告書で確認された植物相を補足する目的として、「御代田町誌-自然編-」（平成7年、御代田町誌刊行会）についても調査を行った。

現地調査の調査対象範囲は図3-3-9に示したとおりである。

上記資料によると、対象事業実施区域及びその周辺において、表3-3-7に示すとおり144科1,360種の植物を確認している。なお、確認種の一覧を資料編に示す。

表 3-3-7 文献調査による確認種数（植物相）

分類群	確認方法			
	出典 1		出典 2	
	科数	種数	科数	種数
シダ植物門	11	27	14	66
種子植物門	裸子植物亜門		3	15
	被子植物門	双子葉植物	離弁花亜綱	107
			合弁花亜綱	737
		単子葉植物網	279	
計	110	584	139	1,204
合計	144 科 1,360 種			

出典 1：「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」（平成5年、佐久平尾山開発（株））

出典 2：「御代田町誌-自然編-」（平成7年、御代田町誌刊行会）

## 5) 注目すべき植物及び植物群落

注目すべき植物種は、「長野県版レッドデータブック 維管束植物編」(平成14年、長野県)のうち、佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町を含む地域に記録のある種を抽出し、「文化財保護法」等に基づく指定状況等を踏まえて選定した。

対象事業実施区域及びその周辺で確認された注目すべき植物を表3-3-8に示す。

注目すべき植物としては、195種が確認された。また、環境省が選定した特定植物群落として、図3-3-11に示す「佐久市東地のミヤマウラジロ群落」(選定基準B・D)が分布する。

### 【特定植物群落選定基準】

B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの(特に湿原についてはもれのないように注意すること。)

## 6) 植物の天然記念物等

対象事業実施区域及びその周辺における植物に係る天然記念物の分布状況を表3-3-9及び図3-3-11に示す。



表 3-3-8 (1) 調査地域における注目すべき植物

名	種名	選定基準					
		①	②	③	④	⑤	⑥
イワヒバ	ヤマクラマゴケ				EN		
ミズワラビ	ヒメウラジロ			VU	VU		
オシダ	ニオイシダ				CR		
メシダ	キンモウワラビ			VU	CR		
ウラボシ	イワオモダカ				VU		
デンジソウ	デンジソウ			VU	EN		
サンショウモ	サンショウモ			VU	VU		
アカウキクサ	オオアカウキクサ			EN	EN		
ヤナギ	コマイワヤナギ			VU	NT		
カバノキ	コオノオレ			NT	NT		
	ジゾウカンバ				VU		
イラクサ	コケミズ				EN		
	タチゲヒカゲミズ			VU	VU		
タデ	ヤナギヌカボ			VU	EN		
	ノダイオウ			VU	NT		
ナデシコ	タチハコベ			VU	EN		
	ビランジ				EN		
	エゾオオヤマハコベ				EN		
	エンビセンノウ			VU	EN		指定
	タガソデソウ			VU	NT		
	シコタンハコベ			VU	NT		
アカザ	アカザ			VU	NT		
キンボウゲ	センウズモドキ			VU	VU		
	ミチノクフクジュソウ			NT	NT		
	フクジュソウ				NT		
	トウゴクサバノオ				EN		
	オキナグサ			VU	EN		指定
	マンセンカラマツ			EN			
	ノカラマツ			VU	VU		
イワカラマツ			VU	VU			
スイレン	コウホネ				NT		
マツモ	マツモ				EN		
ウマノスズクサ	マルバウマノスズクサ			VU	VU		
ボタン	ヤマシヤクヤク			NT	VU		指定
	ベニバナヤマシヤクヤク			VU	CR		指定
オトギリソウ	アカテンオトギリ				NT		
ケシ	ツルキケマン			EN			
	ナガミノツルキケマン			NT			
	ヤマブキソウ				EN		
アブラナ	クモマナズナ			VU	NT		
ベンケイソウ	チチッパベンケイ				VU		
	ムラサキベンケイソウ			VU	EN		
	チチブベンケイソウ				CR		
	ツメレンゲ			NT	NT		
	マルバマンネングサ				VU		
ユキノシタ	ハナネコノメ				VU		
	シラヒゲソウ				VU		指定
	タコノアシ			NT	VU		
バラ	カラフトイバラ				VU		
マメ	モメンヅル				NT		
	レンリソウ				NT		
	イヌハギ			VU	NT		
	ミヤマタニワタシ				NT		
カタバミ	オオヤマカタバミ			VU	NT		
フウロソウ	コフウロ				EN		
	アサマフウロ			NT	NT		
	カイフウロ			VU	EN		

表 3-3-8 (2) 調査地域における注目すべき植物

名	種名	選定基準					
		①	②	③	④	⑤	⑥
トウダイグサ	ニシキソウ				VU		
ヒメハギ	ヒナノキンチャク			EN	CR		
カエデ	クロビイタヤ			VU	EN		
クロウメモドキ	ヨコグラノキ				EN		
	ミヤマクマヤナギ				NT		
ジンチョウゲ	チョウセンナニワズ			VU	VU		
スマレ	アイヌタチツボスマレ				CR		
アカバナ	ホソバアカバナ				NT		
アリノトウグサ	フサモ				NT		
セリ	イワニンジン				CR		
	カワラボウフウ				CR		
	ミヤマニンジン				VU		
	ヤマナシウマノミツバ			EN	VU		
ツツジ	アカヤシオ				NT		
サクラソウ	ノジトラノオ			VU	VU		
	サクラソウ			NT	VU		指定
	ユキワリソウ				EN		
	コイワザクラ			VU	CR		指定
リンドウ	ホソバツルリンドウ			VU	NT		
	ムラサキセンブリ			NT	VU		
	タカネセンブリ				EN		
ガガイモ	フナバラソウ			VU	VU		
	スズサイコ			NT	NT		
	ツルガシワ				CR		
アカネ	ヤツガタケムグラ			CR	VU		
ムラサキ	サワリソウ				NT		
	イヌムラサキ				CR		
	ムラサキ			EN	CR		
	ルリソウ				EN		指定
	ツルカメバソウ			EN	NT		
クマツヅラ	コムラサキ				EN		
シソ	カイジンドウ			VU	NT		
	ツルカコソウ			VU	NT		
	マネキグサ			NT	VU		
	キセワタ			VU	NT		
	ヤマジソ			NT	NT		
	ムシャリンドウ			VU	EN		
	シナノアキギリ			VU	EN		
	ナス	イガホオズキ			VU	CR	
ゴマノハグサ	サワトウガラシ				VU		
	キクモ				EN		
	ウリクサ				VU		
	ヤマルリトラノオ				EN		
	イヌノフグリ			VU	VU		
	カワヂシャ			NT	NT		
	グンバイヅル			VU	NT		
	トガクシコゴメグサ				NT		
	タカネママコナ			VU	NT		
ハマウツボ	ナンバンギセル				EX		
	キヨスミウツボ				EN		
	オニク				NT		
タヌキモ	ミミカキグサ				VU		
	イヌタヌキモ			NT	NT		
	ムラサキミミカキグサ			NT	VU		
スイカズラ	オニヒョウタンボク			VU	NT		
	キバナウツギ				EN		
	ハナヒョウタンボク			VU	VU		
	コゴメヒョウタンボク			EN	NT		
オミナエシ	ツルカノコソウ				EN		
キキョウ	イワシヤジン				CR		
	バアツブ			VU			
	キキョウ			VU	NT		

表 3-3-8 (3) 調査地域における注目すべき植物

名	種名	選定基準					
		①	②	③	④	⑤	⑥
キク	アサギリソウ				VU		
	エゾノキツネアザミ				EN		
	エゾヤマアザミ				CR		
	アズマギク				NT		
	フジバカマ			NT			
	アキノハハコグサ			EN	NT		
	タカサゴソウ			VU	VU		
	カントウヨメナ				VU		
	オオニガナ				NT		
	ネコヤマヒゴタイ			VU	NT		
	ヒメヒゴタイ			VU	VU		
	コウリンカ			VU	NT		
	トダイハハコ			VU	NT		
	タカネコンギク				NT		
	ヤマタバコ			CR	CR		指定
オオイワインチン			VU	EN			
オモダカ	アギナシ			NT	EN		
	ウリカワ				VU		
トチカガミ	ヤナギスブタ				NT		
	クロモ				CR		
	ミズオオバコ			VU	VU		
ヒルムシロ	ホソバヒルムシロ			VU	EN		
	ササバモ				EN		
	ホソバミズヒキモ				NT		
	アイノコイトモ				EN		
	ヤナギモ				VU		
	イトモ			VU	VU		
ユリ	ヒメアマナ			EN	CR		
	ヤマユリ				NT		指定
	ホトトギス				NT		
	ヤマホトトギス			NT			
ミズアオイ	ミズアオイ			NT	CR		
アヤメ	カキツバタ			NT	NT		
ホシクサ	オオムラホシクサ			EN	VU		
イネ	アシカキ				NT		
	ヒロハノハネガヤ				EN		
	リシリカニツリ			VU	NT		
	ヒロハヌマガヤ				VU		
サトイモ	ヒトツバテンナンショウ				VU		
	ウラシマソウ				VU		指定
ウキクサ	ヒンジモ			VU	CR		
ミクリ	ナガエミクリ			NT	EN		
カヤツリグサ	ヒナスゲ				VU		
	ハタベスゲ			EN	EN		
	アサマスゲ			NT	EN		
	ヌマクロボスゲ			VU	VU		
	エゾツリスゲ				EN		
	クグスゲ			EN	CR		
	ツルカミカワスゲ				EN		
	サハリナイトスゲ				NT		
	ヌマガヤツリ				EN		
	シロガヤツリ				EN		
	コホタルイ				EN		
	コシンジュガヤ				VU		
	ヒメマツカサススキ			VU	EN		
	マメスゲ				VU		
	ラン	ギンラン				NT	
アツモリソウ			国内	VU	CR		特別
イチヨウラン					NT		
アオキラン				CR	CR		
ヒメミヤマウズラ					NT		
ミズトンボ				VU	NT		



表 3-3-8 (4) 調査地域における注目すべき植物

名	種名	選定基準					
		①	②	③	④	⑤	⑥
ラン	セイタカスズムシソウ				CR		
	カモメラン			NT	EN		
	オノエラン				EN		
	ウチョウラン			VU	EN		
	ヒロハトンボソウ			VU	EN		
	ミズチドリ				VU		指定
	オオバノトンボソウ				NT		
	コバノトンボソウ				NT		
	トキシソウ			NT	VU		指定
	オオハクウンラン			VU	CR		
	ミヤマフタバラン				VU		
	ニョホウチドリ			NT	EN		
	タカネサギソウ				VU		
ミスズラン			CR	CR			

注 1) 植物種の選定は、「長野県版レッドデータブック 維管束植物編」(平成 14 年、長野県)のうち、佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町を含む地域に記録のある種を抽出した。また、「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」(平成 5 年、佐久平尾山開発(株))及び「御代田町誌-自然編-」(平成 7 年、御代田町誌刊行会)における確認種も抽出の対象とした。

注 2) 注目すべき種は、既存文献を基に以下の選定基準から選定した。選定基準は以下のとおりである。

- ①: 「文化財保護法 (1950 年)」に基づく天然記念物及び特別天然記念物に指定されている種又は「文化財保護条例 (1975 年)」に基づく県天然記念物に指定されている種
- ②: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (1992 年)」に基づく国内希少動植物種及び国際希少野生動植物種及び緊急指定種に指定されている種
- ③: 「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト (第 4 次レッドリスト)」(平成 24 年 8 月 28 日、環境省)に記載されている種
- ④: 「長野県版レッドデータブック 維管束植物編」(平成 14 年、長野県)に記載されている種
- ⑤: 「長野県版レッドデータブック 非維管束植物編・植物群落編」(平成 17 年、長野県)に記載されている種
- ⑥: 「長野県希少野生動植物保護条例 (平成 15 年)」に基づく指定希少野生動植物及び特別指定希少野生動植物(脊椎動物)に指定されている種

注 3) ①～⑤の選定基準の記号は以下のとおりである。

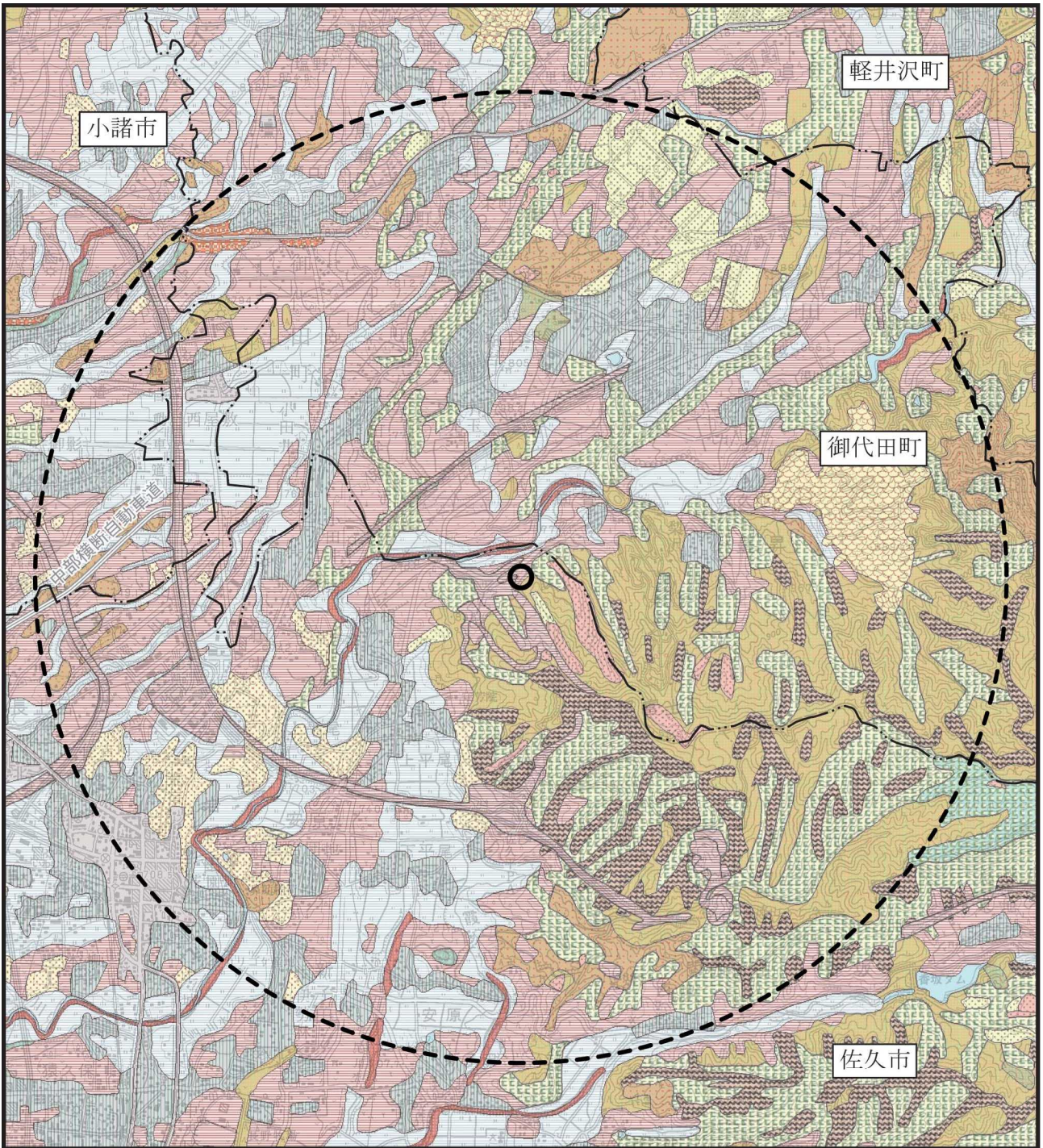
- ①: 特天: 国指定特別天然記念物 県天: 県指定天然記念物
- ②: 国内: 国内希少野生動植物種
- ③、④: CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 I A 類 EN: 絶滅危惧 I B 類 VU: 絶滅危惧 II 類  
NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 留意: 留意種
- ⑤: 特別: 特別指定希少野生動植物 指定: 指定希少野生動植物

表 3-3-9 植物に係る天然記念物の状況

市町村	指定	名 称	指定	名 称
佐久市	国	岩村田のヒカリゴケ産地	県	王城のケヤキ
御代田町	県	御代田のヒカリゴケ	町	梨沢のイチイ
	町	神代杉	町	梨沢のサワラ
	町	真楽寺の寺叢	町	久能のヤマボウシ
	町	普賢寺の二本杉	町	大池・天池の植物群落
	町	宝珠院のアカマツ	町	長倉・諏訪神社の社叢
	町	宝珠院のシダレザクラ	—	—

出典: 佐久市ホームページ「指定文化財一覧」、御代田町ホームページ「御代田町文化財一覧」





凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 関係地域範囲

植生図凡例

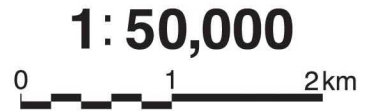
植生区分名	大区分	中区分	植生図凡例
ブナクラス域自然植生	岩角地針葉樹林	アカマツ群落	アカマツ群落
	溪畔林	ケヤキ群落	ケヤキ群落
ブナクラス域代償植生	落葉広葉樹二次林	ブナ・ミズナラ群落	クリー・ミズナラ群落
	常緑針葉樹二次林	コナラ群落	カスミザクラ・コナラ群落
	二次草原	アカマツ群落	アカマツ群落
	伐採跡地群落	ススキ群団	ススキ群団
河辺・湿原・沼沢地・砂丘植生	湿原・河川・池沼植生	ヨシクラス	ヨシクラス
植林地、耕作地植生	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林	スギ・ヒノキ・サワラ植林
		カバマツ植林	カバマツ植林
		外国産樹種植林	外国産樹種植林
	牧草地・ゴルフ場・芝地	牧草地	牧草地
	耕作地	果樹園	落葉果樹園
		畑雑草群落	畑地雑草群落
		水田雑草群落	水田雑草群落
その他	市街地等	市街地	市街地
		造成地	緑の多い住宅地
		開放水域	開放水域

出典：「第3-5回自然環境基礎調査（植生調査）  
 現存植生図－上田、軽井沢、小諸、御代田」  
 （昭和60年-平成11年、環境省）

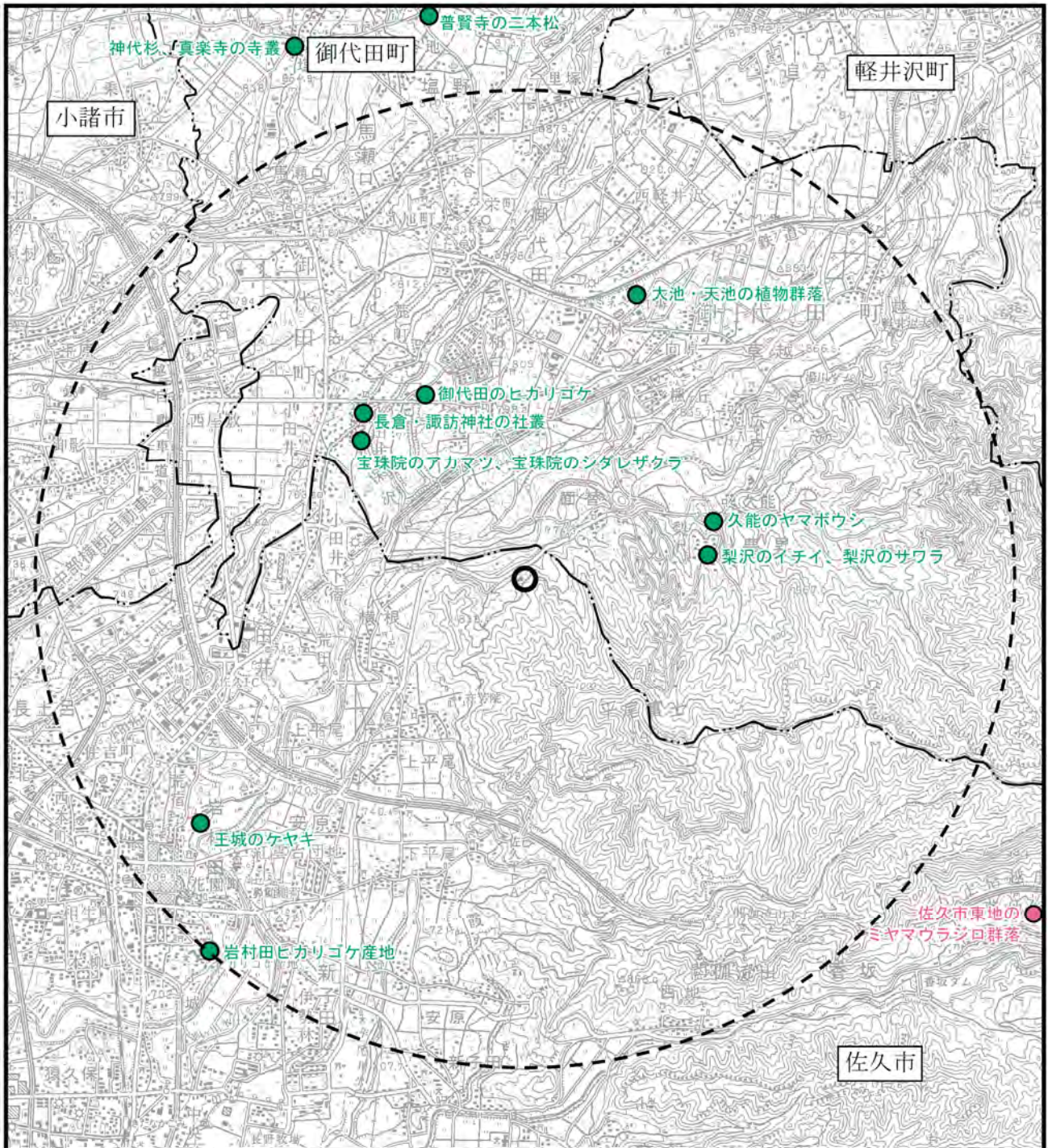
— — — : 市町界

図 3-3-10

現存植生図







凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- (pink) : 特定植物群落
- (green) : 天然記念物

—— : 市町界

図 3-3-11

植物に係る天然記念物等の分布状況

出典：「第3回自然環境保全基礎調査—長野県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）  
 佐久市ホームページ「指定文化財一覧」  
 御代田町ホームページ「御代田町文化財一覧」



1:50,000

0 1 2km

### 3. 生態系

「佐久平尾富士スキー場施設造成事業に係る自然環境影響調査報告書」（平成5年、佐久平尾山開発（株））によると、対象事業実施区域及びその周辺の傾斜地は、畜産が行われて採草地として利用されてきた履歴があるため、代償植生で占められている。

対象事業実施区域及びその周辺は、自然植生のブナ林からススキクラスの草地と一部薪炭林としてコナラ、ミズナラの林へと変遷してきた。さらに、カラマツなどの植林も進み、生物の生息環境は人為影響を受けてきた。

しかし、対象事業実施区域の位置する傾斜地は、周辺の市街地や耕作地に半島状に突き出たまとまった面積を持つ緑地であり、落葉広葉樹林を中心とした餌資源の供給が生物の生息環境を支えている。

傾斜地周辺の水田雑草群落や畑地雑草群落、対象事業実施区域一帯の森林域等に生育する植物を生産者として、第一次消費者としてはバッタ類やチョウ類等の草食性の昆虫類、ノウサギ、ニホンジカ等の草食性の哺乳類が、第二次消費者としてはトンボ類やオサムシ類等の肉食性昆虫類等が存在する。また、第二次消費者として昆虫類を捕食するコウモリ類も存在する。

第三次消費者としてはカラ類やキツツキ類等の鳥類、ネズミ類やニホンリス等の小型哺乳類、カエル類やカナヘビ等の両生・爬虫類が、第四次消費者としてはシマヘビ等のヘビ類が存在する。さらに、これらを餌とする最上位の消費者としてタカ類やフクロウ等の猛禽類やツキノワグマ、さらにテンやキツネ等の中型哺乳類が存在する。



### 3-5 自然環境の総合的な状況

対象事業実施区域のある佐久市一帯は盆地にあるため気温の較差が大きく、降水量が少ないなど、典型的な内陸性気候を示す高燥冷涼地である。

また、年間を通して晴天が多く、国内でも有数の日照時間が多い地域となっている。

最寄りの佐久地域気象観測所では、平均風速の平年値は年間を通じて概ね1m/sであり、季節による差異は小さい。風向は、秋季から冬季にかけて西北西、春季から夏季にかけて東北東の風が卓越している。

佐久市は、地形的には市街地が扇状地性低地及び砂礫台地に、東西の山地が小起伏山や台地に分類される。また、御代田町は浅間山の山麓地であり、対象事業実施区域は小起伏山地にあって御代田町側に開けている。

主たる水系は対象事業実施区域の北側を流れる湯川である。湯川は軽井沢町に発し、調査範囲を南西に流下して千曲川に合流する。

対象事業実施区域及びその周辺の植生は代償植生によって占められ、クリーミズナラ群落とカラマツ植林が優占している。

調査範囲内の生態系における上位種としては、猛禽類及びツキノワグマが挙げられる。

また、生態系の特徴をよく表す典型種としては、森林域に生息する中型哺乳類が挙げられる。

### 3-6 景観・文化財の状況

#### 1. 景観

##### 1) 自然景観資源

「第3回自然環境保全基礎調査－長野県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）によると、対象事業実施区域及びその周辺における自然景観資源として、浅間山火山群がある。

対象事業実施区域の南約1.5kmに位置する平尾富士は、妙義荒船山系の北端の八風山より西に伸びる支尾根の末端に位置する。平尾富士付近は、佐久盆地の東端に突き出るような位置にあり、佐久盆地に広がる佐久、小諸、御代田の各方面を見晴らす好位置にある。北側には上信越高原国立公園の浅間山を望み、南西側に八ヶ岳中信高原国立公園の八ヶ岳連峰を望む展望効果の高い場所である。

佐久盆地の景観を総体的に捉えると、主な景観資源としては、平尾富士、浅間山、八ヶ岳連峰が挙げられる。

##### 2) 主要な眺望景観

主要な眺望点を表3-3-10及び図3-3-12に示す。

対象事業実施区域及びその周辺における主要な眺望点としては、不特定かつ多数の人が利用している場所として、表3-3-10に示す計10地点が挙げられる。予備調査の結果、このうちNo.1平尾山公園及びNo.2平尾大社本殿については、対象事業実施区域方面を眺望することができないことを確認した。

したがって、この2地点を除く地点が主要な眺望点として位置づけられる。

表 3-3-10 主要な眺望点の状況

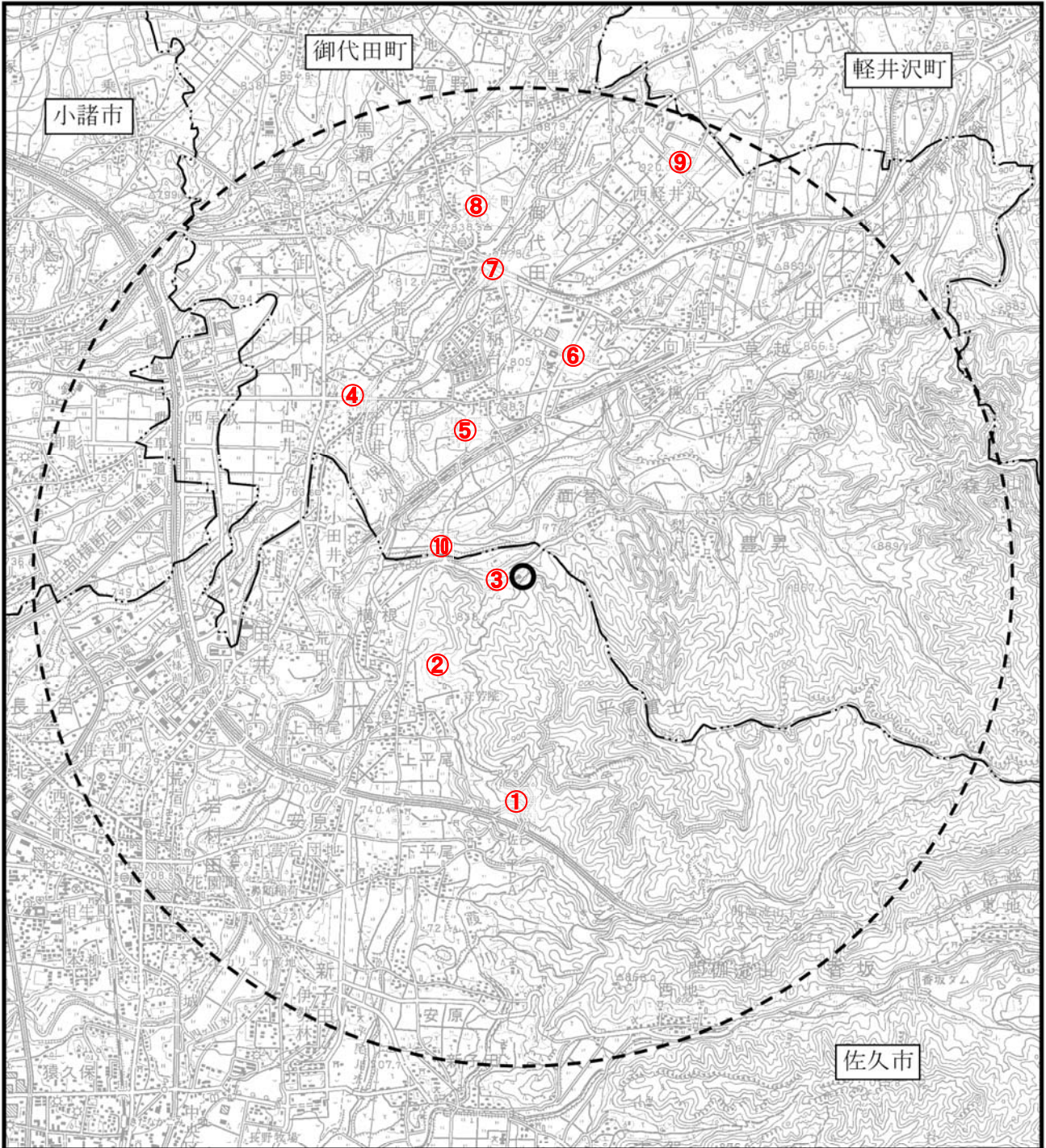
地点番号	名称	眺望の可否
1	平尾山公園	×
2	平尾大社本殿	×
3	佐久スキーガーデンパラダ (北パラダセンターハウス、ゲレンデ)	○
4	中山道小田井宿跡	○
5	飯綱タウン	○
6	雪窓公園	○
7	龍神の杜公園	○
8	御代田町役場	○
9	越生学園グランド付近	○
10	ふるさと大橋	○

注) 地点番号は、図 3-3-12 中の番号に対応する。

出典：全国遺跡地図－長野県（昭和 58 年、文化庁文化財保護部）

佐久市ホームページ「指定文化財一覧」

御代田町ホームページ「御代田町文化財一覧」

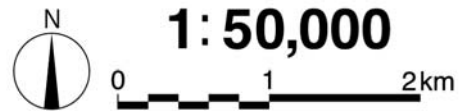


凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- ① : 主要な眺望点 (①～⑩)

—— : 市町界

図 3-3-12 主要な眺望点





## 2. 文化財

対象事業実施区域及びその周辺における指定文化財等は表3-3-11に、その分布状況を図3-3-13に示す。

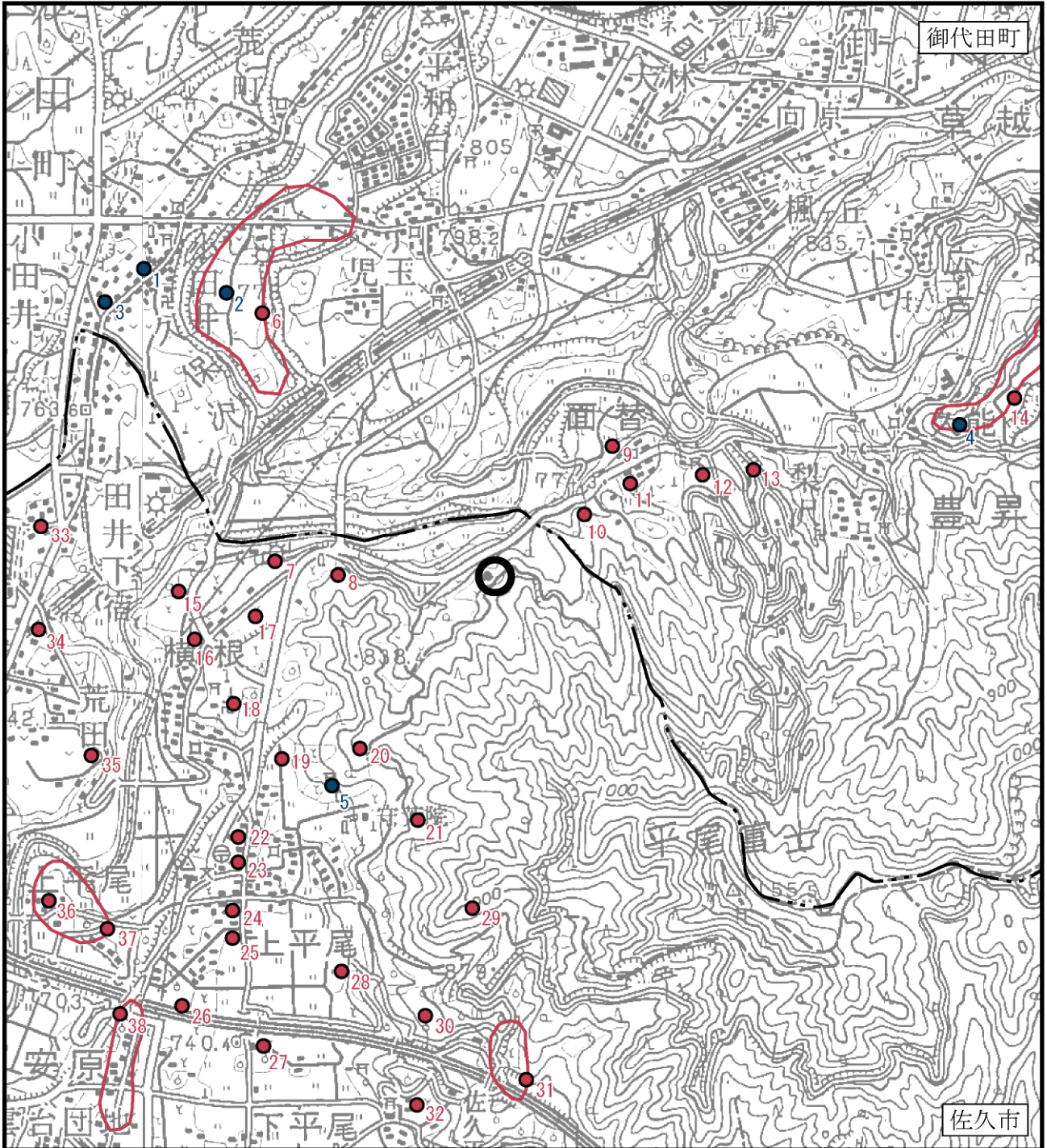
文化財の予備調査の範囲は、「長野県環境影響評価技術指針マニュアル」（平成19年8月、長野県）に準じて概ね半径1kmを含む範囲とした。

なお、動植物に係る文化財については、「3-4 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況」に記述した。

表 3-3-11 指定文化財等の状況

NO.	名 称	指 定	種 別	NO.	名 称	指 定	種 別
1	中山道小田井宿跡	御代田町	史 跡	21	矢沢古墳群	—	埋蔵文化財
2	小田井城址	御代田町	史 跡	22	宿遺跡	—	埋蔵文化財
3	小田井の道祖神まつり	御代田町	民 俗 資 料	23	宿古墳	—	埋蔵文化財
4	宮平遺跡	御代田町	史 跡	24	塚畑遺跡	—	埋蔵文化財
5	平尾大社本殿	佐 久 市	有 形 文 化 財	25	塚畑古墳	—	埋蔵文化財
6	小田井城跡	—	埋蔵文化財	26	東大久保遺跡	—	埋蔵文化財
7	上長坂古墳	—	埋蔵文化財	27	宮前遺跡	—	埋蔵文化財
8	輪子古墳群	—	埋蔵文化財	28	北山寺遺跡	—	埋蔵文化財
9	北屋敷遺跡	—	埋蔵文化財	29	城古墳群	—	埋蔵文化財
10	下屋敷遺跡	—	埋蔵文化財	30	一本松古墳群	—	埋蔵文化財
11	面替遺跡	—	埋蔵文化財	31	丸山古墳群	—	埋蔵文化財
12	小谷ヶ沢遺跡	—	埋蔵文化財	32	伴助久保遺跡	—	埋蔵文化財
13	清水平遺跡	—	埋蔵文化財	33	東駒込遺跡	—	埋蔵文化財
14	宮平遺跡	—	埋蔵文化財	34	島原古墳	—	埋蔵文化財
15	伊勢石古墳	—	埋蔵文化財	35	からむし2号墳	—	埋蔵文化財
16	十二の平古墳	—	埋蔵文化財	36	潰石古墳	—	埋蔵文化財
17	塚原古墳群	—	埋蔵文化財	37	潰石遺跡	—	埋蔵文化財
18	上の原古墳群	—	埋蔵文化財	38	西大久保遺跡	—	埋蔵文化財
19	矢口古墳群	—	埋蔵文化財				
20	平古墳群	—	埋蔵文化財				

出典：「全国遺跡地図—長野県」（昭和58年、文化庁文化財保護部）  
 佐久市ホームページ「指定文化財一覧」  
 御代田町ホームページ「御代田町文化財一覧」



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市及び町指定文化財
- : 埋蔵文化財

----- : 市町界

図 3-3-13  
指定文化財等の分布状況

出典：「全国遺跡地図—長野県」  
(昭和 58 年、文化庁文化財保護部)  
佐久市ホームページ「指定文化財一覧」  
御代田町ホームページ「御代田町文化財一覧」



### 3-7 触れ合い活動の場の状況

#### 1. 触れ合い活動の場の資源状況

佐久市は、妙義荒船佐久高原国定公園や八ヶ岳中信高原国定公園といった国定公園や内山牧場、内山峡、田口峠、大河原峠、春日溪谷などの豊かな自然に囲まれていることから、自然との触れ合い活動の場は豊富である。

対象事業実施区域及びその周辺においては、図3-3-14に示す佐久スキーガーデンパラダ、平尾山公園と昆虫体験学習館、王城公園などが主な触れ合い活動の場として位置づけられる。

佐久スキーガーデンパラダは、ゲレンデが「南パラダ」と「北パラダ」の2つのエリアで構成され、山頂で連絡しており、6つのコースが整備されている。

平尾山公園は、センターハウスを中心施設として、昆虫についての総合的な学びの場である昆虫体験学習館やカブトムシドーム、森林セラピーロードなどを備えている。

王城公園には、県の天然記念物に指定されているケヤキの巨木があり、地域の憩いと交流の場として利用されている。

御代田町では、龍神の杜公園、雪窓公園などが代表的な自然との触れ合い活動の場となる。

なお、対象事業実施区域周辺の北東から南西にかけて、中部北陸自然歩道の「浅間を望む佐久平のみち」が通っている。

#### 2. 触れ合い活動の場の利用状況

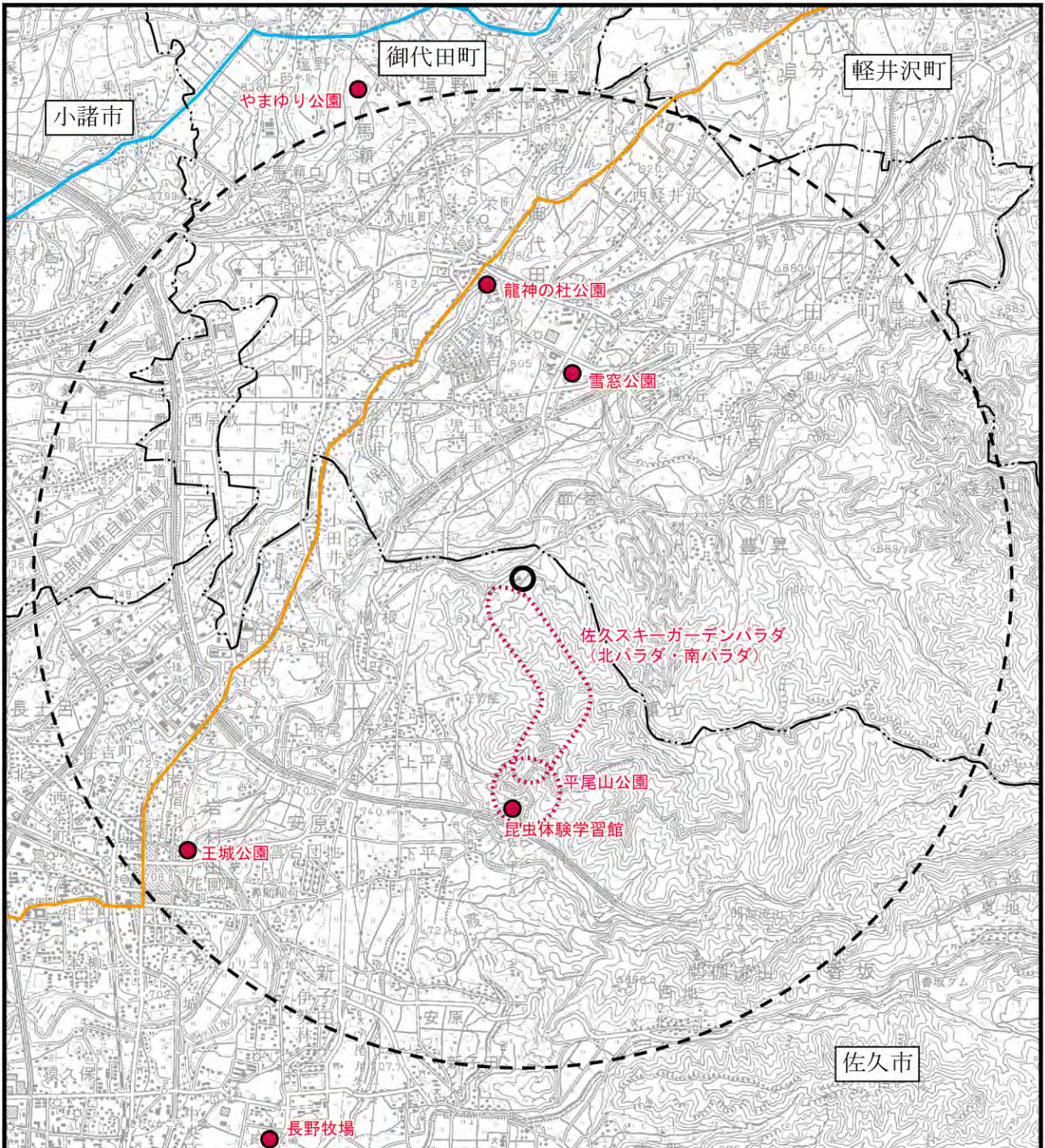
対象事業実施区域の周辺には、佐久スキーガーデンパラダと平尾山公園がある。

佐久スキーガーデンパラダへの来場者数は、「佐久市統計書 平成24年版」によると、平成22年度188,444人、平成23年度214,572人、平成24年度232,584人となっており、平成22年度以降は増加傾向にある。

平尾山公園への来場者数は、「佐久市統計書 平成24年版」によると、平成22年565,600人、平成23年534,700人、平成24年540,200人となっており、年によって変動が認められる。

また、御代田町内の主な触れ合い活動の場としては、龍神の杜公園、雪窓公園、やまゆり公園の3つがある。利用者数及び来場者数は把握されていないが、町内外を問わず、児童の社会科見学や遠足、町内のお祭り会場などで使用されているほか、休日には多くの家族連れで賑わう、憩いの場となっている。





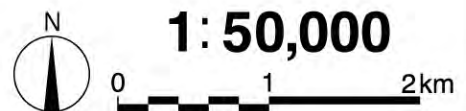
凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- (red dotted) : 主な触れ合いの活動の場
- (blue) : 中部北陸自然歩道「浅間高原追分のみち」
- (orange) : 中部北陸自然歩道「浅間を望む佐久平のみち」
- : 市町界

図 3-3-14

主な触れ合いの活動の場の  
分布状況

出典：佐久市ホームページ「観光情報」  
御代田町ホームページ「公園」  
「中部北陸自然歩道」（長野県）



### 3-8 大気質・水質の状況

#### 1. 公害苦情の状況

佐久市における公害苦情の状況を表3-3-12(1)に示す。平成24年度の公害苦情件数は132件であるが、野焼きなどに関する受理件数が多い。

表 3-3-12 (1) 公害苦情件数の推移 (佐久市)

年度	種類別公害苦情件数					
	総数	大気汚染	水質汚濁	騒音・振動	悪臭	その他
平成13年度	149	73	36	15	13	12
14	158	50	32	12	23	41
15	185	56	25	8	26	70
16	189	31	22	12	16	108
17	143	88	23	13	8	11
18	255	125	28	19	16	67
19	234	127	34	14	8	51
20	225	135	32	10	22	26
21	212	115	30	10	15	42
22	105	55	14	4	9	23
23	125	28	25	14	6	52
24	132	52	26	15	7	32

注) 大気汚染に関する苦情の内容は、野焼き等廃棄物の不適正処理など  
出典：佐久市ホームページ「佐久市統計書 平成24年版」

御代田町における苦情・相談の状況を表 3-3-12 (2) に示す。日常生活における野焼きの苦情・相談が多い。

表 3-3-12 (2) 苦情・相談件数の推移 (御代田町)

年度	種類別苦情・相談件数					
	総数	大気汚染	水質汚濁	騒音・振動	悪臭	その他
平成21年度	17	11	1	0	5	0
22	20	19	0	0	0	1
23	16	15	1	0	0	0
24	39	31	5	1	1	1

出典：御代田町町民課

## 2. 大気質

### 1) 大気汚染測定局

対象事業実施区域及びその周辺の、大気汚染測定局の配置状況及び平成24年度時点の測定項目を表3-3-13(1)、(2)に、これらの位置を図3-3-15に示す。

対象事業実施区域の近傍には測定局はないが、佐久測定局と小諸測定局が最も近い一般環境大気測定局（一般局）として位置づけられる。

また、自動車排ガス測定局（自排局）として、平成24年度から移動コンテナ局による測定が佐久市浅間中学西交差点で行われている。さらに、佐久市中込で大気環境測定車による測定が行われているため、この結果も併せて記載した。

表 3-3-13(1) 大気汚染測定局整備状況（平成 24 年度）

測定局 区分	測定局	注) 用途地域	測定項目														
			二酸化硫黄	一酸化窒素	二酸化窒素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	メタン	非メタン炭化水素	風向	風速	温度	湿度	日射量	紫外線量	
一般環境 大気	佐久	未	○	○	○	○	○	○				○	○				
	小諸	準工		○	○	○						○	○				

注) 用途地域の略号は、都市計画法第8条に定める以下の用途区分を示す。

準工：準工業地域 未：用途地域を定めない地域

出典：長野県ホームページ「長野県の大気状況」、長野県環境部水大気環境課資料

表 3-3-13(2) 大気汚染測定局整備状況（平成 24 年度、移動局）

測定局 区分	測定局	測定項目							
		二酸化硫黄	一酸化窒素	二酸化窒素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	風向	風速
自動車 排出ガス	佐久市浅間中学 西交差点 <sup>注1)</sup>	○	○	○		○		○	○
一般環境 大気	佐久市中込 <sup>注2)</sup>	○	○	○	○	○	○	○	○

注1) 佐久市浅間中学西交差点は、移動コンテナ局による測定。

注2) 佐久市中込は、大気環境測定車による測定。測定期間は平成24年11月19日～12月20日。

出典：長野県ホームページ「長野県の大気状況」、長野県環境部水大気環境課資料



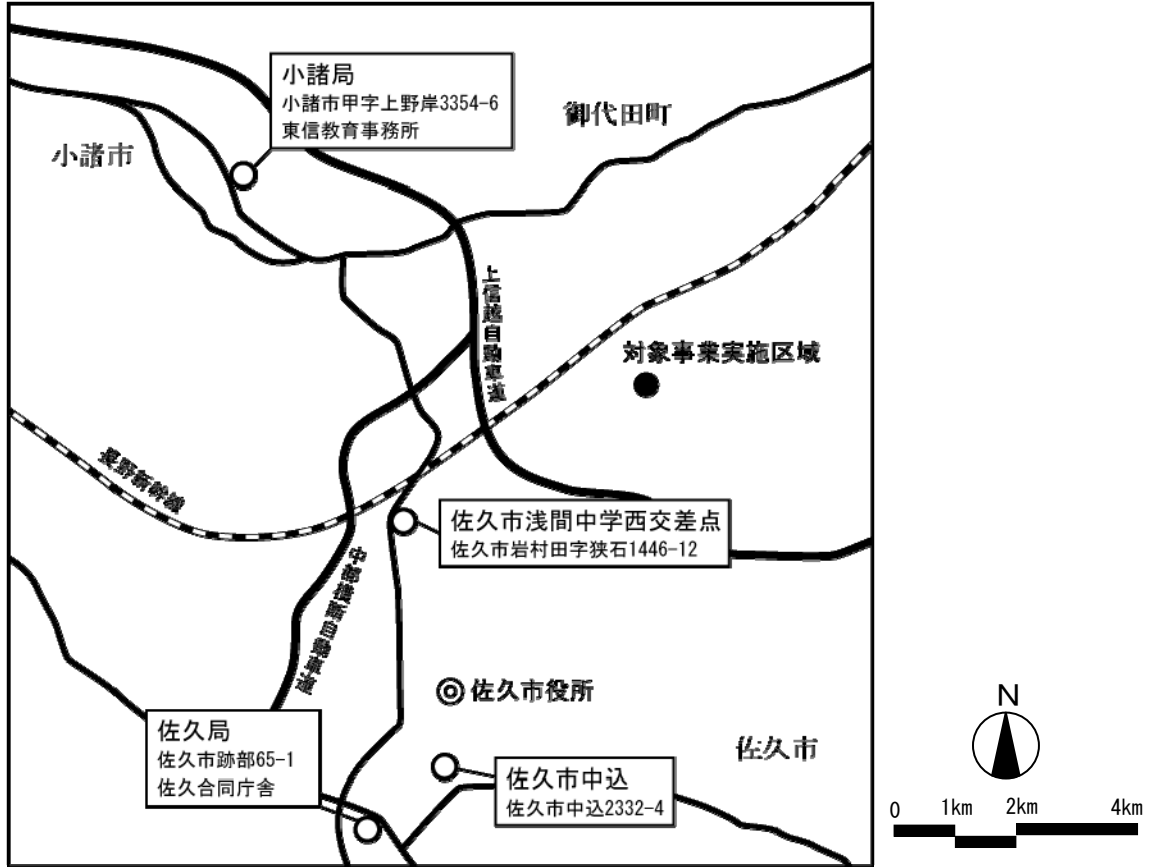


图 3-3-15 大氣污染測定局位置图

## 2) 二酸化硫黄

対象事業実施区域周辺の一般局における平成24年度の測定結果は表3-3-14(1)に、平成20年度～平成24年度の年平均値の経年変化は、図3-3-16に示すとおりである。

小諸局では、平成23年度及び24年度は測定を実施していないため、参考として平成22年度の測定結果を掲載した。

また、対象事業実施区域周辺の自排局における平成24年度の測定結果は表3-3-14(2)に示すとおりである。

いずれの地点においても、環境基準を達成している。

表 3-3-14(1) 二酸化硫黄の測定結果（平成 24 年度、一般局）

測定局・測定地点名	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数
				時間	%	日	%				
佐久	364	8733	0.003	0	0	0	0	0.016	0.005	○	0
小諸 <sup>注1)</sup>	363	8725	0.004	0	0	0	0	0.016	0.007	○	0
佐久市中込 <sup>注2)</sup>	30	715	0.000	0	0	0	0	0.002	0.001	○	0

注1) 小諸局では、平成23年度及び24年度は調査を実施していないため、平成22年度の測定結果を掲載した。

注2) 佐久市中込は、大気環境測定車による測定である（測定期間：平成24年11月19日～12月20日）。また、「年平均値」に記載している値は、期間平均値である。

注3) 二酸化硫黄の環境基準の評価方法は、「1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること」である。

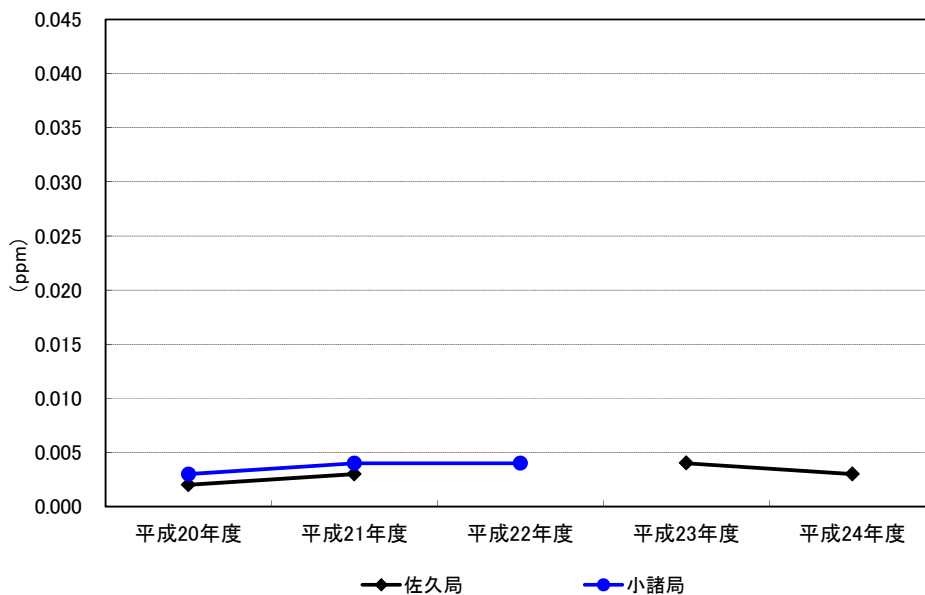
出典：長野県ホームページ「平成24年度大気汚染等測定結果」

表 3-3-14(2) 二酸化硫黄の測定結果（平成 24 年度、自排局）

測定局・測定地点名	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数
				時間	%	日	%				
佐久市浅間中学西交差点	362	8725	0.003	0	0	0	0	0.011	0.006	○	0

注) 二酸化硫黄の環境基準の評価方法は、「1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること」である。

出典：長野県ホームページ「平成24年度大気汚染等測定結果」



注1) 経年的に通年調査が実施されている佐久局及び小諸局の調査結果を示す。

注2) 佐久局では平成22年度、小諸局では平成23年度及び24年度は二酸化硫黄の調査を実施していない。

図 3-3-16 二酸化硫黄の年平均値経年変化

### 3) 二酸化窒素

対象事業実施区域周辺の一般局における平成24年度の測定結果は表3-3-15(1)に、平成20年度～平成24年度の年平均値の経年変化は、図3-3-17に示すとおりである。

また、対象事業実施区域周辺の自排局における平成24年度の測定結果は表3-3-15(2)に示すとおりである。

いずれの地点においても、環境基準を達成している。

表 3-3-15(1) 二酸化窒素の測定結果（平成24年度、一般局）

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数
					日	%	日	%		
佐久	364	8689	0.008	0.047	0	0	0	0	0.017	0
小諸	355	8606	0.007	0.056	0	0	0	0	0.019	0
佐久市 <sup>注1)</sup> 中込	30	715	0.012	0.042	0	0	0	0	0.018	0

注1) 佐久市中込は、大気環境測定車による測定である（測定期間：平成24年11月19日～12月20日）。また、「年平均値」に記載している値は、期間平均値である。

注2) 二酸化窒素の環境基準の評価方法は、「1日平均値の年間98%値が0.06ppm以下であること」である。

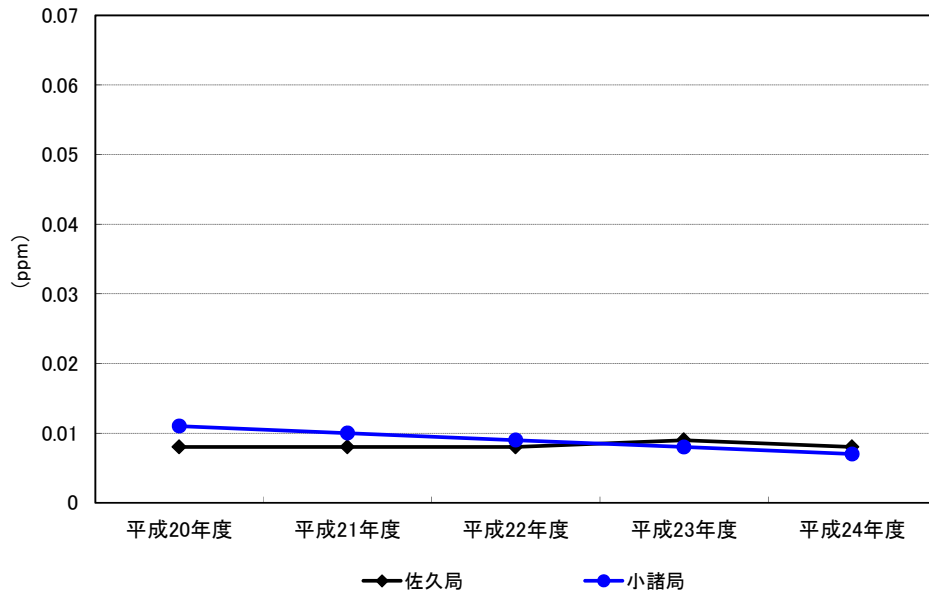
出典：長野県ホームページ「平成24年度大気汚染等測定結果」

表 3-3-15(2) 二酸化窒素の測定結果（平成24年度、自排局）

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数
					日	%	日	%		
佐久市 浅間中学 西交差点	364	8681	0.013	0.061	0	0	0	0	0.025	0

注) 二酸化窒素の環境基準の評価方法は、「1日平均値の年間98%値が0.06ppm以下であること」である。

出典：長野県ホームページ「平成24年度大気汚染等測定結果」



注) 経年的に通年調査が実施されている佐久局及び小諸局の調査結果を示す。

図 3-3-17 二酸化窒素の年平均値経年変化



#### 4) 浮遊粒子状物質

対象事業実施区域周辺の一般局における平成24年度の測定結果は表3-3-16(1)に、平成20年度～平成24年度の年平均値の経年変化は、図3-3-18に示すとおりである。

小諸局では、平成23年度及び24年度は測定を実施していないため、参考として平成22年度の測定結果を掲載した。

また、対象事業実施区域周辺の自排局における平成24年度の測定結果は表3-3-16(2)に示すとおりである。

いずれの地点においても、環境基準を達成している。

表 3-3-16(1) 浮遊粒子状物質の測定結果（平成 24 年度、一般局）

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日数
				時間	%	日	%				
佐久	363	8713	0.013	0	0	0	0	0.173	0.031	○	0
小諸 <sup>注1)</sup>	364	8746	0.014	0	0	0	0	0.122	0.037	○	0
佐久市中込 <sup>注2)</sup>	30	720	0.011	0	0	0	0	0.050	0.019	○	0

注1) 小諸局では、平成23年度及び24年度は調査を実施していないため、平成22年度の測定結果を掲載した。

注2) 佐久市中込は、大気環境測定車による測定である（測定期間：平成24年11月19日～12月20日）。また、「年平均値」に記載している値は、期間平均値である。

注3) 浮遊粒子状物質の環境基準の評価方法は、「1日平均値の年間2%除外値を環境基準と比較して評価を行う。ただし、上記の評価方法にかかわらず環境基準を超える日が2日以上連続した場合には非達成とする。」である。

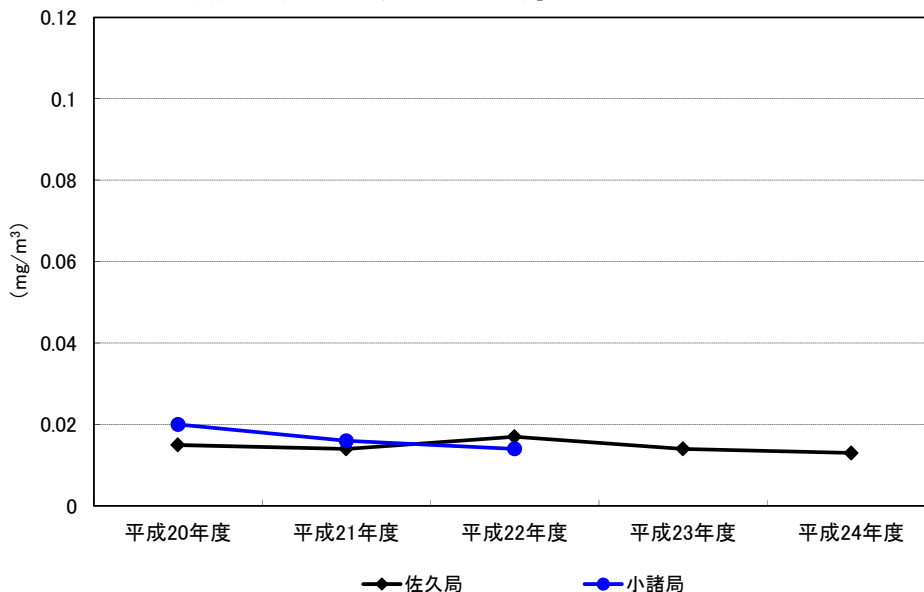
出典：長野県ホームページ「平成24年度大気汚染等測定結果」

表 3-3-16(2) 浮遊粒子状物質の測定結果（平成 24 年度、自排局）

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日数
				時間	%	日	%				
佐久市浅間中学西交差点	328	7980	0.028	1	0	0	0	0.248	0.056	○	0

注1) 浮遊粒子状物質の環境基準の評価方法は、「1日平均値の年間2%除外値を環境基準と比較して評価を行う。ただし、上記の評価方法にかかわらず環境基準を超える日が2日以上連続した場合には非達成とする。」である。

出典：長野県ホームページ「平成24年度大気汚染等測定結果」



注1) 経年的に通年調査が実施されている佐久局及び小諸局の調査結果を示す。

注2) 小諸局では平成23年度及び24年度は二酸化硫黄の調査を実施していない。

図 3-3-18 浮遊粒子状物質の年平均値経年変化

## 5) 光化学オキシダント

対象事業実施区域周辺の一般局における平成24年度の測定結果は表3-3-17に、平成20年度～平成24年度の昼間の1時間値の年平均値の経年変化は、図3-3-19に示すとおりである。

また、平成20年度～平成24年度の環境基準超過日数は、表3-3-18に示すとおりである。

平成24年度は、昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日が佐久局で40日、小諸局で106日あり、環境基準を達成していない。

表 3-3-17 光化学オキシダントの測定結果（平成 24 年度、一般局）

測定局	昼間の測定日数	昼間の測定時間	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数		昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数		昼間の1時間値の最高値
	日	時間	ppm	日	時間	日	時間	ppm
佐久	365	5456	0.033	40	169	0	0	0.093
小諸	365	5455	0.039	106	585	1	1	0.12
佐久市中込 <sup>注1)</sup>	30	450	0.025	0	0	0	0	0.042

注 1) 佐久市中込は、大気環境測定車による測定である（測定期間：平成 24 年 11 月 19 日～12 月 20 日）。また、「年平均値」に記載している値は、期間平均値である。

注 2) 光化学オキシダントの環境基準の評価方法は、「1 時間値が 0.06ppm 以下であること」である。

出典：長野県ホームページ「平成 24 年度大気汚染等測定結果」

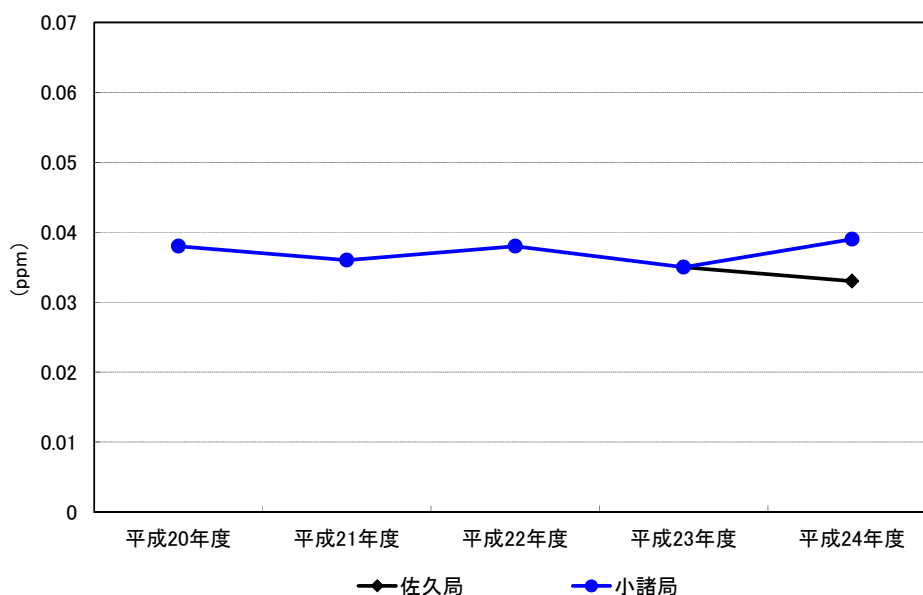
表 3-3-18 環境基準超過日数（平成 20 年度～24 年度）

測定局	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
佐久	-	-	-	63	40
小諸	102	80	83	59	106

注 1) 佐久局では平成 23 年度から光化学オキシダントの調査が実施されている。

注 2) 昼間の 1 時間値が光化学オキシダントの環境基準（0.06ppm）を超過した日数

出典：長野県ホームページ「平成 24 年度大気汚染等測定結果」



注 1) 経年的に通年調査が実施されている佐久局及び小諸局の調査結果を示す。

注 2) 佐久局では平成 23 年度から光化学オキシダントの調査が実施されている。

図 3-3-19 光化学オキシダントの昼間 1 時間値の年平均値経年変化

## 6) 微小粒子状物質

対象事業実施区域周辺の一般局における平成24年度の測定結果は表3-3-19に、平成23年度、平成24年度の年平均値の経年変化は、図3-3-20に示すとおりである。

平成24年度は、佐久局では日平均値が $35.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日が1日あるものの、日平均値の98%値は $25.3 \mu\text{g}/\text{m}^3$ となっており、環境基準を達成している。

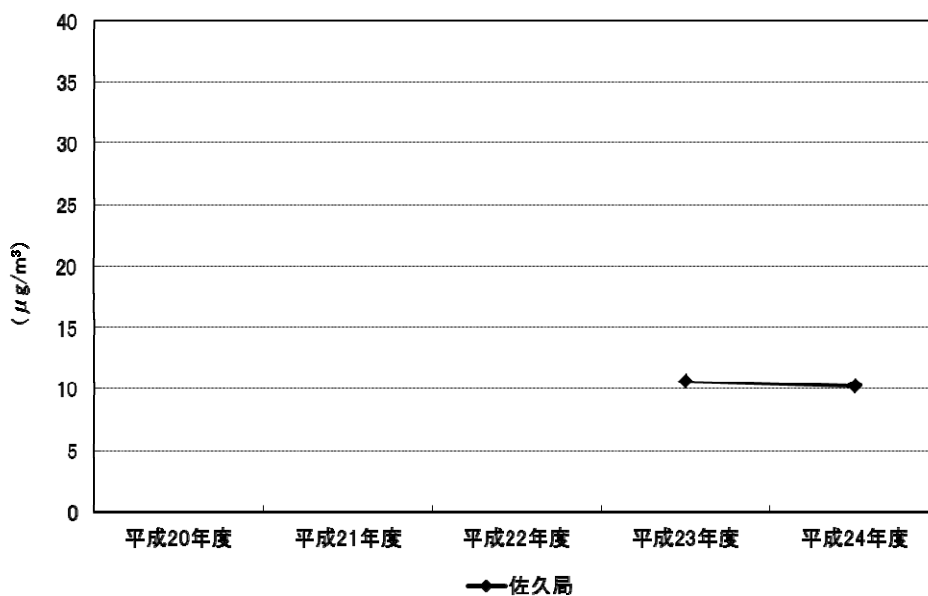
表 3-3-19 微小粒子状物質の測定結果（平成24年度、一般局）

測定局	有効測定日数	測定時間 時間	年 (期間) 平均値	日平均値 の最高値	日平均値が $35.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		1時間値 の最高値	日平均値 の98%値	98%値評価に よる日平均値 が $35.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数
	日		$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日	%	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日
佐久	360	8675	10.2	39.3	1	0.3	129	25.3	0
佐久市中込 <sup>注1)</sup>	30	720	8.6	18.7	0	0.0	56	18.0	0

注1) 佐久市中込は、大気環境測定車による測定である（測定期間：平成24年11月19日～12月20日）。また、「年平均値」に記載している値は、期間平均値である。

注2) 微小粒子状物質の環境基準の評価方法は、「1年平均値が  $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$  であり、かつ、日平均値の年間98%値が  $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$  以下であること」である。

出典：長野県ホームページ「平成24年度大気汚染等測定結果」



注) 経年的に通年調査が実施されている佐久局の調査結果を示す。

図 3-3-20 微小粒子状物質の年平均値経年変化

## 7) 有害大気汚染物質

佐久局及び小諸局とも有害大気汚染物質の測定は実施していない。

## 8) ダイオキシン類

佐久局及び小諸局ともダイオキシン類の測定は実施していない。



### 3. 騒音

#### 1) 自動車騒音に係る面的評価

対象事業実施区域及びその周辺における平成21年度～24年度の自動車騒音の状況を表3-3-20(1)、(2)に、騒音調査地点の位置図を図3-3-21に示す。対象事業実施区域周辺では平成21年度と24年度に調査が実施されており、平成21年度調査は長野県が、平成24年度調査は市域について佐久市及び小諸市が調査実施機関となっている。

面的評価について、対象事業実施区域の面している草越佐久豊昇線（番号12304）では、昼夜間とも基準値以下が100.0%であった。

表 3-3-20 (1) 自動車騒音の常時監視結果（点的評価）

番号	路線名	測定地点の住所	調査年度	等価騒音レベル(dB)		環境類型	車線数	備考
				昼	夜			
1	上信越自動車道	佐久市上平尾 770	H21	71	71	—	4	点的調査
2	一般国道 141 号	佐久市岩村田 1361	H21	68	64	B	4	
			H23	68	63	B	4	
3	佐久軽井沢線	佐久市岩村田 804	H23	69	64	C	2	
4	一般国道 18 号線	御代田町大字馬瀬口 1597-40	H24	73	71	—	2	
5	上信越自動車道	佐久市岩村田	H24	56	56	A	4	
6	上信越自動車道	佐久市岩村田	H24	59	56	C	4	
7	草越豊昇佐久線	佐久市上平尾	H24	65	56	A	2	

注) 表中の番号は、図 3-3-21 に対応している。

出典：独立行政法人国立環境研究所ホームページ「環境展望台－自動車騒音の常時監視結果」  
長野県ホームページ「平成 24 年度大気汚染等測定結果」

表 3-3-20 (2) 自動車騒音の常時監視結果（面的評価）

番号	路線名	調査年度	評価区間延長	住宅等戸数	昼夜間とも基準値以下		昼間のみ基準値以下		夜間のみ基準値以下		昼夜間とも基準超過	
					戸	%	戸	%	戸	%	戸	%
2640	上信越自動車道	H21	2.1	1	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2648	上信越自動車道	H21	0.4	4	3	75.0	1	25.0	0	0.0	0	0.0
2650	一般国道 141 号	H21	1.8	57	54	94.7	2	3.5	0	0.0	1	1.8
1218	一般国道 18 号	H24	1.4	28	24	85.71	3	10.71	0	0	1	3.57
1228	一般国道 18 号	H24	0.1	11	11	100	0	0	0	0	0	0
1229	一般国道 18 号	H24	0.8	24	14	58.33	10	41.67	0	0	0	0
1230	一般国道 18 号	H24	0.3	23	23	100	0	0	0	0	0	0
1231	一般国道 18 号	H24	1	50	32	64	16	32	0	0	2	4
1232	一般国道 18 号	H24	0.2	14	12	85.71	2	14.29	0	0	0	0
1233	一般国道 18 号	H24	0.4	26	21	80.77	5	19.23	0	0	0	0
1234	一般国道 18 号	H24	0.3	3	3	100	0	0	0	0	0	0
12228	上信越自動車道	H24	3.2	3	3	100	0	0	0	0	0	0
12229	上信越自動車道	H24	2.7	42	42	100	0	0	0	0	0	0
12296	上信越自動車道	H24	0.8	1	1	100	0	0	0	0	0	0
12297	上信越自動車道	H24	0.2	13	5	38.46	6	46.15	0	0	2	15.38
12298	上信越自動車道	H24	0.2	18	18	100	0	0	0	0	0	0
12300	上信越自動車道	H24	0.7	56	56	100	0	0	0	0	0	0
12301	上信越自動車道	H24	0.6	4	4	100	0	0	0	0	0	0
12302	上信越自動車道	H24	0.4	4	4	100	0	0	0	0	0	0
12304	草越豊昇佐久線	H24	4.6	246	246	100	0	0	0	0	0	0
12305	草越豊昇佐久線	H24	0.2	33	33	100	0	0	0	0	0	0

注) 表中の番号は、図 3-3-21 に対応している。

出典：独立行政法人国立環境研究所ホームページ「環境展望台－自動車騒音の常時監視結果」

## 2) 佐久市測定結果

佐久市では、上信越自動車道を対象とした道路交通騒音の測定を行っている。平成24年度の測定結果を表3-3-21に、測定地点は図3-3-21に示す。

すべての地点、時間帯ともに環境基準を達成している。

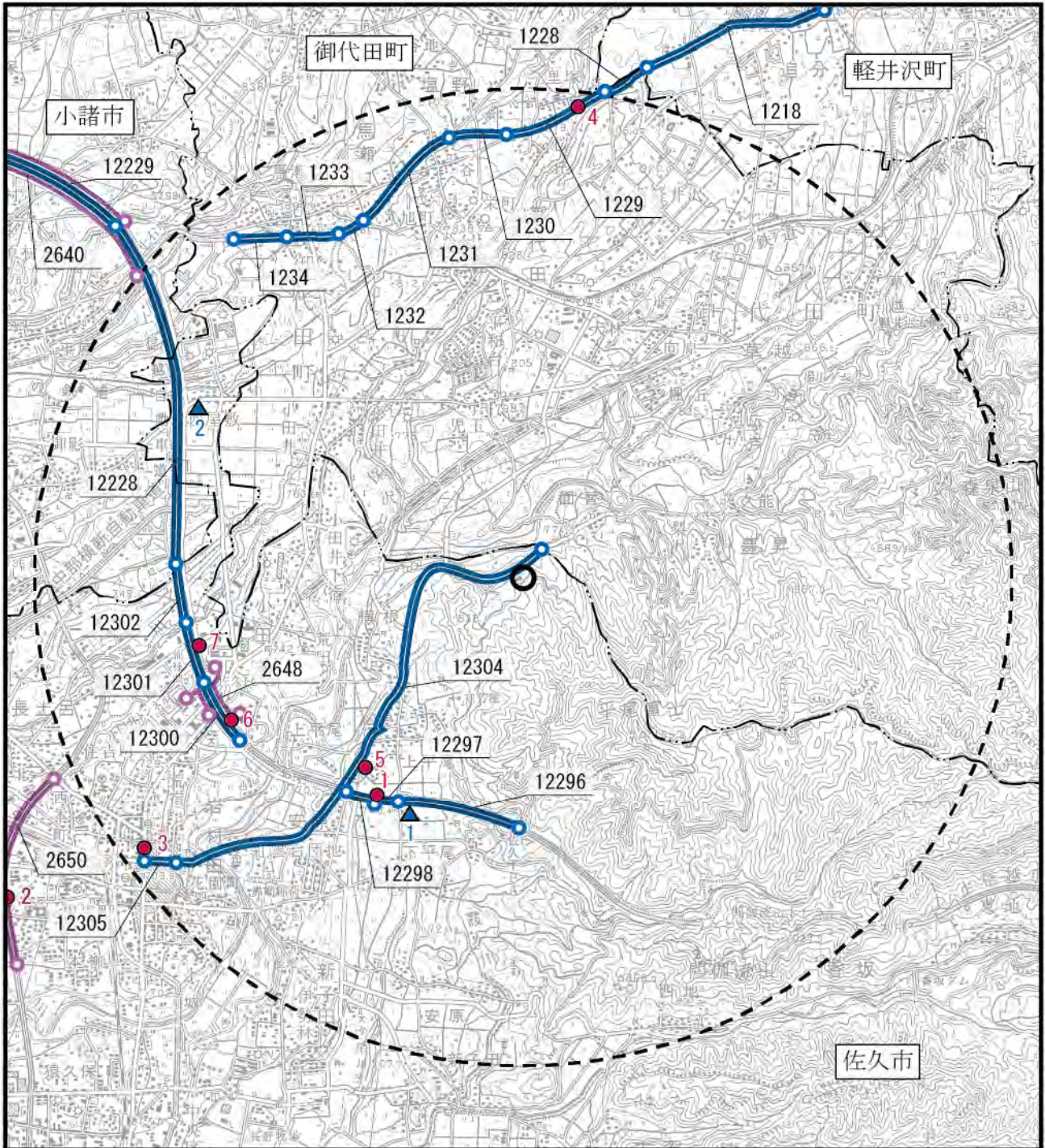
表3-3-21 上信越自動車道を対象とした道路交通騒音測定結果（平成24年度）

単位：dB (A)

番号	測定地点名	等価騒音レベル		環境基準	
		昼間 6:00～22:00	夜間 22:00～翌6:00	昼間 6:00～22:00	夜間 22:00～翌6:00
1	柴宮神社	51.8	51.7	70	65
2	西屋敷集会所	47.9	51.0		

注) 表中の番号は、図3-3-21に対応している。

出典：佐久市生活環境課資料



凡 例

- : 対象事業実施区域
- ⋯⋯ : 関係地域範囲
- : 点的評価測定地点
- : 面的評価区間 (H21)
- : 面的評価区間 (H24)
- ▲ : 佐久市測定地点

—— : 市町界

図 3-3-21

騒音調査地点位置図

出典：独立行政法人国立環境研究所ホームページ  
「環境展望台-自動車騒音の常時監視結果」



#### 4. 振 動

対象事業実施区域及びその周辺では、振動に係る既存資料はない。

#### 5. 低周波音

対象事業実施区域及びその周辺では、低周波音に関する既存資料はない。

#### 6. 悪 臭

対象事業実施区域及びその周辺では、悪臭に関する既存資料はない。

#### 7. 水 質

対象事業実施区域及びその周辺では、長野県による公共用水域における水質測定は行われていない。

対象事業実施区域から最も至近の環境基準点は、対象事業実施区域の北側を流れる湯川における測定地点（高瀬橋）であり、参考までに本地点における水質測定結果を表3-3-22に示す。

平成24年度の河川の環境基準の達成状況は、生物化学的酸素要求量（BOD）、溶存酸素量（DO）、浮遊物質量（SS）については、環境基準を達成しているが、水素イオン濃度（pH）及び大腸菌群数については環境基準を達成していない。

表 3-3-22 河川水質調査結果

水域	測定地点	類型	年度	BOD (mg/L)		pH		DO (mg/L)		SS (mg/L)		大腸菌群数 (MPN/100mL)	
				75%値	年 平均値	(最小値～ 最大値)	(最小値～ 最大値)	年 平均値	(最小値～ 最大値)	年 平均値	(最小値～ 最大値)	年 平均値	
湯川	高瀬橋	A	20	0.7	0.7	7.0～8.5	8.0～14	10	2～16	7	$4.3 \times 10^2$ ～ $4.3 \times 10^4$	$1.4 \times 10^4$	
			21	1.7	1.4	6.8～ <u>8.6</u>	9.0～14	11	3～11	6	$2.3 \times 10^3$ ～ $7.9 \times 10^4$	$2.7 \times 10^4$	
			22	0.9	0.9	7.9～ <u>8.8</u>	8.7～13	11	3～17	7	$4.9 \times 10^2$ ～ $5.4 \times 10^4$	$1.6 \times 10^4$	
			23	0.9	0.9	7.7～ <u>8.6</u>	8.3～13	11	3～ <u>42</u>	9	$4.9 \times 10^2$ ～ $3.3 \times 10^4$	$6.7 \times 10^3$	
			24	1.0	0.8	7.5～8.8	8.5～13	10	3～19	7	$1.1 \times 10^3$ ～ $1.1 \times 10^5$	$1.6 \times 10^4$	

注1) 下線は環境基準を超える値（pHは環境基準値の範囲外の値）であることを示す。

注2) A類型の環境基準は以下のとおりである。

BOD：2mg/L以下      pH：6.5以上、8.5以下      DO：7.5mg/L以上      SS：25mg/L以下

大腸菌群数：1000MPN/100mL以下

出典：長野県ホームページ「公共用水域水質常時監視結果」



## 8. 地下水

対象事業実施区域の近傍には、地下水に関する既存資料はない。

## 9. 土壌汚染

### 1) 農用地

佐久市では、「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」に基づく農用地土壌汚染対策地域の指定を受けている農用地はない。

### 2) 市街地

佐久市における「土壌汚染対策法」に基づく指定区域はない。

## 10. 地盤沈下

佐久市及び周辺域における地盤沈下の報告はない。

